

42808

教科書文庫

4
290
41-1917
20000 24203

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

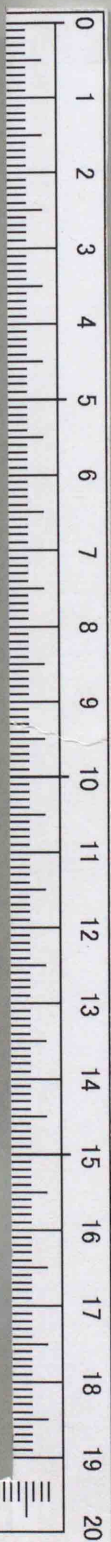
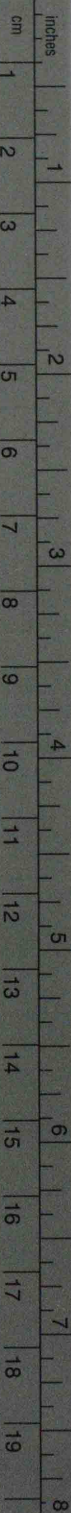


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



375.9
K02
資料室

小林房太郎著

新地理

中學用

本日全

東京
文藝社

教
4
20



大正七年版
文部省檢定済

教科書文庫
4
290
41-1917
2000024203

新地理

本 目

全 學 中
用

小 林 房 太 郎
著

東 京
文 學 社

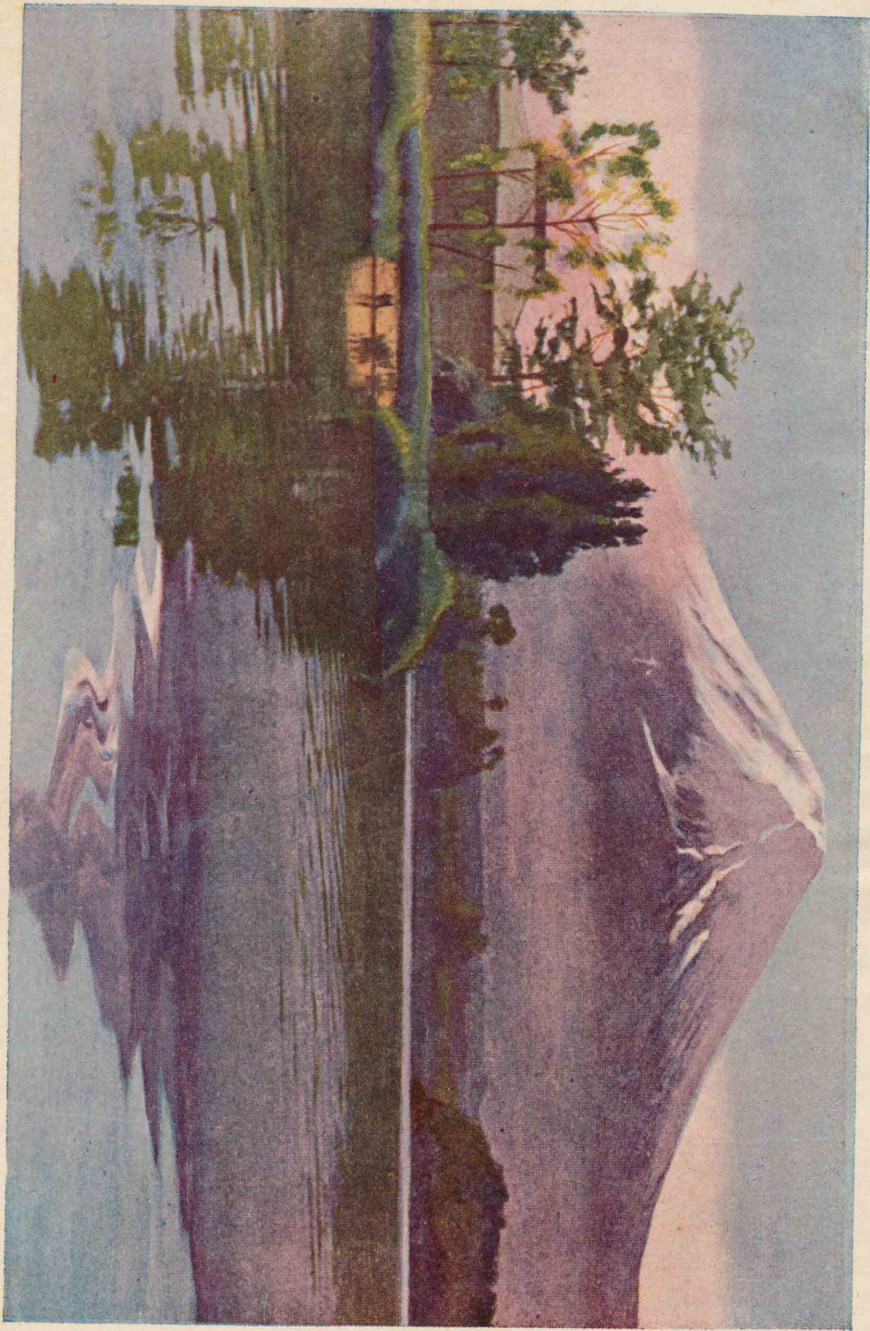
広島大学図書

2000024203



資料室

3759
k02



富士山を九見り湖河口

廣島大學
圖書印

廣島大學
教
24203
圖書

例言

- 一、本書は中學校及びこれに準ずべき諸學校の日本地理教科用に充てんが爲めに編纂せるものなり。
- 二、本書は文部省發布の中學校教授要目に準據し第一編緒論、第二編地方誌、第三編總説の三部に分ち第一編に於ては帝國の位置面積を説き第二編に於ては全國を十一地方に分ちて之を詳述し最後の第三編に於ては本邦の自然人文兩地理に關する總説事項を説けり。
- 三、本書編纂上に就き特に留意せし諸點次の如し。
 - 一、最近の學説最新の事實を基礎とし努めて内容を精選したるも其の文辭を簡約にし以て教授者をして之が活用の餘地を十分ならしめんとせり。

- 一 文章は極めて平易ならしめ生徒をして讀書上の困難を免れしめんことに留意せり。
- 一 歴史との聯絡を十分ならしめ又所所に國歌を挿入して自然人文兩事項の調和に努め尙他學科との關聯上にも趣味心情を惹起せしむるに留意せり。
- 一 主要なる事項並に物産等は之を圖表に現はし之が概念を直感的に取得せしめんことに留意せり。
- 一 統計は其の種類により總て最近の數量又は最近數年間の平均數を採りたり然れども其の數字の甚だしく詳細に渉るは單に生徒を苦しましむるに過ぎざるを以て之を省略せるもの多し。
- 一 教材の分量は實地教授の經驗に基き一週二時間四十週以内に教授し終るべく配當せり。

四、本書發行の趣旨以上の如し、然れども尙數多の缺點なきを保せず

新版日本

新版日本

實地教授の任に當らるる人士の是正を待つや大なり。

著者識す

新地理 日本 目次

第一編 緒論 一頁

位置面積 一

第二編 地方誌 四

第一章 關東地方 四

總說 四

位置地勢氣候生業交通

處誌 一〇

東京府 神奈川縣 埼玉縣 千葉縣 茨城縣 栃木縣
群馬縣

第二章 奧羽地方 三

總說 三

目次

新版日本

位置地勢氣候生產交通

處誌……………六

福島縣宮城縣岩手縣青森縣秋田縣山形縣

第三章 本州中部地方……………三

總說……………三

位置地勢氣候生產交通

處誌……………三

静岡縣山梨縣愛知縣岐阜縣長野縣新潟縣富

山縣石川縣福井縣

第四章 近畿地方……………五

總說……………五

位置地勢氣候生產交通

處誌……………五

京都府滋賀縣奈良縣和歌山縣大阪府兵庫縣

三重縣

第五章 中國地方……………六

總說……………六

位置地勢氣候生產交通

處誌……………七

岡山縣廣島縣山口縣島根縣鳥取縣

第六章 四國地方……………七

總說……………七

位置地勢氣候生產交通

處誌……………八

德島縣香川縣愛媛縣高知縣

第七章 九州地方……………八

總說……………八

位置地勢氣候・生業交通

處誌……………九〇

福岡縣佐賀縣長崎縣熊本縣大分縣宮崎縣鹿

兒島縣沖繩縣

第八章 臺灣地方……………九九

總說……………九九

位置地勢氣候住民生業交通

處誌……………一〇三

北部地方中部地方南部地方東部地方澎湖群

島

第九章 北海道地方……………一〇七

總說……………一〇七

位置地勢氣候住民生業交通

處誌……………一一二

新版日本
新版日本

第十章 樺太地方……………一二九

半島地方中部地方東部地方千島列島

總說……………一二九

位置地勢氣候住民生業交通

處誌……………一三三

第十一章 朝鮮地方……………一三四

總說……………一三四

位置地勢氣候住民生業交通

處誌……………一四〇

中部地方南部地方北部地方

朝鮮の沿革……………一四五

第三編 總論……………一五六

第一章 地勢……………一五六

第二章	近海	山脈・河流・湖沼・平野・海岸・島嶼 海面・海底・洋流	一四一
第三章	氣候及び天産物	氣溫・風雨・植物・動物・礦物	一四四
第四章	生業	農業・林業・牧畜業・鑛業・水産業・工業・商業	一四九
第五章	住民	種族・人口	一五二
第六章	政治	國體・政體・兵備・財政・外交	一六〇
第七章	教育・神社・宗教	教育・神社・宗教	一六四

挿版目次

第八章	交通	陸路・鐵道・航路・郵便・電信・電話	一六七
		結論	一七三
		河口湖より見たる富士山	口繪
		宮城	
		日本橋	
		靖國神社	二二頁ノ次
		日比谷公園の一部	
		京都御所日出御門	
		紫宸殿	
		嵐山渡月橋	二五頁ノ次
		天の橋立	
		大阪城	
		大阪港の埠頭	

造幣局……………六四頁ノ次

道頓堀……………

豊後國血池地獄……………

豊後國觀海寺三日月地獄……………

豊後國耶馬溪の羅漢寺……………

豊後國耶馬溪の青洞門……………

朝鮮金剛山中の四仙洞……………

朝鮮金剛山中の曉雲洞……………

京城德壽宮……………

朝鮮に於ける内地移住民と農場……………

……………三〇頁ノ次

目次終

新版日本



新地理 日本

第一編 緒論

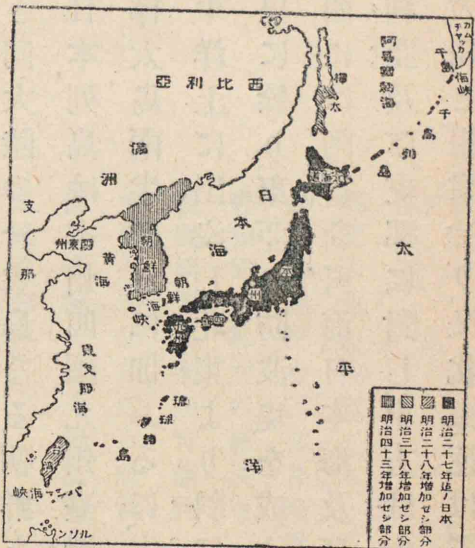
位置 大日本帝國は、亞細亞大陸の東方に位せる日本列島と、同大陸の一半島なる朝鮮とより成る。

日本列島は、本州・四國・九州・臺灣及び北海道本島の五大島と樺太島南半部とに加ふるに、大小四百有餘の島嶼ありて太平洋上に出沒し、北東より斜に南西に延長し、全長一千二百里に餘り、東亞の防波堤を成すものの如し。列島の北より西には、阿^ア哥^カ斯^ス科^カ海、日本海及び東支那海を抱きて、露領西^シ比^ビ利^リ亞^ヤ及び支那に對し、東方は太平洋を隔てて、遙に亞米利加大陸と相對せり、又北東極は、露領勘^カ察^サ加^カ半島に迫りて、其

緒論

極東 千島、占守島東端(東經一五六度三二分)。
 極西 澎湖島花嶼西端(東經一一九度一八分)。
 極南 臺灣七星岩南端(北緯二二度四五分)。
 極北 千島阿頼度島北端(北緯五〇度五六分)。

日本全圖



南は朝鮮海峽を隔てて九州島に對す。

本邦は樺太島に於て、北緯五十度線によりて露西亞と境し、朝鮮に於て、圖們江、白頭山及び鴨綠江によりて露西亞支那兩國と境を接する外、四面海洋に圍まるるが故に、海國としての利益を受くること多し。

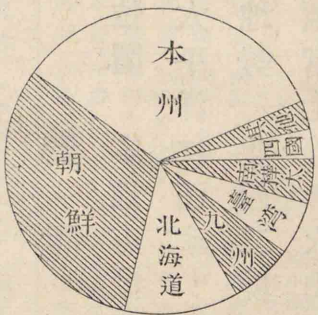
の間に狭き千島海峽を挟み、南西端は、米領比律賓群島に對し、其の間に廣きバシー海峽を挾む。

朝鮮半島は、亞細亞大陸の東岸に突出し、長さ約百九十里幅七十里、東は日本海に枕み、西は黃海に面し、

新版日本
 新版日本

本州	17,000
朝鮮	12,000
北海道本島	8,000
九州	3,000
臺灣	2,000
樺太	1,100
四國	1,100

帝國各國部の面積比較



約二分の一に當る。

我が國は明治維新以來國運の進歩著しく、曩には臺灣及び樺太の南半を我が領土に加へ、關東州二百十九方里の地方を租借し、更に朝鮮を併合したれば、其の版圖益擴張し、尙驥足を南滿洲、東蒙古、山東省等に伸ばし、南洋を略し、その勢力次第に加はり、東亞の重鎮たるに至れり、然れども富力の充實せざるは遺憾なり。

第二編 地方誌

往昔天然の形勢により、畿内八道八十五箇國に分ちしが、
現今は行政上三府四十三縣一道廳となし、之に二總督府一
廳を加ふ。今便宜上これを關東・奥羽・本州中部・近畿・中國・四
國・九州・北海道・臺灣・樺太・朝鮮の十一地方となさん。

第一章 關東地方

總説

位置 本地方は所謂關八州の地にして、本州の中央に位
し、太平洋に面す。行政上一府六縣に分たる。

地勢 北西二境には阿武隈八溝越後關東の諸山脈及び
那須富士等の火山帶相連り、地勢一般に高峻なり。山嶽の

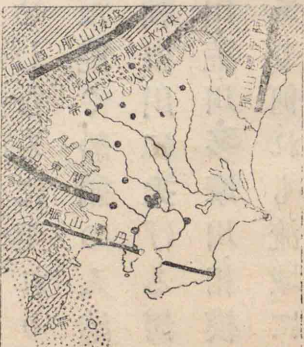
新版日本

新版日本

筑波山、妙義山
は火山にあらず。

府縣名	管轄	府縣廳所在地
東京府	武藏の一部・伊豆七島・小笠原島	東京市
神奈川縣	武藏の一部・相模	横濱市
埼玉縣	武藏の大部	浦和市
千葉縣	安房・上總	千葉市
茨城縣	下總の大部	水戸市
栃木縣	下總の一部・常陸	宇都宮市
群馬縣	上野	前橋市

名あるものは筑波山・那須山・男體山・榛名山・妙義山・箱根山等にして、多くは火山に屬する。東關の地勢及び市分布



し、風景に富める處多く、那須・鹽原・草津・伊香保・箱根等には温泉湧出し、浴客群をなす。本地方の大部は關東平野にして、低き沖積地と波狀の丘陵地とより成り、土地一般に開け、坂東太郎の稱ある利根川其他の河川之を灌溉し、沃野遠く相連り、農産物多く、交通便利にして都邑甚だ多し。現今人口一萬以上のもの七十を超ゆ。

東海岸の中央には、犬吠岬突出し、弓形をなせる鹿島灘と、
鰺の漁獲に名ある九十九里濱とを分つ。丘陵性の房總半

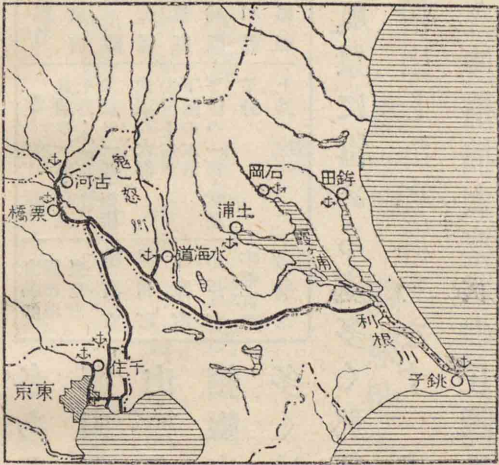
要塞地帯に於ては、妄りに見取圖を取り寫眞攝影等をなすべからず。

河としての價値は、灌溉反別の廣きと運輸の便なると洪水の害少なきとにあり、利根川は前二條件を具ふるも、水害多きを憾む。

荒川の下流を隅田川、多摩川の下流を六郷川と稱し、相模川の上流を桂川と呼ぶ。

島は同性質の三浦半島と相對し、其の間に浦賀水道を挟みて東京灣の門戸をなす、同水道の兩岸は要塞地帯なり。利根川は長さ七十餘里、鬼怒川、渡良瀬川、小貝川等を合せ、江戸川を分流し、その流域關東平野の約二分の一に及ぶ。下流には印旛沼、霞浦、北浦等の湖沼之に通ず。

關東地方河湖水汽船交通路



利根川はもと東京灣に注ぎしが、徳川幕府の始めに至り、人工によりて屢、河道を變更し、遂に銚子に排せしむるに至れり、河口風浪甚だ荒く、船舶の入港困難なり。利根川に次げる河川には、那珂川、荒川、多摩川、相模川、酒匂川等あり、何れも流域に

新版日本
新版日本

平野を控へ、上流は多く水力電氣の利用に適す。

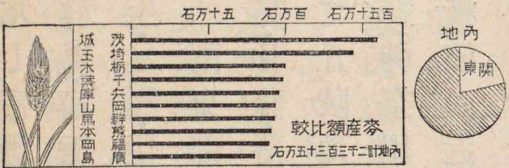
氣候 寒暖中和を得、雨量亦適度なり、海岸は黒潮に洗はるるが故に、特に溫暖にして、避暑避寒に適する地多し。鎌倉大磯、小田原、逗子、葉山、三崎、館山、北條、大洗等特に名あり。

又小笠原島、硫黃島等は霜雪降らず、氣温高くして冬なく、熱帶植物繁茂す。

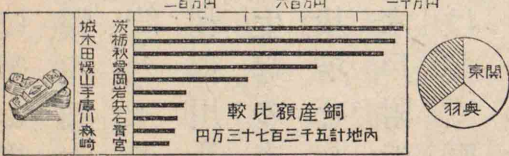
生業 平野廣大にして地味肥え、灌溉の便よく、各種の天産物豊富なるのみならず、鐵道、道路、縱横に通じ、水運亦便なるを以て、生業最も發達せり。北西部

麥 額比較
茨城縣 一五〇
埼玉縣 一四〇
栃木縣 九〇
千葉縣 九〇
兵庫縣 八〇
岡山縣 七〇
群馬縣 六〇
熊本縣 六〇
福岡縣 六〇
廣島縣 六〇

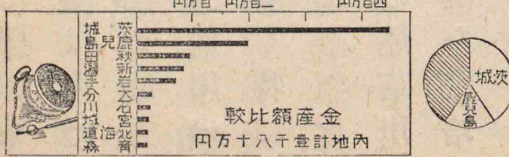
麥 產額比較



銅 產額比較



金 產額比較



銅産額比較

茨城縣	九萬
栃木縣	九萬
秋田縣	八萬
愛媛縣	六萬
岡山縣	四萬
岩手縣	二萬
兵庫縣	一萬
石川縣	一萬
青森縣	一萬
宮崎縣	一萬

金産額比較

茨城縣	四萬
鹿兒島縣	一萬
秋田縣	一萬
新潟縣	一萬
岩手縣	一萬
大分縣	一萬
石川縣	一萬
宮城縣	一萬
北海道	一萬
青森縣	一萬
房總三浦兩半島	一萬
伊豆七島往復の汽船は魚類の運搬を主とするもの多し。	

一帯の山野は、多く桑樹を栽培し、養蠶業に努む。従て製絲業盛にして絹織物の産亦多く、群馬埼玉兩縣の紬太織は内地全産額の十分の七を占む。桐生足利伊勢崎八王子秩父地方は、共に主要なる機業地なり。南東部は利根川及び荒川の流域に屬する平野にして、米、麥、甘藷、落花生等の産多く、特に茨城、埼玉二縣の麥は主として丘陵地に栽培せられ、産額比なく、鹿沼、栃木縣附近の麻、秦野、神奈川縣水戸附近の煙草、川越地方の甘藷亦名高く、東京横濱の近郊は多く野菜を栽培す。千葉縣の養豚、豆南諸島の牧牛、製糖業亦見るべし。沿海は水産に富み、鰺、鯉等の漁獲多く、房總半島の近海は全國屈指の好漁場にして、特に之が消費地たる東京横濱の大都を控へたれば利益多し。鑛産は、日立の金、銀、銅、足尾の銅、茨城縣北部の石炭、大理石等を主とす。

新版日本

新版日本

日立鑛山は金銀等の産額に於て本邦中他に比すべきものなし。其の産額即ち次の如し。但し此の産額は買鑛をも含むものなり。

金	八五、二六、七
銀	一〇、六八、九七
銅	一〇、〇六、一三

全國總産額

金	三、二二、九三
銀	四三、四六、九六
銅	一三、五、六三、七三

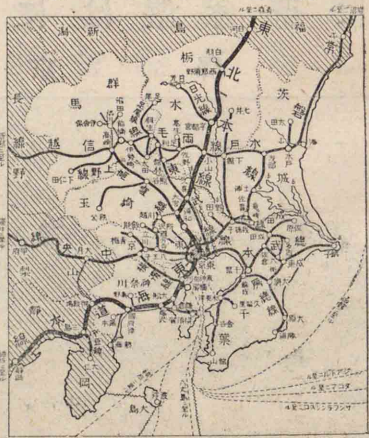
日立鑛山



交通

鐵道線
路は、東海道線、東北本線、中央線、總武線、常磐線等、何れも東京市を中心として四方に派出し、又之に連接して、高崎線、兩毛線、信越線、東武線、成田線等あり、又東京横濱

關東地方交通系

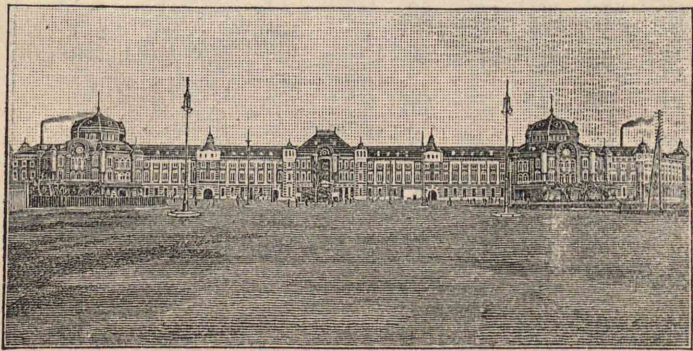


を始め小田原、鎌倉、江島、川越、大宮、高崎、前橋及び附近の地方には、電車鐵道を通ず。水運は沿海諸港及び大河の下流に船舶の往來繁く、殊に横濱は内外諸航路の中心地に當り、艦

船常に輻輳す。利根本支流の水運は、最も便利にして、交通上荒川・中川と連り、小蒸氣船は東京市銚子間及び利根本支流・各湖沼の間を往復す。

處誌

東京府 東京市はもと江戸と稱し、武藏野の一隅に位し、隅田川の口に跨り、政治・學藝・經濟・交通・商工業の大中心にして、丘陵地と低地とより成り、皇居は舊江戸城にして市の中央に位し、壯嚴を極め、其の周圍には諸官省・帝國議會・議事堂及び各國大公使館、其の他官衙多し。行政上十五區に分れ、市内には



新版日本

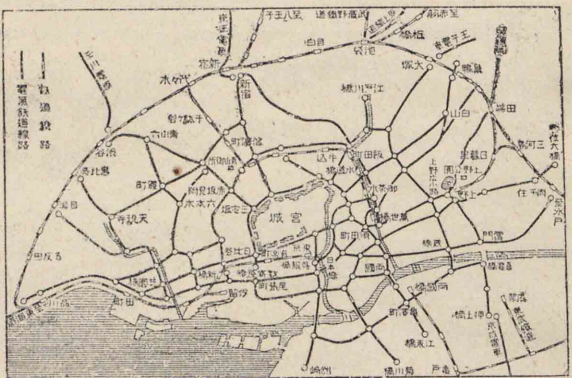
新版日本

武藏野は月の入るべき山もなし草より出でて草にこそ入れ。
(太田道灌)

都邑人口
東京市 二〇〇、三六
澁谷町 六三、七三
八王子市 三三、三三
王子町 二九、〇九
千駄ヶ谷町 二九、〇九
澁橋町 二五、九三
千住町 二五、九三
南千住町 三三、九三
品川町 三三、九三
大井町 三〇、一八
瀧野川町 三〇、一八

東京市の十五區
京橋、日本橋、神田、麴町、芝、麻布、赤坂、四谷、牛込、小石川、本郷、下谷、淺草、本所、深川。
市内には帝國大學、高等學校、高等師範學校、高等商業學校、第一師團司令部、近衛師團司令部、日本銀行、等あり。
東京驛は麴町區丸の内に在り全國鐵道の起點たるべし。

東京市交通系



東京帝國大學を初め各種の學校・圖書館・博物館等あり。又商工業盛にして市の内外には、日本銀行・勸業銀行・郵船會社・三菱合資會社・南滿洲鐵道支社其他諸會社あり、又大工場多く、綿絲・洋紙・麥酒・毛織物等の製造及圖書出版の業等甚だ盛なり。鐵道は、東京・萬世橋・上野兩國橋各驛を起點として各地に向ふ、此等の諸線は遠からずして東京驛に集中せらるべし。又電車は蛛網の如く市内を貫ぬき、總延長百數十哩に達す。市の周圍には澁谷・王子・千駄ヶ谷・澁橋・千住・南千住・品川・瀧野川・大井・新宿等ありて、市の外廓をなす。遊覽地には上野・淺草・芝・日比谷等の

公園、向島、飛鳥山等の名所あり、上野、向島及び飛鳥山等は櫻花に著る。

八王子市は養蠶業の中心地にして、絲織、斜子織、八丈絹等を産す。

多摩川の上流羽村より、同河の水を東京市に導き飲料に供す、

多摩川上水是

なり。上水に

沿へる小金井

は櫻花に名あ

り。

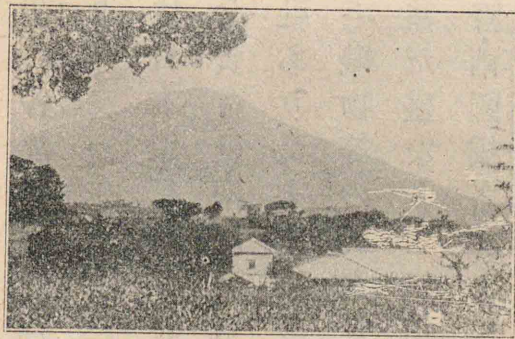
伊豆七島は、

大島、利島、新島、

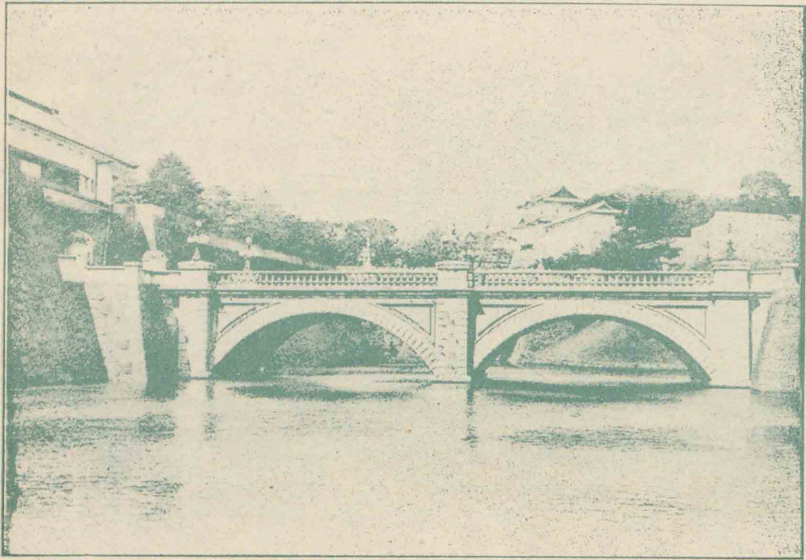
式根島、御藏島

八丈富士

小金井の櫻



新版日本



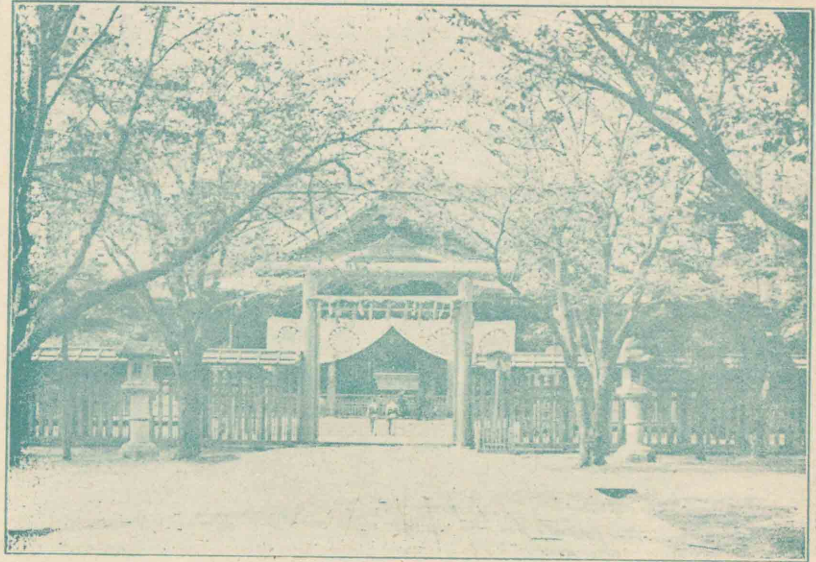
宮城

(二重橋を隔てて宮城を仰ぐ)



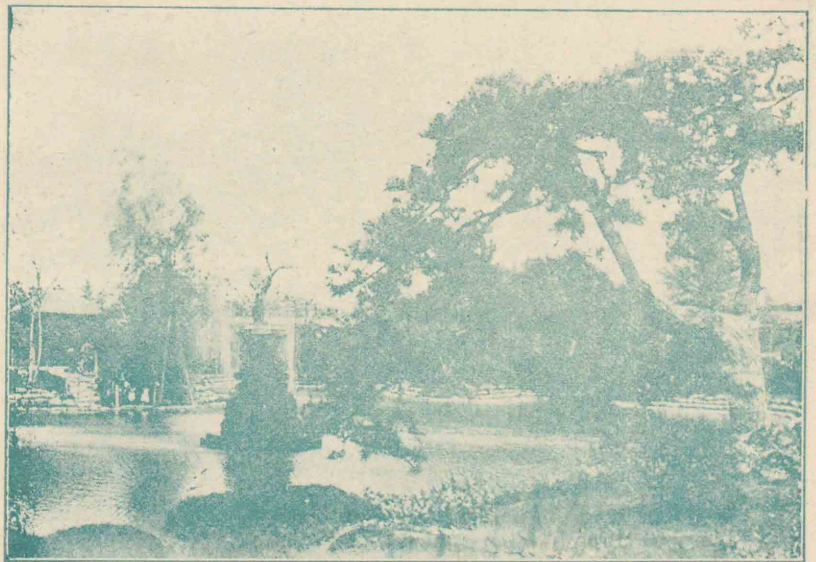
日本橋

(日本橋及び附近繁榮の状)



靖國神社

(東京都九區坂上在り社内遊藝館は古來武器其他を藏す)



日比谷公園の一部

(東京都區在り區域廣大諸般設備よく整へり)

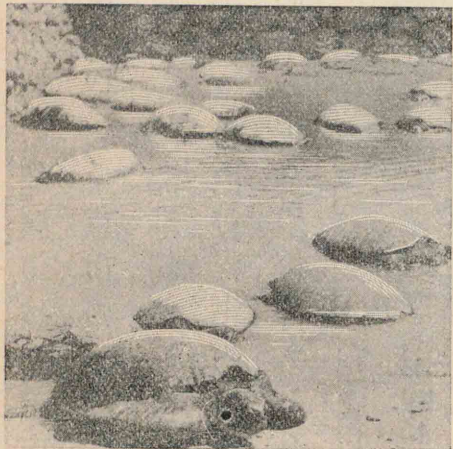
新版日本

八丈島に於ては八丈絹産額甚だ減じ製糖業之に代らんとす。

小笠原のバナナは今や殆ど全滅せり。

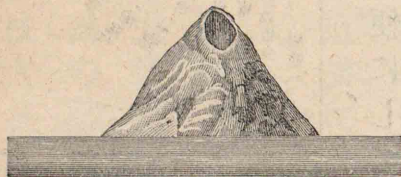
硫黄列島は北・中・南の三島より成る。

小笠原の亀



三宅島・八丈島等の各火山島等より成り、水産多く牧牛行はれ、又椿油を産す、各島何れも氣候良好にして保養地に適す。大島は三原山の活火山を以て知られ、八丈島には八丈富士あり、又八丈絹を産す。八丈の南に先年爆裂せし鳥島あり。小笠原群島は東京を距ること約二百餘里に位し、父母島の三群島より成る、熱帯氣候にして甘蔗・蒲葵・鳳梨生長し、又亀カメ・大蝙蝠等を産す。南方に硫黄列島あり、甘蔗を主産物となす。其の北硫黄島には熱帯鳥棲息す、附近には海底火山屢噴出す。

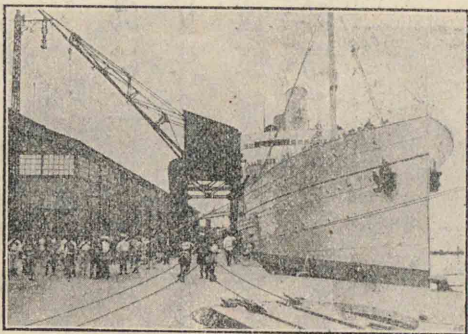
北硫黄島



都邑八口
横濱市 五七、五七〇
横須賀市 八、四七三
小田原町 三、五七
茅ヶ崎町 九、〇三
浦賀町 八、二七
藤澤町 一六、八五
鎌倉町 二、五
川崎町 〇、九六
港の發達には港灣の完備、大都市との連絡、交通の利便等の要あり。

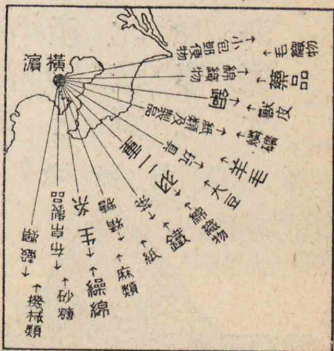
總持寺は曹洞宗の大本山なり。

横濱港埠頭



神奈川縣 横濱市は東京市の西南八里に位し、東京市の門戸に當る。安政六年の開港場にして、貿易額本邦第二位を占む。市内には税關各國領事館、正金銀行等あり、今や築港完成し貿易の機關普く備はり、水陸の交通便にして、在留外國人甚だ多し。輸出品は生絲、羽二重、銅等、輸入品は、綿、鐵材、機械類等を主とす。横濱市の東方に鶴見及び川崎あり、附近一帶は造船製鋼、精糖、電氣等の各工場勃興して活氣を呈す。鶴見に總持寺あり。

横濱港主要輸出品

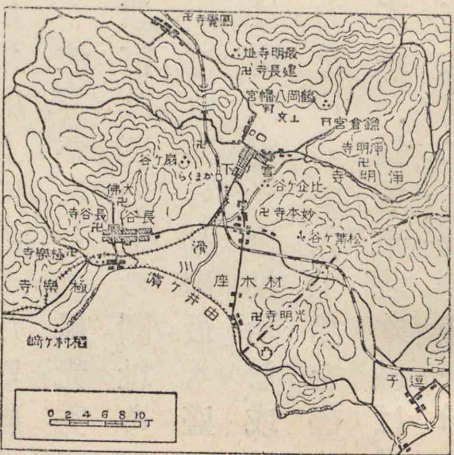


新版日本
新版日本

浦賀に近き久里濱にベルリの上陸記念碑あり。

江ノ島は片瀬の對岸に在る島嶼にして辨財天を祀る千潮時には砂路一線歩して至るべし、今は橋梁を架す。金澤文庫は同地の稱名寺に在り故伊藤公等夏島に於て起草せる大日本帝國憲法の材料は多く金澤文庫に藏せらる。故に夏島は憲法島と俗稱せらる。

鎌倉附近圖



海軍の飛行練習所あり。

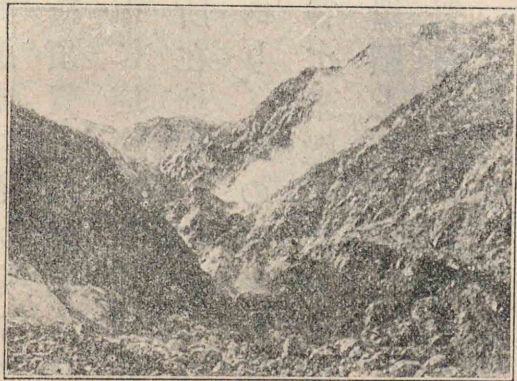
鎌倉は源頼朝の幕府を開きし地にして、名所舊跡頗る多く、頼朝屋敷、北條屋敷、鎌倉宮、鶴ヶ岡八幡宮、長谷の大佛及び觀音等、訪ぬべき名所多く、其の東に金澤、西に江の島の勝地あり、金澤は金澤文庫所在の地にして、前方の夏島は大日本

大湧谷は神山の中腹にあり(舊名大地獄)關は強羅方面より仰げるもの、各處に噴氣孔あり、又温泉諸處に湧出す、其の一部よりは炭酸水(箱根水)を製す。

都邑人口
川越町 三、七五五
熊谷町 三、二〇六

帝國憲法の起草地なり。本縣の沿海各地は、何れも海水浴地として夏季賑へるのみならず、冬季避寒地として知らる。箱根は縣の西境に位する大火山にして、火口中に駒嶽神山等聳え、大湧谷・早雲地獄等の噴氣孔山腹に存し、湯本・塔澤底倉・蘆湯其の他の温泉各處に湧出し、又山上に湛へたる蘆湖は、水清く波靜かにして風光秀絶、湖畔に離宮及び箱根の關址あり。酒匂川は水力の利用最も盛にして、或は電力・電光を供給し、或は其の水力を用ゐて大工場を起せり。埼玉縣 鐵道東北本線は、浦和を過ぎ大宮にて高崎線を分つ。大

箱根大湧谷(大地獄)



浦和町 二、四〇〇
大宮町 一、三三三
秩父町 一、〇一七

水川神社 祭神素戔鳴尊
外二神。
農業を主生業とせる埼玉千華兩縣には大都會發達せず。

水川神社



を産す 所澤には陸軍の飛行練習所あり。荒川の上流秩父地方は、山地を繞ら

宮には官幣大社水川神社あり。境内の公園は幽邃を以て知らる。

川越は、大宮の西方に位し、機業の中心にして、斜子袴地等を産す、其の南方よりは茶

所澤の飛行練習所

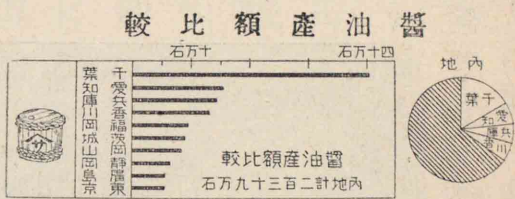


都邑人口
 千葉町 三五三一
 本銚子町 一九五二
 船橋町 一四二九
 佐原町 一四〇九
 野田町 一〇六三

千葉に近き船橋の無線電信局は本邦最強のもの布哇を経て桑港と通信す。

醬油産額
 千葉縣 五〇
 愛知縣 四六
 兵庫縣 四二
 香川縣 三三
 福岡縣 二二
 茨城縣 一〇
 岡山縣 〇
 静岡縣 〇
 廣島縣 〇
 東京府 〇

香取神宮 (官幣大社)
 祭神 經津主神
 安房は日蓮の出生地にして日蓮宗の信者多し。



して別天地をなし、秩父絹を産す。秩父町を其の中心とす。

千葉縣 埼玉と同じく平野多く農田發達し、從て大都邑の發達を認めず。千葉は、交通の要路に當り、總武鐵道東京より來り、此の地に於て房總線を分ち、佐倉を経て銚子に達す。銚子は、利根河口に當り、醬油・鰹節・縮布等の産多く、東方海岸に無線電信局あり、遠く太平洋上の汽船と通信すべし、船橋にも無線電信局あり。佐倉に近く木内宗吾の靈堂あり、成田は不動尊を以て著れ、佐原は本邦實測圖を完成せし故伊能忠敬の出身地なり、香取神宮此に近し。野田は佐原と共に醬油を産し、流山は味淋を産す、國府臺は臺地上に位し、北條里見兩氏の古戰場なり。木更

新版日本

新版日本

都邑人口
 水戸市 四三、三二八
 古河町 二四、七三三
 石岡町 二二、四七三
 土浦町 二二、三六九
 結城町 二二、三六九

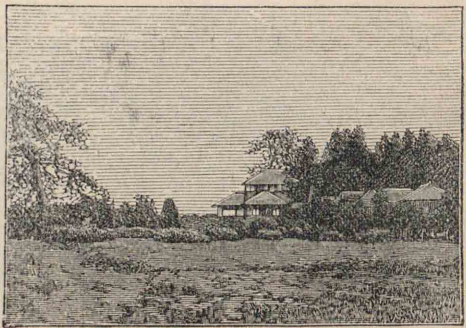
徳川三家の城地
 常陸の水戸、
 尾張の名古屋、
 紀伊の和歌山、
 其の公園の圖は
 常磐公園の圖は
 其の一部分を示せ
 り右手の家は好
 文亭なり、仙波
 沼を瞰下すべし。
 吹く風を勿來の
 關と思へども道
 もせに散る山櫻
 かな。(源義家)。

鹿島神宮
 官幣大社
 祭神 武甕槌神。

津・北條・館山は内海の名邑なり。

茨城縣 水戸市は那珂川に臨み、徳川三家の一たる水戸家の舊城地たり。常磐公園・弘道館は光圀・齊昭兩公の名と共に知らる。北方に有名なる日立鑛山及び太田あり、日立以北は石炭を産し、太田附近よりは煙草・寒水石を産す。又義家の詠歌に

常 磐 公 園



知られたる勿來關址は、磐城の境上に位す。

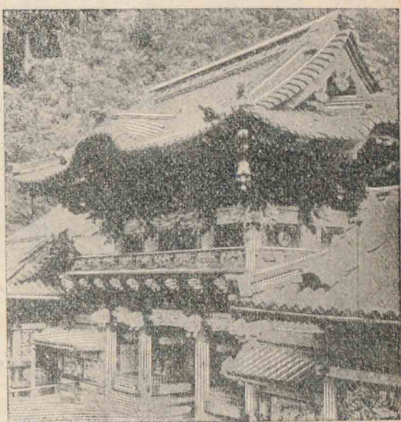
鐵道常磐線に沿へる土浦・石岡は筑波山下に近く、共に醬油を産し、土浦は湖上汽船の發着所にして、此より潮來を経て鹿島神宮に詣づべし。鬼怒川に近く結城・下妻・水海道あり、結城は紬を産す、下妻の西方にある古河は古河公方の城

都邑人口

宇都宮市	區(四九)人
足尾町	三、九四五
足利町	二、九三五
栃木町	二、八〇二
佐野町	一、四、八六六
鹿沼町	一、四、七六六
日光町	一、三、三三
田沼町	二、九七三

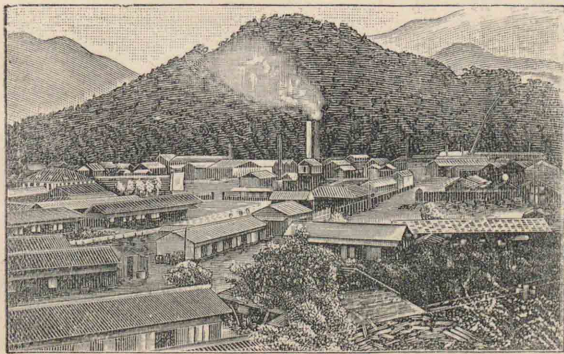
電氣精銅所は日光町にあり足尾銅山其他の銅を精煉して銅線、銅板等を製出す。
銅産額比較(大正四年)
日立 二〇、六三一三
足尾 一六、一五、六〇
前年迄は足尾は日立より産額多かりき、現今も其の鐵山のみ量ならば足尾は日立に優れり。

日光東照宮の陽明門



地として知らる。
栃木縣 宇都宮市は奥羽交通の要路に當り、第十四師團司令部の所在地なり、鐵道日光線これより分岐し、東北本線は

電氣精銅所



那須野原を過ぎて北方に向ふ。日光線によれば麻の産地たる鹿沼を経て沿道老杉鬱乎たる間を過ぎ日光に至るべし、東照宮は、建築精巧を極め、社殿宏大にして、壯麗比なく又日光山地には白根、男體等の秀峰聳え、中禪寺湖、湯湖を湛へ、華嚴、霧降、裏

唐澤山神社

(別格官幣社)
祭神 藤原秀郷

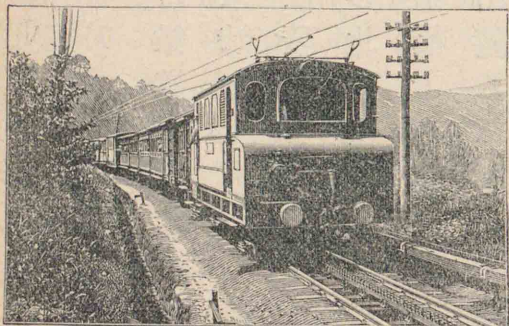
都邑人口

前橋市	四、〇〇二
高崎市	四、〇〇六
桐生町	三、五三三
館林町	二、三二六
伊勢崎町	二、八七四

碓氷峠は中仙道第一の峻坂にして鐵道二十六箇の隧道を過ぎ電力によりてアプト式を用ひて上下す。

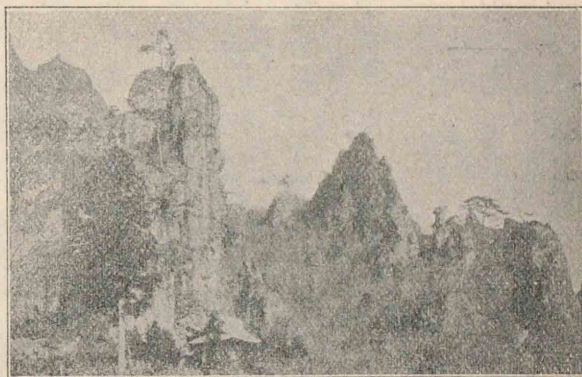
見等の飛瀑懸り、天然の風景人工の美と相俟ちて幽邃美觀を極め、遊覽者常に絶えず。日光の西南には足尾銅山あり、銅産額茨城の日立と相伯仲す。那須野原の彼方には、鹽原那須の温泉地あり、又紅葉の名所なり。鐵道兩毛線に沿へる都邑に小山、栃木、佐野、足利あり、小山は交通の便よく、佐野の北方には唐澤山神社あり、足利は織物を産し、本縣機業の中心なり、同町に足利學校文庫あり、保存せる古書多し。
群馬縣 鐵道兩毛線に沿ひ前橋、伊勢崎、桐生あり。前橋市は高崎市と共に生絲、繭の市場に當り、桐生は精巧なる絹織物を産し、伊勢崎の紬織は産額全國無比なり。

碓氷峠の電氣機關車



伊香保は本邦最高
の電車到着點
(海拔七九米)。
白根山には日光
白根と草津白根
と有り區別すべ
し。

妙義山の一部



景甚だ好く。妙義山は洞門・石柱等の奇岩列立して奇景を呈す。

第二章 奥羽地方

新版日本

新版日本

總説

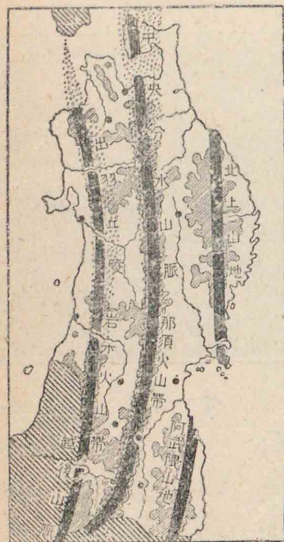
位置 奥羽地方は本州の北東に
位し、東は太平洋、西は日本海に面し、
北は津軽海峡を隔てて北海道本島
に對す、行政上之れを六縣に分つ。

地勢 中央分水山脈(奥羽山脈)南北に走りて分水嶺を成
す。同山嶺上には、那須火山帯の諸火山之に重なりて噴出
せるを以て、高嶺峻峯は悉く火山なり、磐梯・吾妻・安達太郎・岩
手・八甲田・恐山等皆然り、吾妻
安達太郎・磐梯の三山は近時
の破裂を以て名あり。
中央分水山脈の東には、之
と並行せる北上・阿武隈兩山

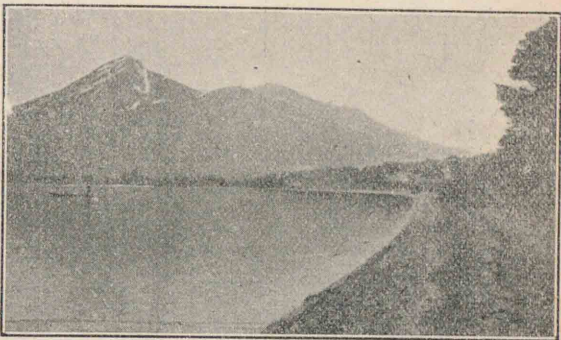
縣名	管轄	縣所在地
福島縣	岩代・磐城の大部	福島市
宮城縣	磐城の一部・陸前 <small>の</small> 大部	仙台市
岩手縣	陸中 <small>の</small> 大部・陸奥 <small>の</small> 一部	盛岡市
青森縣	陸奥の大部	青森市
秋田縣	羽後 <small>の</small> 大部・陸中 <small>の</small> 一部	秋田市
山形縣	羽前・羽後 <small>の</small> 一部	山形市

磐梯山は會津富
士、岩手山は南
部富士、鳥海山
は出羽富士、岩
木山は津輕富士
の名あり。

奥羽地方の地勢及都市分布



磐梯山

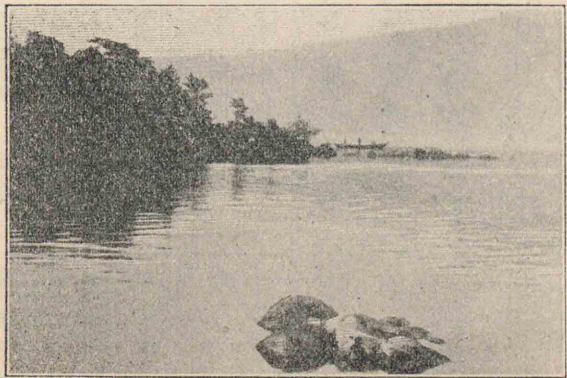


地あり、この間を流るる北上阿武隈兩川の流域は細長き沃野をなし、仙臺平野によりて接續す、農産多く、養蠶に適す。

分水山脈の西方には出羽丘陵。

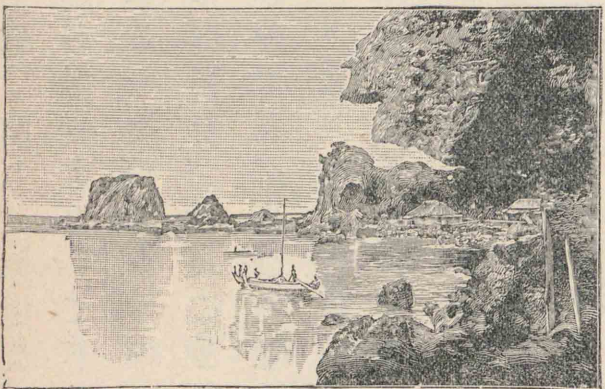
越後山脈一線上十に連なり、岩木火和山帶之に重なり、

岩木山、鳥海山、月山等の火山聳え、其の東に會津米澤山形最上横手大曲等の湖盆地あり、阿賀最上御物能代の諸川之を排水し、何れも西方山地を切りて日



五月雨をあつめ一速し最上川(芭蕉)

男鹿半島の一部



本海に注ぐ。以上の各盆地は、各特色を有し土地豊饒農産多く、特に米に名あり。湖沼には猪苗代湖八郎潟十和田湖小河原沼等あり、灌漑に便し且つ水産養殖等に利用せらる。海岸線は屈曲少く、特に日本海岸は男鹿半島及び鱸作崎の突出せる外甚だ單調なれども、津輕海峡面には下北津輕兩半島相對して内に陸奥灣を抱き、灣内更に青森野邊地の兩灣に分る。東岸には牡鹿半島出でて仙臺灣を抱き、以北の沿岸は小屈曲多く鋸齒状を成し、所謂リヤス式の特相を呈すれども、一般に良港に乏し。

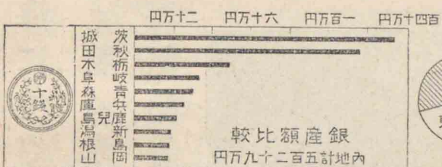
岩手縣の海岸は地形上津浪の害を被ること屢なり。

東岸には津輕海峡を過ぎ來れる對馬海流の一派南下するを以て千島海流の寒氣にのみ觸るる地方と信すべからず

銀産額比較

茨城縣	二二二
秋田縣	一八二
栃木縣	一四九
岐阜縣	一三〇
青森縣	一〇九
兵庫縣	一〇六
鹿島縣	一〇三
新潟縣	一〇二
島根縣	一〇一
岡山縣	一〇〇

銀産額比較



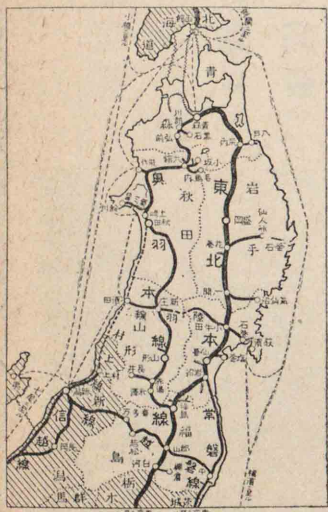
氣候 概して氣温低く、冬季永く且つ寒氣強く、降雪滿地を閉ぢ屢、汽車をして不通ならしむ、雹霰亦多し。されば、陽春來るや、桃・櫻・梅・李一時に開花する奇觀あり。西海岸は暖流の影響を受くること東海岸よりも大なれば、雨雪量多し。然れども東岸を以て西岸よりも寒しと斷ずるは誤れり。

生業 本地方は面積の割合に耕地少なく、本州中、人口の密度最も小なり、然れども亦産業の見るべきもの少なからず、農産は米穀を主とし、諸川の流域に多く、養蠶業は阿武隈、最上兩河谷に行はれ、機業盛にして、羽二重、紬織を主とす。牧畜は各地に行はれ、南部馬、三春駒殊に名あり。林産及び鑛産甚だ豊かにして、秋田・青森二縣の森林、羅漢柏・杉、秋田縣の銅

磐越線は平を東方起點となす。

(小坂・阿仁・尾去澤・荒川)銀(小坂・阿仁・岩手縣の鐵(釜石)は、産額比なく、秋田縣の石油(黒川)は新潟縣を凌がんとす、平附近の石炭亦名あり。其の他、會津・若松・津輕(弘前)能代の漆器、會津・相馬(中村)の陶器、米澤織、仙臺平、川俣の羽二重等亦名あり。
交通 鐵道東北本線は阿武隈、北上、馬淵、三川に沿ひ、青森に至り、別に東北本線と福島より分れ、兩羽を通過し來れる。奥羽線と會す。常磐線は東岸に沿ひて來り、岩沼に至りて東北本線に合す。此の外に磐越線あり、郡山にて東北本線と交り、猪苗代、若松、喜多方を経て新潟に向ふ。海運業は良港灣に乏しく、風浪荒きたため比較的發達せず、開港場としては僅に青森

系通交の方地羽奥



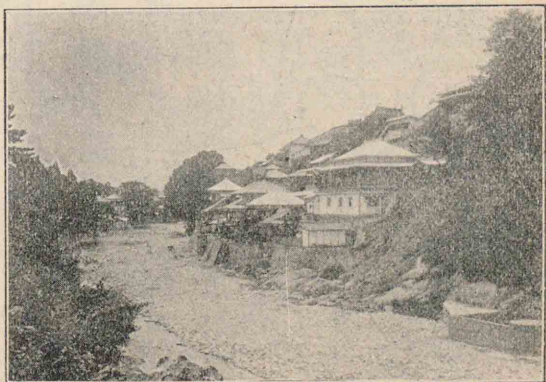
港あるのみ。

處誌

都邑人口
若松市 四、八二八
福島市 三、九八八
郡山町 三、七六六
平町 一、七三五
須賀川町 一、五七五
白河町 一、五七五
二本松町 一、〇二八

都をばかすみと
共に出しかど秋
風ぞ吹く白河の
關(能因法師)。
靈山神社
(別格官幣社)
祭神北畠顯家親
房等。
會津城址に近き
飯盛山に白虎隊
の墓あり明治戊
辰の役藩主の爲
め官軍に抗せし
少年隊埋骨の處
なり。

福島縣 福島市は阿武隈川に臨み、
繭・生絲・羽二重の取引盛にして商業
活潑なり。市の西北に飯坂温泉あり。
又東方の靈山リウサンに同名の神社あり。
郡山は製絲業を以て知られ三春此
處に近く、南方の白河は奥羽の關門
に當る。若松市は會津の中心に位し、陶器・漆器を産す、會津
城址尙存す。中村平は磐城の名邑なり。



宮城縣 仙臺市は仙臺平野の南部に位し、伊達氏の舊城下
奥羽第一の大都會にして、青葉城尙存し、東北帝國大學・高等

新版日本

都邑人口

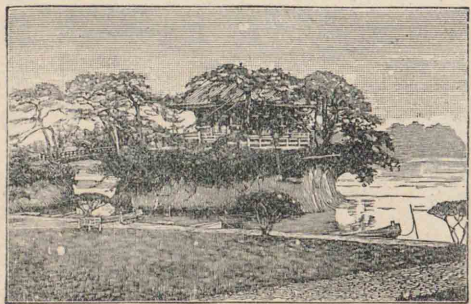
仙臺市 二、四一四
石巻町 一、八三九
古川町 一、〇二七

松島やあお松島
や松島や(芭蕉)

鬼首には吹上間
歌泉あり。

學校第二師團司令部等あり。背後に藩祖政宗公の靈廟あり、壯麗日光廟に次ぐと稱せらる、附近より埋木を出し、埋木細工を産す。市の北東なる鹽釜は松島灣に臨み、此處より松島・金華山に至るべし、松島灣中には大小數多の島嶼羅列し、緑松之を飾り水波岸を嚙み風光絶佳なり。石巻は北上川の河口にありて、荻濱と共に舟運の便多きも港内淺きを惜しむ、主として米を輸送す。牡鹿半島の尖端に金華山島横はる、航海者の好目標なり、島上黄金山神社あり。江合川の上流地には牧馬行はれ、温泉多く、鬼首最も著はる。
岩手縣 盛岡市は南部地方の中心に位し、高等農林學校あり

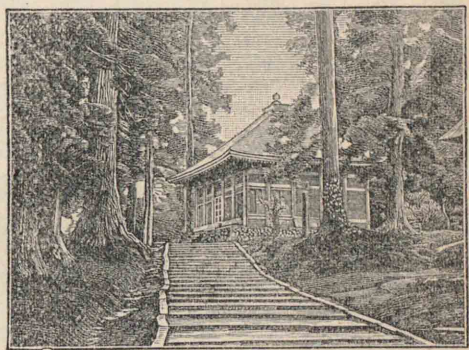
松島の五大堂



新版日本

都邑人口
 盛岡市 四、五七〇
 釜石町 一、五九六
 水澤町 一〇、五八六
 厨川は前九年の戦役地なり。
 中尊寺は藤原氏の菩提寺にして金色堂は有名なり。
 盛岡市より遙かに岩手山を望むべく山下に有名な小岩井農場あり。

中尊寺の金色堂



り、鐵瓶、苹果を産す、盛なる馬市行はる、市に近く厨川の柵址あり。南境に近き一關は商業地なり。其の北方の平泉は藤原清衡以下三代榮華の跡を留めし處、中尊寺・判官館址等尙存す、中尊寺の眼下に衣川あり。北上山地の東部は外南部の地にして水産物に富み、宮古・釜石・大船渡等

の漁港あり。

青森縣 青森市は、青森灣に臨み、北海道に渡る要津なり。津輕半島には、平館及び三厩の名邑あり、三厩は往時松前北海道渡航の要津なりき。下北半島の大湊は海軍要港、安部城は新興の銅山なり。弘前市は、岩木川の上流地に位し、第

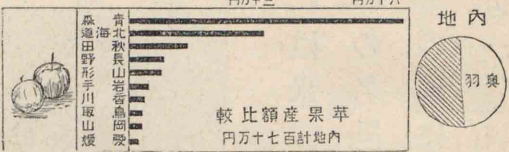
新版日本

新版日本

苹果産額比較
 青森 一三〇
 北海道 一三三
 秋田 一五
 長野 八
 山形 九
 岩手 五
 香川 八
 鳥取 九
 岡山 五
 愛媛 三

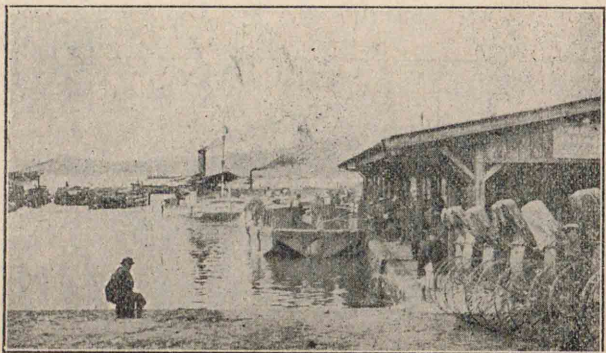
都邑人口
 秋田市 六、五八〇
 能代港町 三、〇五〇
 小坂町 一、九三三
 土崎港町 七、三六〇
 横手町 一、五九六
 黒川石油坑は大正三年夏噴出せり。

苹果産額比較



八師團司令部の所在地にして、津輕塗・蔓細工及び苹果を産す、岩木川下流の地は泥炭を産す。小河原沼に近き三本木附近は南部馬の産地なり、その南方に八戸及び鮫港あり、十和田湖は風景絶佳なり、又近時鱒の

青森港

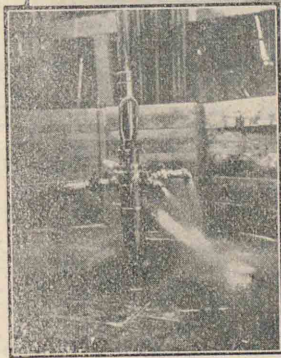
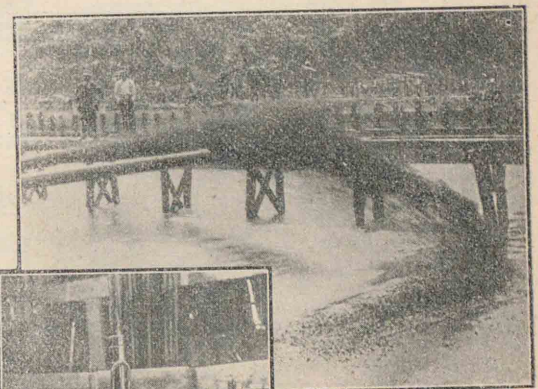


養殖盛に行はる。

秋田縣 秋田市は御物川流域に當り、畝織・八丈絹・蔦等を産す、又鑛山専門學校あり。土崎港は米・石油の積出多く、黒川の石油坑は、近時産額甚だ多し。能代河口の能代港は、能代

都邑人口	四五、七七一
山形市	三六、六五五
米澤市	三三、九五五
酒田町	三三、九三三
鶴岡町	二五、八〇〇
新庄町	一五、八〇〇

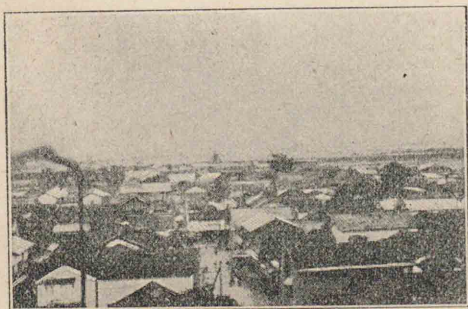
黒川油田の石油噴出



川流域木材業の中心市場なり。男鹿半島には寒風山カンフウサン聳え、東方に八郎潟を抱き、風景甚だ佳なり。南方に船川港あり。

山形縣 最上川の流

上山の温泉



域には米澤山形兩市楯岡タテノカ新庄ニウシマウ及び酒田等の名邑あり。米澤は上杉鷹山ウラハタ公遺業の地にして、高等工業學校あり。附近一帯に養蠶機業發達し、米澤織の

新版日本

新版日本

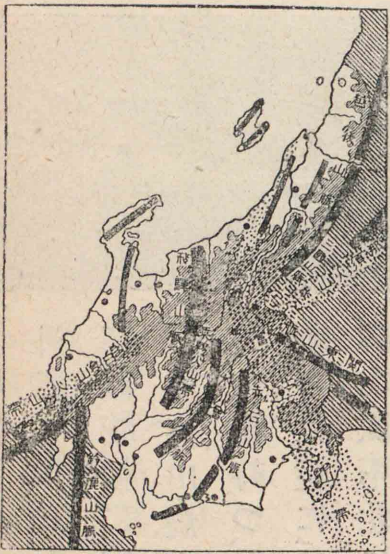
名世に高し。山形市は鐵瓶の産多く、南方なる上山カミノヤマは温泉地として知らる。楯岡は蝦夷探檢家最上徳内の生地なり。

第三章 本州中部地方

總説

位置 本州中部地方は關東近畿兩地方の間に位し、幅員

本州中部地方の地勢と都布分



最も廣く、南は太平洋に、北は日本海に面す、行政上之を九縣に分つ。

縣名	管轄	所在地
靜岡縣	伊豆の大部、駿河、遠江	靜岡市
山梨縣	甲斐	甲府市
愛知縣	尾張・三河	名古屋
岐阜縣	美濃・飛騨	岐阜市
長野縣	信濃	長野市
新潟縣	越後・佐渡	新潟市
富山縣	越中	富山市
石川縣	加賀・能登	金澤市
福井縣	若狹・越前	福井市

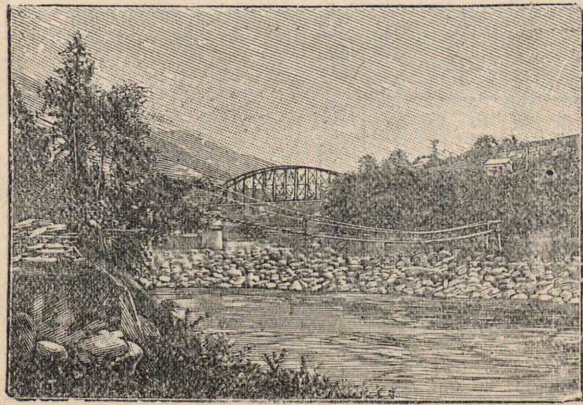
鈴ヶ嶽は火山に
あらず。

山 嶽 御



地勢 中央の高地は、南彎、北彎兩山系
相交はり富士火山帶之に通ずるを以て
高嶽峻嶺に富む、富士火山帶には、富士八
嶽、妙高山、焼山等
の火山峙つ、又飛
驒の東境には、飛
驒山脈南北に横
はり、乗鞍火山帶
之に重なり、御嶽
乗鞍嶽、硫黄嶽、鎗
嶽等一萬尺内外
の高峯少なから
ず。赤石山系と

木曾川 鐵橋及釣橋



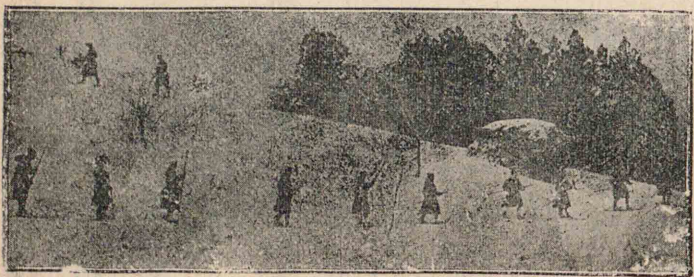
新版日本

新版日本

信濃川は本土第
一の大河。

木曾山脈とは殆ど南北に走り、關東山脈、越後山脈は、東部に
連互す。河流は中部の高地に發して各方面に向ふ。先づ
日本海に入る者には、信濃、阿賀、神通、射水、
九頭龍等の諸川あり、太平洋に注ぐ者には、富士、天龍、木曾等の諸川あり。此等の
流域には肥沃なる平野横はる。海岸中
太平洋面は屈曲多く、伊豆半島南に突出
して駿河灣を抱き、波荒き遠州灘の西に
は、渥美、志摩の兩半島相對して、裏に伊勢
海、渥美灣及び知多灣あり。日本海沿岸
は出入少なく、僅に能登半島突出して東
に富山灣を控へ、其の南西遙に若狹灣の
深く入り込めるあるのみ。

高田のスキ練習

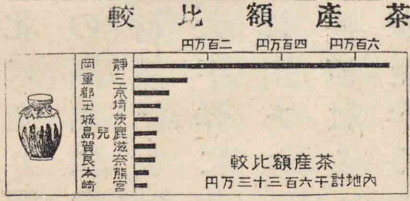
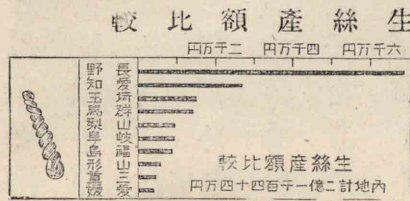
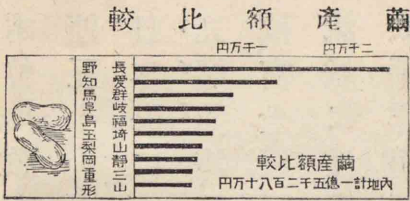


氣候 中央の高地は寒暑の差甚しく、南部は氣候溫和にして夏季降雨多し。北部一帯は冬季雨雪量多く、積雪丈餘に及ぶ處あり。高山の頂には盛夏尙白雪を認むる處多し、加能越地方特に甚し。

生業 區域廣大なるを以て、各地生業・交通等の趣き一様ならず。中部の高地は、山野を開きて桑樹を植ゑ、盛に養蠶業を営み、繭・生絲の産額夥しく、特に長野・愛知兩縣を主

繭産額比較

長野縣	三三九萬
愛知縣	二三四萬
群馬縣	九六萬
岐阜縣	八六萬
福島縣	七六萬
埼玉縣	七六萬
山梨縣	六九萬
三重縣	六八萬
山形縣	六八萬
生絲産額比較	六八七萬
長野縣	二七〇萬
愛知縣	二二六萬
埼玉縣	二二六萬
群馬縣	二二八萬
山梨縣	九〇萬
福島縣	九〇萬
山形縣	九〇萬
三重縣	四三萬
愛知縣	四三萬
茶産額比較	四三萬
靜岡縣	四三萬
三重縣	四三萬
京都府	四三萬
埼玉縣	四三萬
福島縣	四三萬
茨城縣	四三萬
鹿兒島縣	四三萬
滋賀縣	四三萬



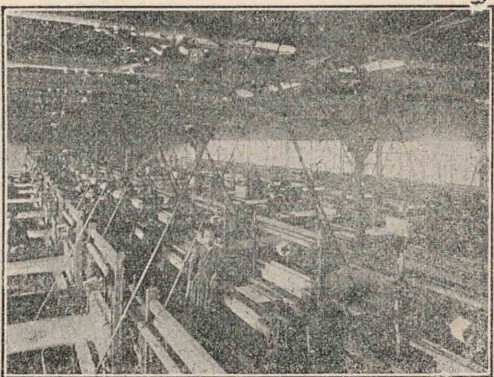
新版日本

新版日本

米産額比較(平年)

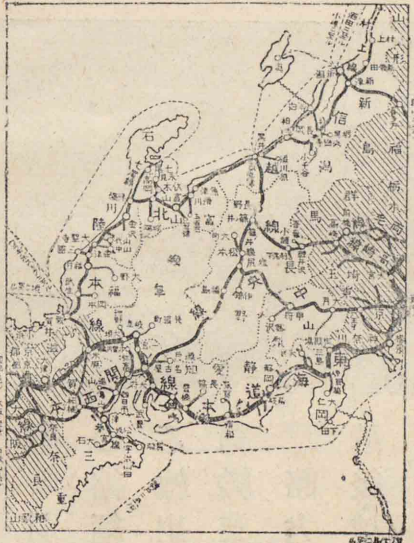
奈良縣	一〇〇萬
熊本縣	九〇萬
宮崎縣	八〇萬
新潟縣	一〇〇萬
福島縣	九〇萬
千葉縣	八〇萬
兵庫縣	七〇萬
愛知縣	六〇萬
茨城縣	五〇萬
山形縣	四〇萬
富山縣	三〇萬
秋田縣	二〇萬
宮城縣	一〇萬

福井市の二重機業場



とす、從て機業亦發達し、福井・石川二縣の羽二重・山梨縣の甲斐絹・岐阜縣の縮緬等産額多く、羽二重は重要な輸出品なり、又愛知縣に於ける木綿織業の發達は、大に注目すべし。諸大河の流域は農産に富み、濃尾越後・越中の各平野は米産に適し、新潟縣は之が最大産地なり。静岡縣の製茶は産額比類なく、木曾山地は森林繁茂し、檜材は品質數量我が國第一の稱あり。鑛産中、新潟縣の石油は産額多く、長岡・柏崎・新津・直江津等、其の中心地をなし、何れも製油工場あり。佐渡の金・山梨縣の水晶亦名あり。其の他石川・静岡・福井三縣の漆器、愛知・岐阜・石川三縣の陶器、静岡縣の駿河

系通交の方地部中

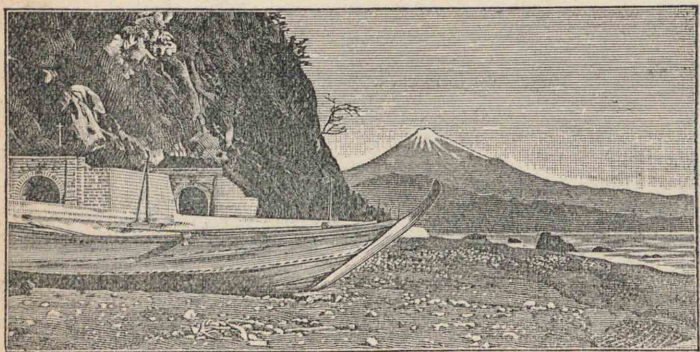


半紙・美濃の美濃紙等名あり。又富士山下の大宮附近には、西洋紙の大製造所あり、原料を多く北海道に仰ぐ。

交通 中部は山嶽重疊し、往來不便なれども、南部と北部とは、海陸の交通共に便なる處多し。鐵道は東海道・信越北陸三線、殆ど中央高地の周邊を一週し、中央線は東京より來り中部を貫き、名古屋に至りて東海道線に會す。海運は太平洋面及び日本海面共に船舶の往來頻繁なれども、日本海は冬日風波荒きを缺點とす。開港場には敦賀・伏木・七尾・新潟・夷・清水・武豊・名古屋あり。

處誌

望遠の富士



静岡縣 静岡市はもと駿府と稱し、徳川家康公退隱の地なり、漆器・竹細工を産し、製茶・和紙の取引行はる。市の東方に東照宮の鎮座せる久能山あり、此處に近き三保松原は、興津・清見・瀨田・子浦・沼津等と共に、富士山との調和甚だ宜しく、何れも風色絶佳にして、眞に東海の勝區なり。

富士山は高さ一萬二千三百餘尺、白扇を倒に懸けたるが如く、山下には河口・山中・西其の他の湖沼横はり、

都邑人口

静岡市 六四、〇八八

濱松市 四三、〇三三

小山町 一六、三六六

島田町 一四、四三三

沼津町 一四、〇三六

大宮町 一三、七六三

三島町 一三、〇九五

田子の浦ゆ打ち出でて見れば、ましろにぞ富士の高ねに雪はふりける（山邊赤人）。

東照宮

（別格官幣社）

祭神徳川家康。

仙客來遊雲外嶽

神龍栖老洞中淵

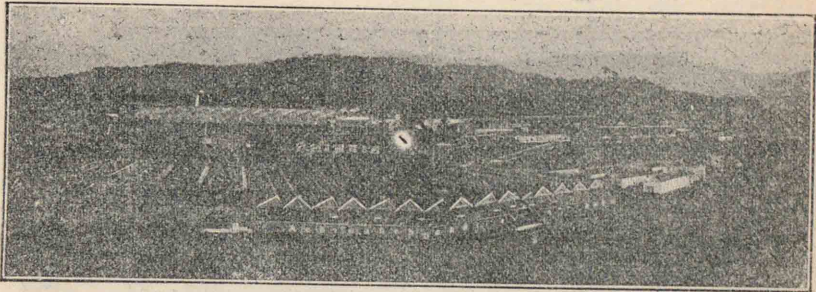
雪如純素煙似柄

白扇倒懸東海天

（石川丈山）。

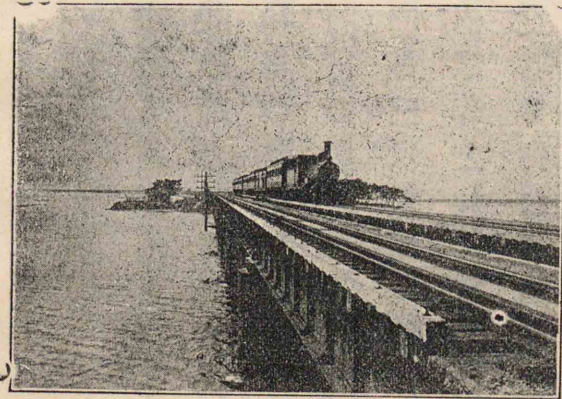
小山は此の工場
あるが爲人口一
萬六千五百の都
會を生じたり。

富士瓦斯紡績社會小山工場



山姿秀麗世界無二の名山にして、御殿場大宮其の他の邑里裾野に發達せり。山頂には噴火口ありて周圍一里弱、火口壁は八峰に分れ、八朶の芙蓉と稱せらる、劍峰最も高く、伊豆嶽は今尙噴氣止まず、山頂の低地に金明水、銀明水の兩湧水あり。盛夏の候、山頂山腹に旅舎備はり、山頂には通信の機關さへ整ひ、登

濱名湖



新版日本

新版日本

伊豆半島西岸の戸田は始めて西洋船を作りし地なり。

下田は安政年間日米下田條約締結の地吉田松陰米艦に乗船せんとして捕へられし處。世の人はよしあし事もいはいへ賤が誠は神ぞ知るらん。
(吉田松陰)

三方原は武田信玄の徳川家康を破りし處なり。

山者甚だ多く、御殿場大宮吉田須走等は、其の登山口に當る。鐵道東海道線は、小山駿河驛を経て御殿場より沼津に下り、靜岡を過ぎ濱名湖口を渡り、濱松を経て愛知縣に向ふ。小山には、富士瓦斯紡績會社の大工場あり。伊豆半島は富士火山帶の通路に當り、天城達磨其の他の火山多く、修善寺熱海伊豆山伊東等温泉に富み、沿岸は氣候良好にして避暑避寒に適し、又南方の下田は開港史上に名高く、葦山蛭小島修善寺等舊跡多し。熱海の大湯は間歇泉にして鹽類泉に屬し、呼吸氣病胃腸病等に効あり、附近温泉の湧出多く、浴客群をなす。

濱松市は縣下主要の商業地にして、又樂器を産す。市の東方に天龍川あり、木材運搬の爲に活氣を呈す、上流に秋葉神社及び久根銅山あり。濱名湖の東に三方原古戰場あり。

甲府市の人口
五、六七二

御嶽の四峰と天狗岩



山梨縣 甲府平野は山嶽
四周して盆地を爲す
勝沼の葡萄園



笹子隧道は長さ
一萬五千尺

し、養蠶機業盛に行はれ、中心地に甲府市あり、水晶細工・葡萄酒を産す。市に近く、武田信玄の城址・墓地あり、酒折宮園は日本武尊を祀る、御嶽は市の北部に位し、昇仙橋・覺圓峰等風景甚だ佳なり。鐵道中央線は桂川に沿ひて郡内地方に來り、猿橋・大月を経て笹子峠の大隧道を通過し、甲府市を経て長野縣に向ふ。勝沼は葡萄の主産地にして、附近の天目山下には武田勝

新版日本

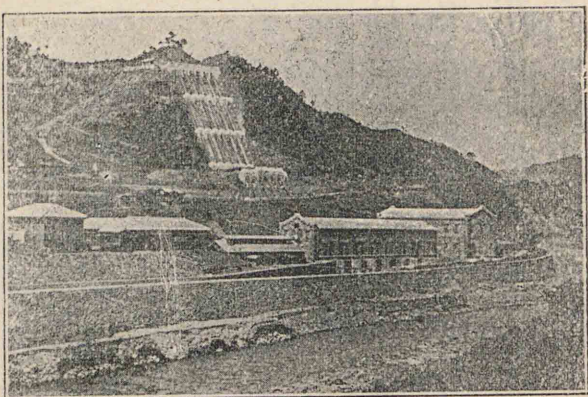
岩淵は東海道五
十三次の一驛な
り。

桂川は、相模川
の上流にしてそ
の水力を利用して
る壯大なる發電
所數箇所あり
て遠く東京市に
送電す。

都邑人口

- 名古屋市 四、〇〇〇人
- 豊橋市 四、六七三
- 岡崎市 三、〇八八
- 一宮町 一、三八七
- 愛知町 二、一五八
- 瀬戸町 一、九二九
- 高師村 一、〇四〇
- 熱田神宮 (官幣大社)
- 祭神草薙劍

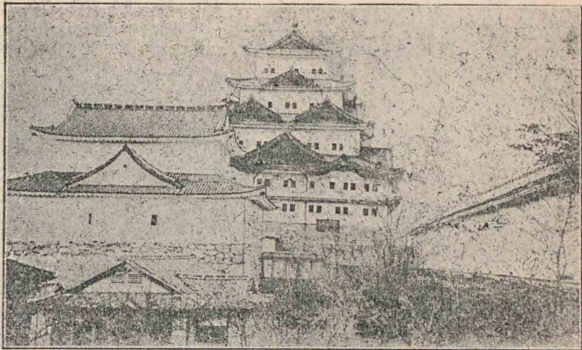
桂川の駒橋發電所



頼戰死の遺跡あり。鰍澤は富士川水運の終點にして、ここより扁舟に身を託せば、奔流矢の如く、半日にして駿河の岩淵に達すべし。縣の南西に身延山・久遠寺あり、日蓮宗の本山なり。桂川は山中湖より發し、神奈川縣に入りて相模川となる、水力電氣業盛なり。愛知縣 名古屋市は東西兩京の間に位し、濃尾平野の中心市場に當り、中京の稱あり、商工業の發達著しく、綿絲・綿布・時計・七寶燒等を産す、第三師團司令部高等工業學校、第八高等學校あり、市の一部なる熱田には、熱田神宮鎮座す。其の港は築港

新版日本

名古屋城



桶狭間は織田信長戦勝の地。小牧山は徳川秀吉の軍を破り、長久手は徳川の羽柴を破りし處。長篠は織田信長徳川家康武田勝頼を破りし地。

豊橋の西方なる高師に第十五師團司令部あり。

著はる。

名古屋の東方、東海道鐵道に沿ひ岡崎・蒲郡・豊橋等あり、豊橋市は商業地として知られ、豊川鐵道ここに分れて、稻荷の祀に名ある豊川を経て北方長篠驛に達す、蒲郡は海水浴地

成り、港内廣けれども水淺きを惜む、市はもと徳川家の舊城地にして、城廓の壯麗なるを以て稱せらる。市の南東に鳴海、有松あり、共に絞を産す。

本縣は源頼朝・織田信長・豊臣秀吉・徳川家康等諸公の出生地にして、其の遺跡多く、熱田は頼朝、岡崎は家康、中村は秀吉、清洲は信長の生地にして、桶狭間、小牧山、長久手、長篠等は古戰場として

新版日本

新版日本

陶磁器産額比較

愛知縣	七三
岐阜縣	三七
京都府	一六
佐賀縣	二九
三重縣	四
福島縣	四
兵庫縣	四
長崎縣	三
神奈川縣	三

村邑人口

岐阜市	三、六七
大垣町	三、五五
高山町	一、七九
中津町	一、五二
多治見町	一、〇〇

天下分け目の戦役地。

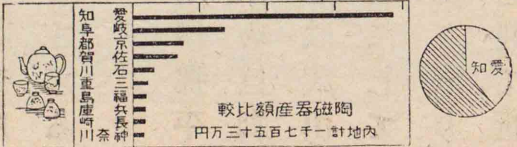
養老の瀑



として著はれ、岡崎市は綿絲及木綿の取引所として知らる。知多半島の半田・龜崎は、清酒・醬油等を産す。名古屋市の北東に瀬戸あり、焼物の産額全國第一に位す、陶器學校あり。岐阜縣 岐阜市は長良川に臨み、絹織物・提灯・團扇等を産す、長良川は鵜飼に著はれ、各務原には、飛行練習所あり。岐阜の西には大垣・垂井及び

關原あり、大垣は米穀の取引盛にして、南西方に養老瀑あり、孝子の美談に著はる。地域幽邃にして風景宜し。關原は徳川・石田兩氏の大

陶磁器産額比較



戰場なり。鐵道中央線の通ずる地方は陶土に富み、製陶業盛に行はる、多治見を其の中心地とす。飛驒高原は土地高燥にして、中心に高山の主邑あり、生絲漆器を産す、水松細工に名ある位山是に近く、其の北に在る船津の神岡は銀鉛亞鉛の産を以て著はる。白川村は毎戸數十人ありて家長に統率せられ、一村其の戸數を増さざるを特色とす、蓋し古代風俗の殘存せるものなり。

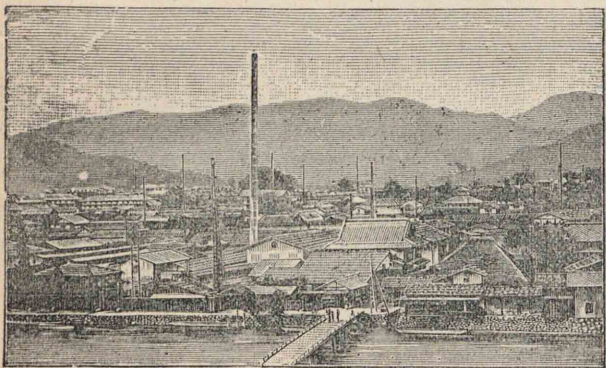
長野縣 長野縣には、善光寺平、諏訪平、佐久平、松本平、伊那平等の小平野散在す。長野市は、善光寺平の中心を占め、巨刹善光寺ありて大に繁昌す。市の南方に在る川中島は、武田上杉兩氏の鏑を削りし古戰場、姨捨山は觀月の勝地にして、田毎の月の名世に著はる。鐵道信越線は群馬縣より來り、輕井澤より淺間火山の噴煙を眺めつつ、上田、長野を経て新

都邑人口
長野市 四、二二八
松本市 三、八八五
上田町 二、四七三
飯田町 一、六〇二
上諏訪町 一、五三三
伊那町 一、二六六

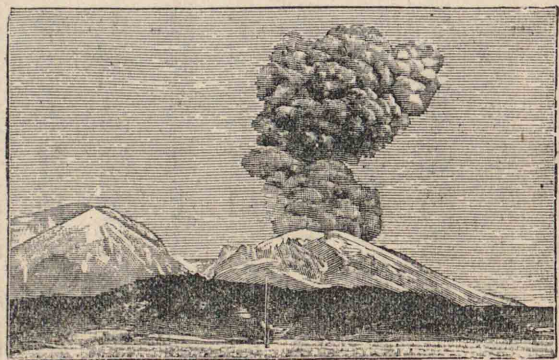
諏訪湖の結氷は、嚴寒の候龜裂線を生じ古來之を明神の神技とし、吉凶禍福を卜し其の龜裂の都度時の執政に上申したる奇習あり、下圖の右方噴煙するは淺間山。

源義仲は木曾山地に生長せり。出づる峰入る山のはの近ければ、木曾路は月の影ぞ短き（鴨長明）。

岡谷製絲場



湯縣に向ふ。輕井澤は海拔三千尺に位し、避暑の好適地なり。上田は佐久平の中心地に位し、養蠶業甚だ盛大にして、且つ蠶絲専門學校の設けあり。松本市は松本平の要部を占め、上田と共に養蠶業の中心地に位す。諏訪平は製絲業甚だ盛大にして、特に湖脚の岡谷は、



業甚だ盛大にして、且つ蠶絲専門學校の設けあり。松本市は松本平の要部を占め、上田と共に養蠶業の中心地に位す。諏訪平は製絲業甚だ盛大にして、特に湖脚の岡谷は、

諏訪神社は上下の諏訪町にあり軍神とし四民の尊崇大なり。

都邑人口

新潟市	八〇、九六三
長岡市	五五、三五四
高田市	三三、四〇三
三條町	一七、九八六
新發田町	一七、三三三
加茂町	一六、四四一
寺泊町	一四、一五五
直江津町	一三、七六七
五泉町	一三、七六六
新津町	一三、三三六
相川町	一三、一七三
柏崎町	一〇、〇八一

新潟市は對岸の沼垂をも含む。

諏訪湖氷の上の騎兵



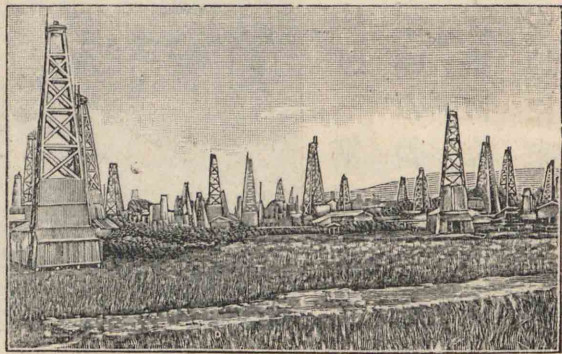
其の製産額全國第一なり。湖畔に近く諏訪神社あり。湖水は冬期氷結し、近時氷滑の技盛に行はる。天龍川の流域に高遠・飯田あり、飯田は伊那平の中心に當る。縣の南西部一帯を木曾地方と稱し、森林多く良材を出す、福島は之が中心地なり、御嶽に登るには此の地より入るべく、夏季登拜者群集す。木曾川の溪間には、寢覺の床・木曾棧道等の奇勝あり。

新潟縣 新潟市は信濃川の口に跨り、越後平野の門戸を成す、醫學専門學校あり。風波荒き時は船舶は佐渡の夷に避難す。鐵道磐越線は新津より起り五泉を経て

新版日本

新版日本

新潟の油田



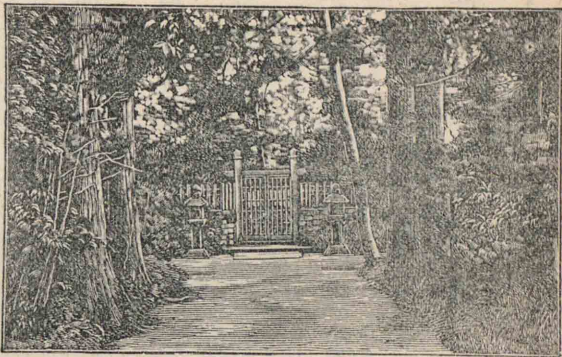
阿賀川に沿ひ福島縣に向ふ、五泉は袴地(五泉平)を産す、其の南に村松あり。村上線に沿ひ新發田・村上あり、共に北部の名邑なり。新潟より信越線により南行すれば新津・三條・長岡・柏崎・直江津及高田あり。長岡市は明治戊辰の激戰地にして、東山・西山等附近石油の産多し。長岡に近く透綾縮布を産する小千谷、紬を産する栃尾あり。越後鐵道線によれば出雲崎・寺泊・彌彦山あり、寺泊は往昔、佐渡渡航の要津なり。彌彦山には同名の神社あり、士民の尊崇大なり。高田市は深雪を以て名高く、第十三師團司令部あり、春日山城址是に近し。直江津は鐵道

春日山は上杉謙信の古城なり

眞野山陵は順德
帝御火葬所なり

都邑人口
富山市 六八、〇三二
高岡市 六六、〇四五
新湊町 八、三二九
魚津町 一五、四四九
氷見町 一四、〇七一

眞野御火葬場



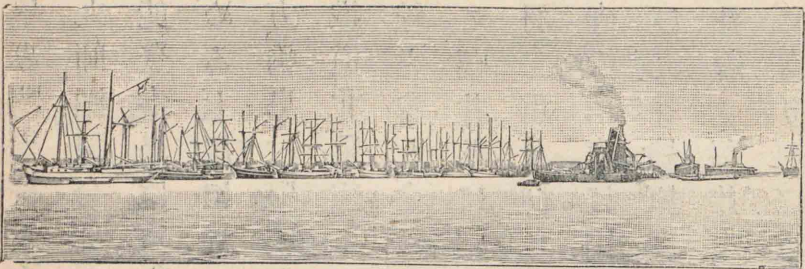
北陸線の分岐點に當り、以西は地形急峻にして其の親不知子不知の如きは古來險要の地と稱せらる、されど今は道路、鐵道を通ずるに至れり。佐渡島は形狀法馬の如く、相川は金山の中心地たるを以て榮え、無名異焼を産す。順德天皇の御火葬場是に近く、又眞野灣頭には同帝を祀れる眞野神社あり。夷は新潟の外港をなす。

富山縣 富山市は、神通川に跨り、富山平野の中心に立ち古來賣藥の製造に著はれ、遠く朝鮮支那其他に行商す。市の京東に立山を望むべし。鐵道北陸線は東方魚津を経て此の地に來り、夫より西方高岡を過ぎ、俱利加羅峠の北方を

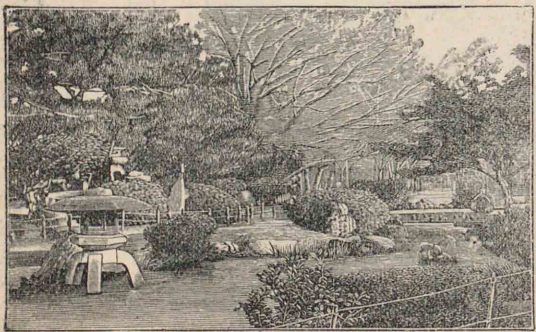
俱利加羅峠は木曾義仲平軍を襲殺せし處。
義仲のねざめの跡（月窓）
（芭蕉）

都邑人口
金澤市 二九八、〇四八
小松町 一五、二六四
輪島町 一三、一三四
七尾町 二六、〇〇〇

伏木港



貫きて、石川縣に入る。高岡市は銅器及び漆器を産し、伏木と船車を通ず。伏木は築港成り、風波の虞少なきを得たり、米の積出し多し。魚津は漁港として知らる、春夏の候、海上に蜃氣樓を見ることあり。石川縣 金澤市は北陸第一の都會にして、羽二重漆器、九谷焼、硬質陶器、銅器等を産す。



都邑人口
 福井市 一六、三〇八
 敦賀町 一六、七〇一
 武生町 一六、六七四
 大野町 一〇、二六三
 三國町 一〇、〇三三

醫學專門學校及高等學校等あり。舊藩主前田氏の居城は第九師團司令部となり、城後の兼六公園は景趣掬すべし、能登半島は東方に七尾灣を擁し、灣内能登島横はる、灣に枕める七尾に近く和倉温泉あり。北方、輪島は、堅牢なる漆器を産す。鐵道北陸線は、七尾に起れる七尾線と會し、金澤・小松・大聖寺等を経て、福井縣に向ふ。小松・大聖寺は、羽二重及び九谷焼を産す。大聖寺の南東に、中山・山代の温泉場及び九谷焼原産地なる九谷あり。福井縣 福井市は、福井平野の中心に當り、羽二重業の盛大なるこ

藤島神社



新版日本

新版日本

別格官幣社藤島神社の位置は義貞戦死の地に非ず。

敦賀港



と本邦第一に位し、背後の足羽山腹に新田義貞公を祀れる藤島神社あり。又東方に永平寺あり、曹洞宗の大本山なり。九頭龍川口の三國(坂井)は福井市と小舟を通ず、上流の大野は、羽二重業の中心地なり。又武生附近は奉書紙を産す。

敦賀浦鹽斯徳間の航路は約四十時間を要す。
 氣比神社 (官幣大社)
 祭神 神功皇后
 外六神
 金ヶ崎宮 (官幣中社)

を限り、日本海重要の開港場にして、浦鹽斯徳港と定期船を通じ、歐洲に至る最近通路に當る、町に氣比神宮鎮座す。又金崎に、吉野朝忠士の鮮血を留めし處、尊良恒良兩親王を合祀せる金ヶ崎宮あり。小濱は水産物・漆器・若狹塗を産す。附

近は鯛海膽其の他の水産物多し。

第四章 近畿地方

總説

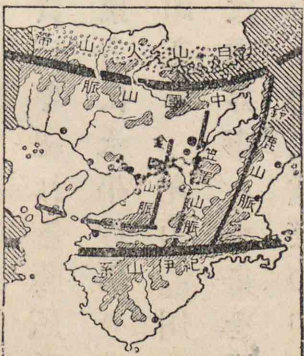
位置 畿内及び附近の地にして歴代帝都たりし處、舊跡名區甚だ多し、行政上二府五縣に分つ。

地勢 大阪灣若狹灣、伊勢海三方より相迫りて、本州の最

府縣名	管轄	府縣廳所在地
京都府	山城・丹波・丹波の大部	京都市
滋賀縣	近江	大津市
奈良縣	大和	奈良市
三重縣	伊賀・伊勢・志摩・紀伊の一部	津市
和歌山縣	紀伊の大部	和歌山市
大阪府	河内・和泉・攝津の東半部・攝津の西半部・播磨・但馬・淡路・丹波の一部	大阪市
兵庫縣		神戸市

狹部を成す。北に丹波高原ありて、中國山脈の一部を

近畿地の勢及都府市布



新版日本

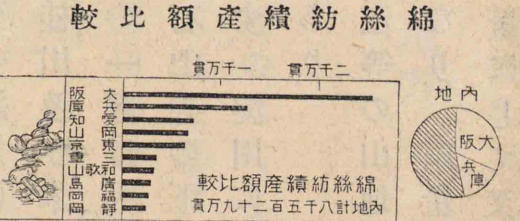
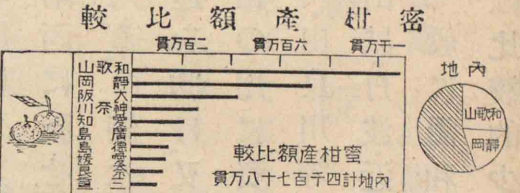
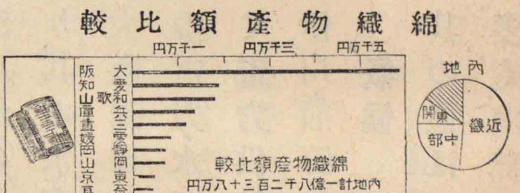
新版日本

近江八景
 堅田落雁
 比良暮雪
 矢橋歸帆
 粟津晴嵐
 唐崎夜雨
 石山秋月
 三井晚鐘
 瀬田夕照
 石山寺は琵琶湖上に近く紫式部の源氏物語を著せし處と稱せらる居室尙存す。

なし。南には紀伊山系東西に走り、其の間には金剛・笠置・鈴鹿等の各山脈南北に竝走して、攝河泉・奈良・山城・近江・伊賀・伊勢等の各平野を限る。琵琶湖は近江盆地の内に横はり、本邦第一の大湖にして周圍六十餘里、湖畔は風景明媚にして、近江八景の名夙に著る、又交通便にして汽船湖上を縦横に走り、其の水南西に駛せ、桂川及び木津川を合せて淀川となり、大阪灣に入る。湖水の一部は、大津より京都に疏して同市の電力・水運を助け、又石山寺の下なる南郷より宇治に疏して電力供給の用に資す。淀川に次げる河川には、大和川・紀伊川・熊野川・由良川等あり。

氣候 山城・丹波・近江等の山地は寒暑の差甚しけれども、其の他は一般に溫和なり。雨量は紀伊半島の南部に最も多く、内部は比較的少量にして、又日本海方面には冬季に甚

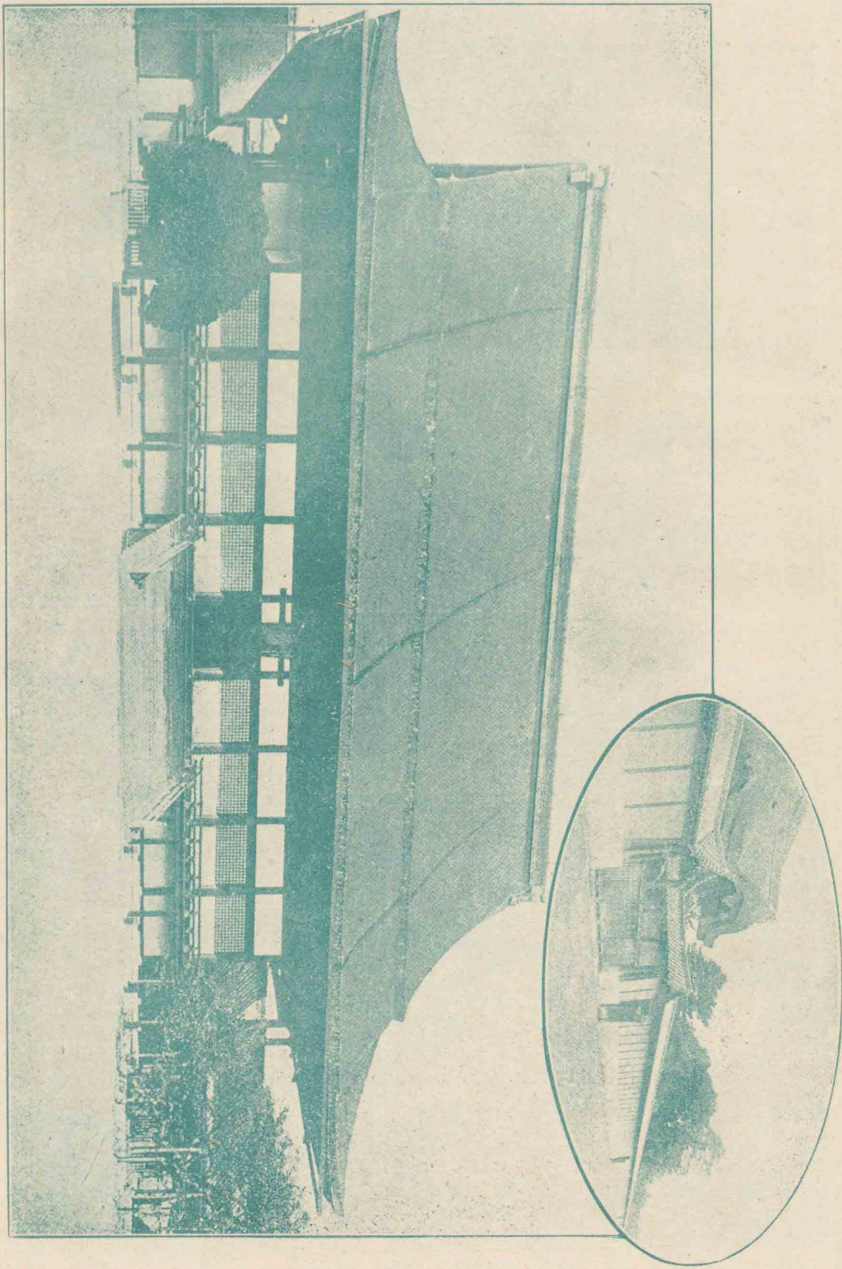
綿織物産額比較		蜜柑産額比較	
大阪府	5,873	(温州紀州の類)	
愛知縣	1,845	和歌山縣	6,666
和歌山縣	1,772	靜岡縣	7,377
兵庫縣	1,012	大阪府	4,311
三重縣	1,012	神奈川縣	3,628
愛媛縣	844	愛知縣	2,282
靜岡縣	792	德島縣	1,151
岡山縣	792	廣島縣	1,011
東京府	582	奈良縣	1,179
奈良府	460	三重縣	1,011
		大阪府	3,541
		兵庫縣	1,120
		愛知縣	422



し、紀州蜜柑は古より著る。山陰地方は牧牛盛なり。林業は南部の山地に盛にして、熊野・高野を主とし、和歌山・新宮は木材の集散地なり。工業亦頗る發達し、大阪・兵庫の綿絲、京都の美術工藝品世に著はれ、和歌山の綿フランネル・漆器、

だ多し。
 生業 夙に開けたる地方なるを以て、人口稠密にして生業よく發達す。農産中米は、伊勢・近江・播磨、綿は大阪平野に多く産し、菜種は近江・伊勢に多く、京都附近の野菜茶の栽培は最も進歩

田原市田原町

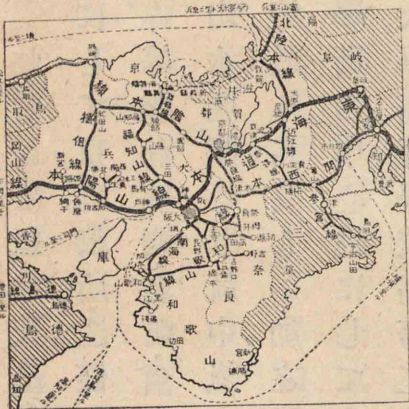


(處るらせ行機を典大の位即) 阪 京 紫

岡山縣 六〇
 東京府 三三
 三重縣 三三
 和歌山縣 三三
 廣島縣 三三
 福岡縣 三三
 静岡縣 三三

郡邑人口
 京都市 五九三〇
 伏見町 三二一四
 朱雀野村 一七六五
 新舞鶴町 三三六二
 舞鶴町 三三六二
 餘部町 二八五六

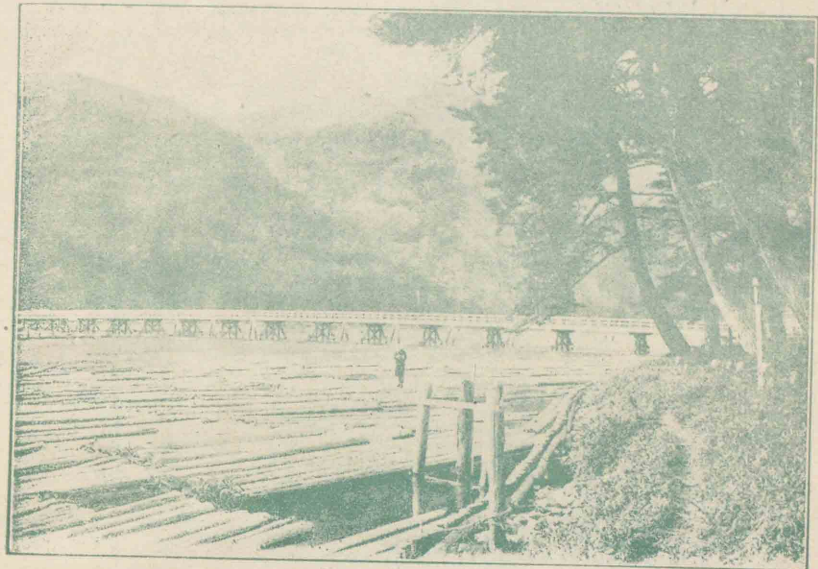
近畿の交通系



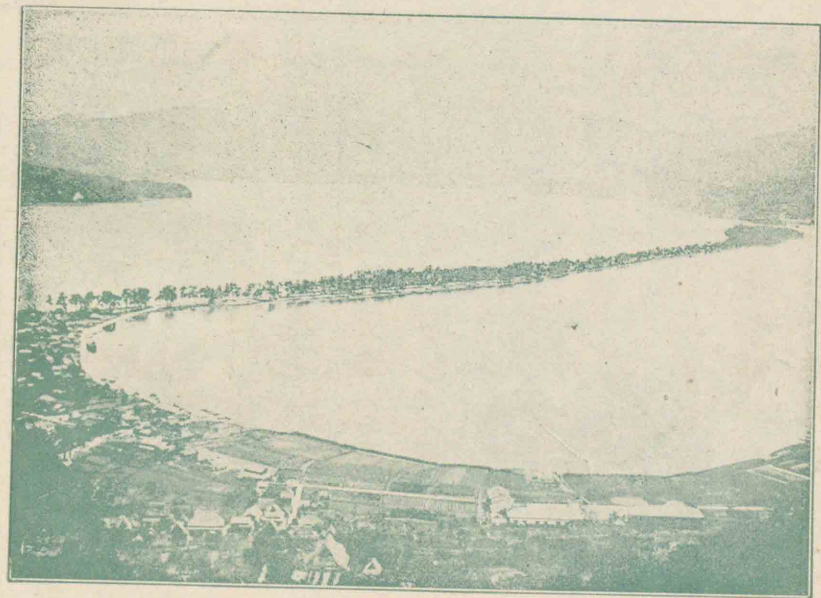
大阪・兵庫の燐寸、灘地方の清酒、長濱・峯山の縮緬、堺の段通、等名あり。水産業は和歌山・兵庫・三重各縣を主とす。
交通 山地の外、水陸の交通便にして設備よく整へり。鐵道の主なるものは、東海道・關西南海・福知山・山陽・山陰諸線にして、京都・大阪は之が二大中心地點なり。京阪神地方電車の發達は、全國無比なり。海運は、大阪・神戸を起點とし、内外諸港に連絡す。開港場には、神戸・大阪・四日市・宮津あり。

處誌

京都府 京都市は山城平野の北隅に位し、行政上、上京・下京の二區に分る、市街極めて端正な



嵐山渡月橋

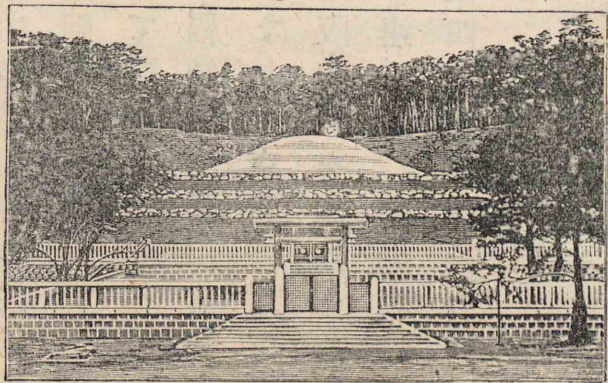


天の橋立

西陣は市の北西部の總稱にして其の織物に綾錦金襴緞子、縞子、縮緬等あり。

り。此の地は桓武天皇奠都以來一千有餘年の帝都たりし處にして、京都御所、二條離宮、平安神宮、金閣寺、東西本願寺、泉涌寺等、神社、佛閣、名所、舊跡頗る多く、又附近は形勝の地に富み、山水明媚なり、就中嵐山、高雄山等最も名高し。加之關西地方學術の中心地にして、京都帝國大學、高等學校、高等工藝學校、高等蠶業學校等あり。市民は古來美術品の製作に巧なれば、美術工藝の大中心に當り、西陣織、友禪染、清水焼、粟田焼、京塗、京紅、白粉、京人形等を産す。第十六師團司令部、市の南方にあり。

桃山御陵



新版日本

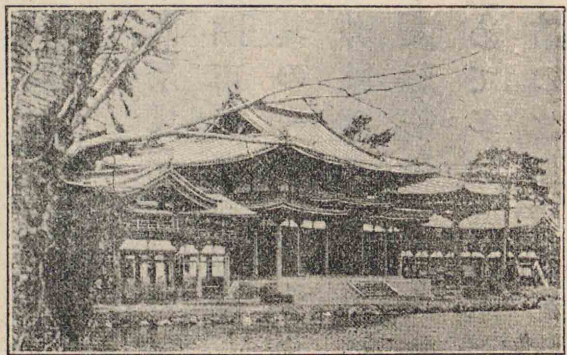
新版日本

むもれ木の花咲くこともなかりしに身の成果ぞあはれなりける (頼政)。
よさの海やかすみわたれる夕なぎにたえだえ見ゆる天のはいで (讀人知不)。

郡邑人口
大津市 81,100人
彦根町 33,000人
長濱町 22,300人
三井寺又園城寺

伏見は、京都市の南に當り、其の丘陵地、桃山には桓武、明治兩天皇、昭憲皇太后の御陵あり。宇治は伏見の南東に位し、宇治茶の中心地にして、古跡多く、其の平等院は源賴政最後の地なり。舞鶴灣の東支には舞鶴軍港あり。宮津開港場の北には天橋立あり、一條の沙洲、遠く海中に突出し、長橋空に架るが如く、白沙青松相映ずる處、絶景言はん方なし。

宇治の鳳凰堂



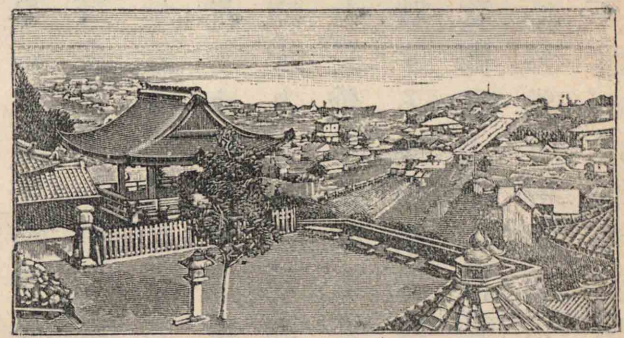
滋賀縣 大津市は琵琶湖の南西隅に位し、湖上汽船航路の中心に當り、商業頗る盛なり。市内に園城寺あり、琵琶湖を瞰下すべく、眼下より疏水を京都に通ず。湖の東岸に八幡

といふ延暦寺と共に天台宗の大本山なり。井伊大老、本邦開國史に名ある人傑なり。姉川は織田淺井兩氏の合戦地。賤ヶ岳は羽柴柴田の會戦地。本鎗勇士の奮闘地。

都邑人口
奈良市 四、九八八
郡川町 一、五二二
丹波市町 一〇、一〇一
高田町 一〇、一〇一

天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも。
(安部仲磨)

望眺の(寺井三)寺城園



物館女子高等師範學校等あり、濱物晒布、人形筆墨等を産す。市の内外を始め縣下各地は名所舊跡極めて多ければ、大和巡りとして巡遊者四時絶ゆることなし。市の北東には笠置

日野彦根及び長濱あり、八幡は蚊帳の産地として知られ、日野と共に行商を出すこと多く、長濱は良質の縮緬を産し、彦根は井伊氏の城地たりし處、北方の姉川、賤ヶ岳は古戰場として著はる。

奈良縣 奈良市は奈良朝七代の舊

都にして、奈良公園市の東部に接し、

春日山、三笠山は、其の一隅に位す、市

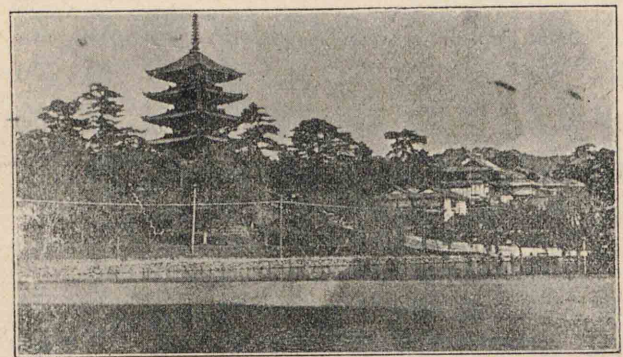
内に正倉院、春日神社、東大寺、帝室博

新版日本

新版日本

笠置山は後醍醐天皇の行在所ありし所なり。吉野山には奥上中下の千本櫻の名所あり。吉野山霞の奥は知られども見ゆる限りに櫻なりけり(八田知紀)。かへらじとかねて思へば梓弓なきかずに入る名をぞとむる。
(楠正行)
吉野宮
(官幣大社)。

池の澤猿内園公良奈

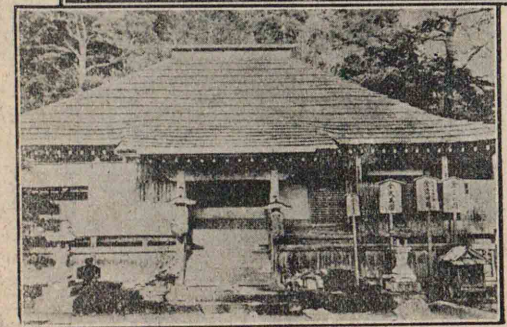
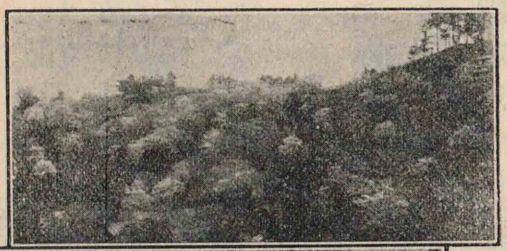


山は、吉野川に近き丘陵地にして、陽春櫻花之を彩るや、満山霞の如し、又吉野朝

山あり、吉野朝の事蹟に著る。之より關西線によれば郡山を経て巨剎に名ある法隆寺に到るべし、附近金魚の産多し。橿原神宮、談山神社に詣づるに

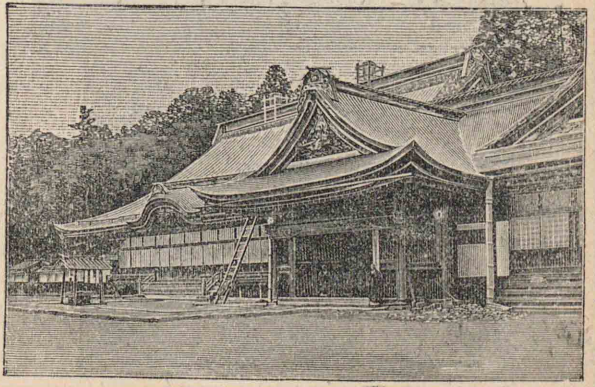
は櫻井線によるべし、吉野

堂輪意如(下) 櫻本千の下(上)



の舊跡多く、吉野宮、吉水神社(皇居跡)藏王堂及び如意輪寺等あり。吉野宮は後醍醐帝を祀り、如意輪寺は小楠公の故事に知られ、又同寺に隣りて後醍醐帝の御陵あり、人をして轉懷舊の涙に咽ばしむ。

高野山金剛峯寺



都邑人口

和歌山市七六三
新宮町 二二七
箕島町 二六二
湯淺町 一〇六六
那智の瀧は直下八十餘丈ありと稱せらる、遠く海上より望むべし。
なちの山雲井に見ゆる岩根より千ひろにかかる瀧の白糸。
(光明寺舞政)

和歌山縣 和歌山市は徳川三家の一たる紀州侯の舊城下にして、紀伊川の口に位し、綿フランネル製造の中心地なり、附近に和歌の浦、紀三井寺及び漆器の産地たる黒江あり。

紀伊川に沿ひ根來寺及び粉河寺あり、上流の高野には弘法大師の開きし金剛峯寺あり、高野山一帯は杉槇の良材を

産し、又氷豆腐を製出す。有田川沿岸は蜜柑を産し、湯淺箕島は之が集散地なり。潮岬には無線電信局あり、近海は潮流急にして航海困難なるも、鯨の産地として、夙に世に著る。新宮は熊野川口に位し、木材薪炭(備長)の産に著はる。其の西方の那智山中には、有名なる那智の瀧あり、新宮本宮那智に各熊野神社あり。北山川には瀨八町の勝地あり。

都邑人口

大阪市 三、五八、三
堺市 六、七、七
豊崎町 二、六、三
岸和田町 三、六、七
鷺洲町 三、二、八
中本町 一、九、九
中津町 一、八、三
天王寺村 一、〇、三

莫大小、産額
二千萬圓

大阪府 大阪市の淀川の口に位し、主として三角洲上に立ち、今や築港殆ど成り、水陸交通の便を占め、東京市と共に商業上、經濟上、交通上の二大中心を成す。行政上四區に分る、高等商業學校、高等工業學校、大阪醫科大學あり。豊太閣の築ける大阪城は、第四師團司令部の所在地となれり。貿易上支那との取引多く、又綿絲紡績業盛大にして産額我が國第一に位し、又莫大小・モスリン・セメント・燐寸・硝子等の製

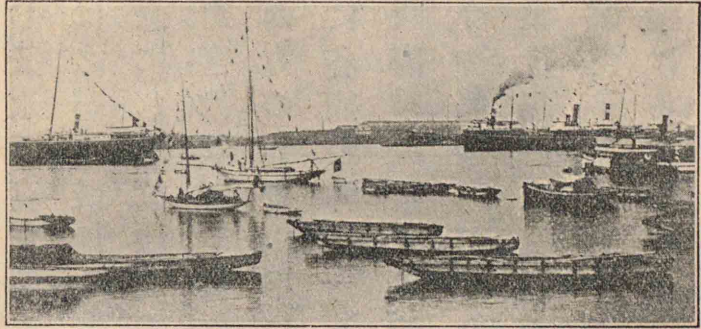
大阪市に安治川
電氣製鍊所あり
て亞鉛製鍊に従
事す、神島亞鉛
製鍊所と共に年
額一千萬圓に近
し。

都邑人口	四二、六七〇人
神戸市	四二、六七〇
姫路市	四〇、三六六
伊石町	二七、五五三
尼ヶ崎町	一五、〇四五
西宮町	一〇、四八二
洲本町	一六、八三三
須磨町	
生野町	
由良町	一〇、七九五
高砂町	一〇、一五五

造亦盛なり。

大阪市の南に堺市あり、大和

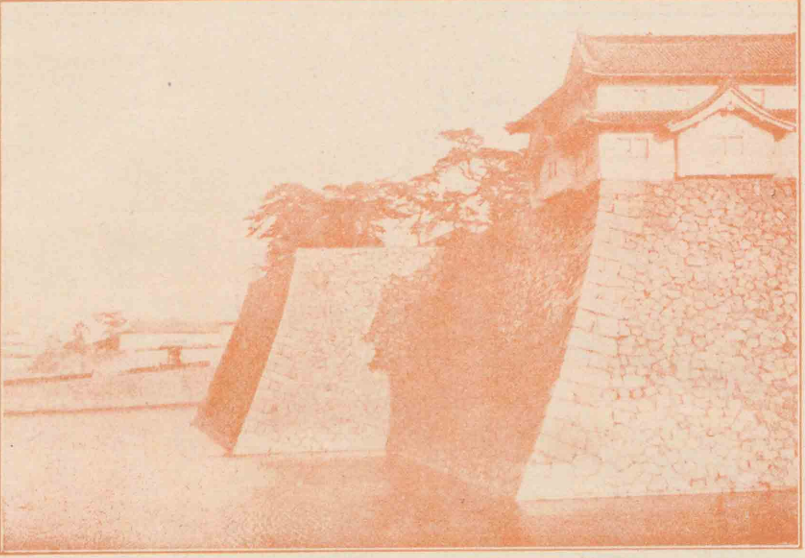
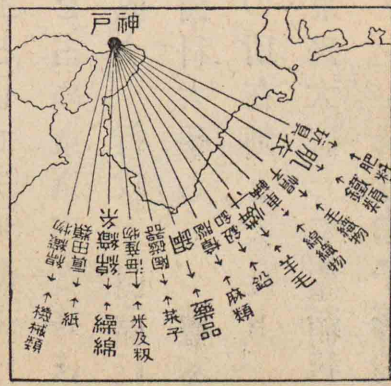
神 戸 港



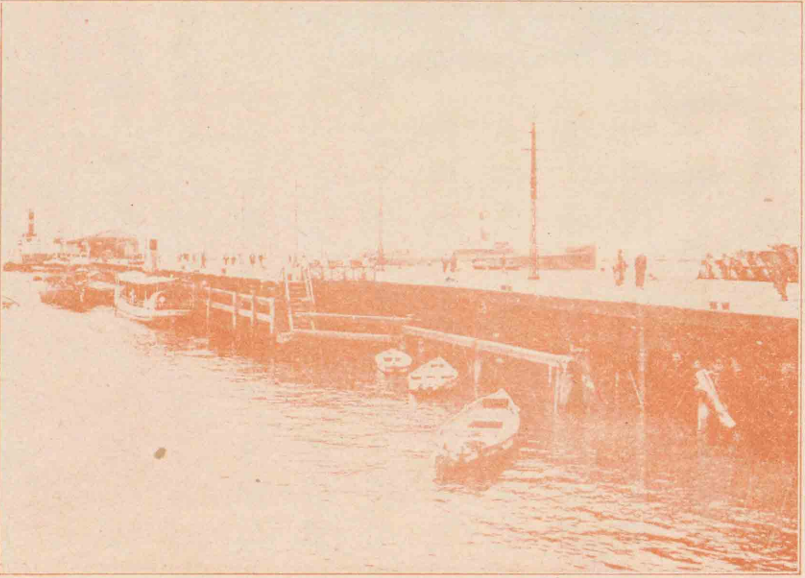
川の口に
當り、鐵器
酒段通、双
物を産す。
攝河泉平

野附近は吉野朝の史蹟多く、東に四條
畷北東に櫻井、南東に金剛山あり。
兵庫縣 神戸市は横濱と共に東西の
二大開港場にして、綿鐵類機械肥料米
毛織物等を輸入し、綿織絲銅燐寸莫大
小眞田・金巾花筵等を輸出す、高等商業

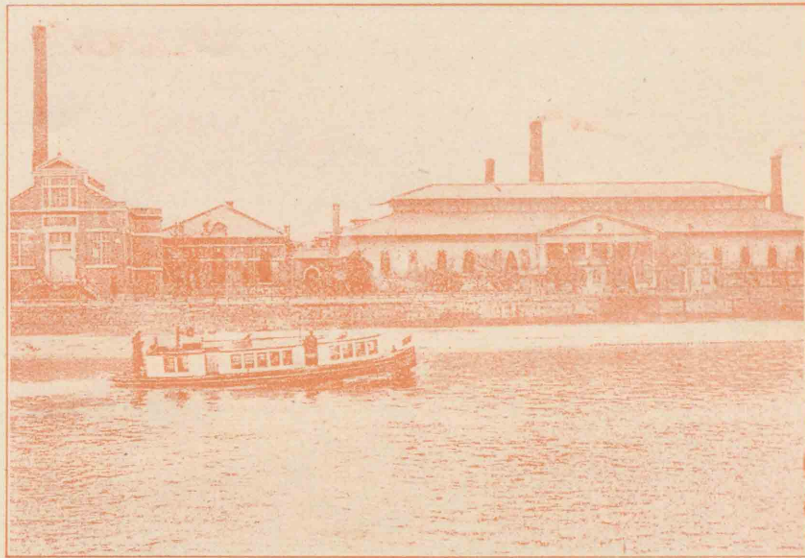
品入出輸要主港戸神



大 阪 豊 臣 秀 吉 の 築 城
(城 築 の 吉 秀 臣 豊)



大 阪 港 の 埠 頭
(の も る け 於 に 港 築 新 の 市 阪 大)



造幣局
(帝國の貨幣製作所)



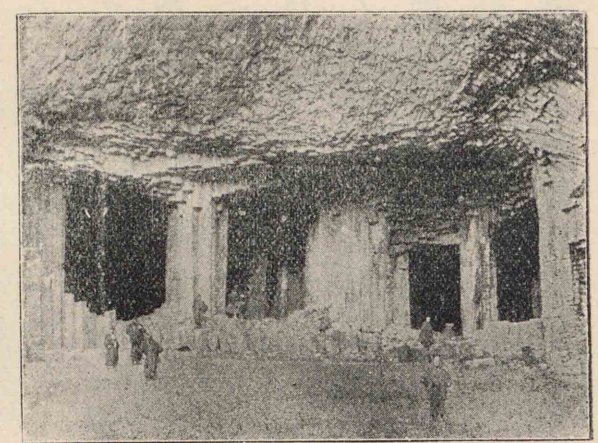
道頓堀
(大阪市中最も繁華な市街)

新版日本

湊川神社
(別格官幣社)
祭神楠木正成

ほのぼのと明石の浦のあざざりに舟をしぞ思ふ
(楠本人丸)

玄 武 洞



多く、之を飲料に製出す炭酸水これなり。神戸以西には須磨・舞子・明石・高砂等白沙青松の勝地相連り、須磨の北には一谷・鶴越等源平の古戦場あり。

学校の設あり、工業も亦盛にして、隣寸綿絲等の産出多し。港内の川崎・三菱兩造船所は規模宏大なり。市内に楠公を祀れる湊川神社あり。楠公遺跡の湊川は人工によりて河道を變じ、今や廢川となり、四民雑沓の俗地と化せり。市の北に有馬の温泉あり、附近炭酸泉の湧出

神戸より起れる鐵道山陽線は、明石・姫路を経て岡山縣に

姫路城は太閤秀吉の築きし著名の堅城なり。玄武洞は紫野梨山の命名。

都邑人口
津市 四七、三五
宇治山田市 四、三五
四日市市 三、八二
桑名町 二、九三
松坂町 一、七九
上野町 一、五九
尾鷲町 一、三〇
龜山町 二、五七

向ふ。姫路市は酒井氏の舊城下にして其の居城は第十師團司令部となれり、革細工・高砂染を産す。城崎温泉は、玄武洞の奇觀と共に著はれ、豊岡は、柳行李を産す、其の南に生野の銀・銅山あり。淡路島は人口最も密にして洲本・由良・福良等の名邑あり、洲本附近より淡路焼を産す。由良・福良は内海の咽喉に當る要塞地帯なり。

三重縣 伊賀は山地を占め、木材・薪炭を産し、上野を中心地とす、伊賀焼を産す。桑名は伊勢平野の北端に位し、米穀の市場なり。四日市市は其の南に位し、綿絲を産し、米の積出多く、附近より萬古焼を産す。

鐵道關西線は桑名・四日市を過ぎ、龜山に至り、南に參宮線を分つ。能褒野は龜山の北に位し、日本武尊薨去の地なり。鐵道參宮線は津市・松坂を過ぎ、宇治山田市を経て志摩半

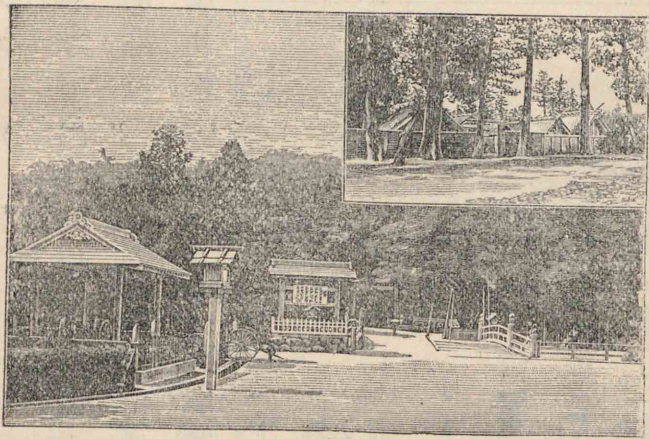
新版日本

新版日本

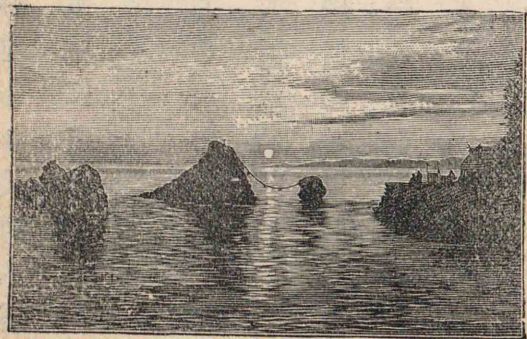
何事のおはしま
すかは知らねど
もありがたきに
ぞ涙こぼるる。
(西行)

下圖は二見浦

(宮外は圖大宮内は圖切)宮神勢伊



には豊受大神を奉祀す、神域廣く老樹鬱蒼として自ら崇敬の念を起さしむ。參



拜者常に絶えず。其の東方に二見浦の勝地あり、又海水浴地として知らる。宇治山田及び二見浦は電車によりて連絡せらる。

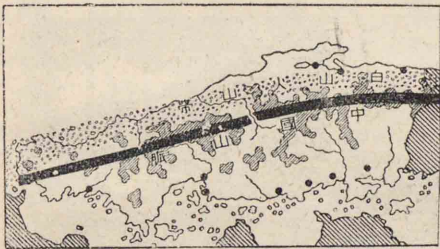
志摩半島は海岸線の出入に富み、風景よく水産物多し。鳥羽港は古來有名にして、帝國海軍の恩人近藤眞琴翁の郷地なり、墓表尙存す。英虞灣其の他に眞珠貝の養殖行はる。尾鷲は太平洋岸の名邑なり。

第五章 中國地方

總説

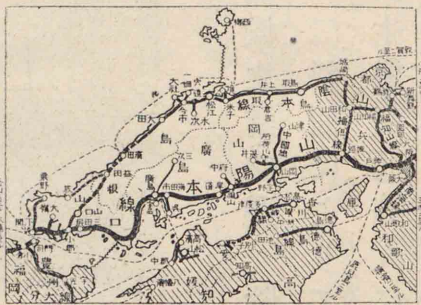
位置 中國地方は本州の西部を占め、北は日本海に、南は瀬戸内海に面す。行政上之を五縣に分つ。

中國の地勢及都邑分布



竹島は島根縣の管轄な。

中國の交通系



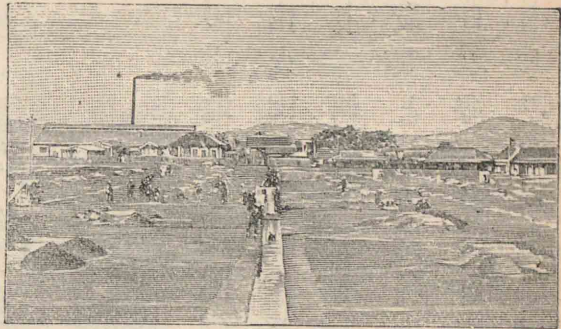
地勢 中

國山脈東西に貫通して、本土を山陰山陽の二斜面に分つ、土地險峻ならざれども、一般に山がちにして高原を成し、花崗

岩の山地多く、赭山到る所に存し、平野の大なるものなし。白山火山帶其の北部を東西に走り、大山・三瓶山・蛭山等起せり。河流は主として南流又は北流す、日本海斜面の江川を最大とし、内海斜面の旭川・吉井川・太田川等これに次ぐ。日本海面には島根弓ヶ濱の兩半島突出して、中海を抱き北の方隱岐列島に對する外出入少なければども、瀬戸内海面

縣名	管轄	所在地
岡山縣	美作・備前・備中	岡山市
廣島縣	備後・安藝	廣島市
山口縣	周防・長門	山口町
島根縣	出雲・石見・隱岐	松江市
鳥取縣	因幡・伯耆	鳥取市

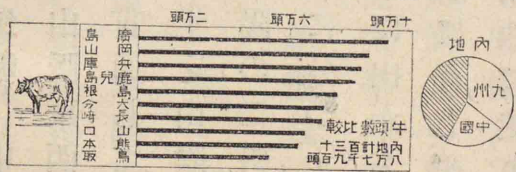
牛頭數比較	廣島縣	岡山縣	兵庫縣	鹿兒島縣	島根縣	大分縣	長崎縣	山口縣	熊本縣	鳥取縣	壘表産額比較	廣島縣	大分縣	岡山縣	靜岡縣	石川縣	熊本縣	莫産及花産産額比較	岡山縣	廣島縣	福岡縣	東京府	石川縣
百	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇	百	九	八	七	六	五	四	百	九	八	七	六	五



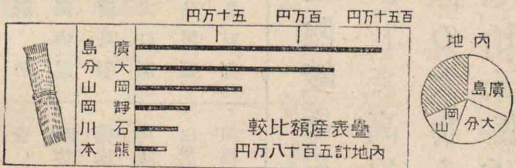
三田 田 鹽 田 三
 たり。
 氣候・生業・交通 陰
 陽の二斜面によりて
 氣候・生業・交通等大に

は港灣極めて多く、明石・鳴門・下關・豊豫各海峽を以て他の海洋に通じ、域内には大小無數の島嶼點點散布し、沿海は白沙青松之を彩り、風光の美世に優れ

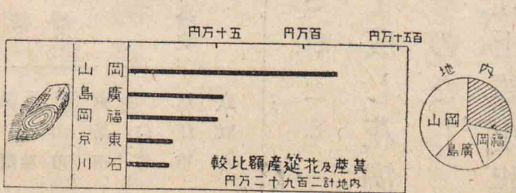
較比額産牛牧



較比額産表壘



較比額産筵花及産莫



新版日本

新版日本

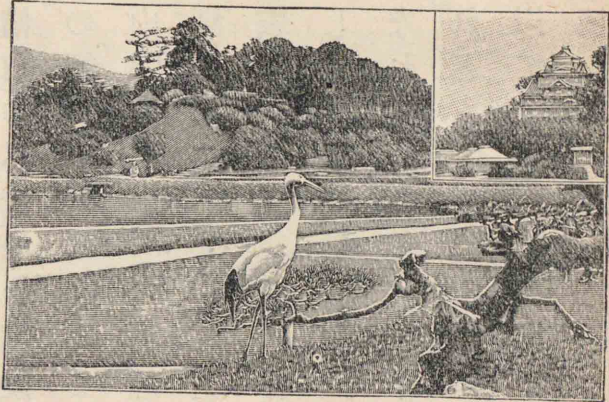
趣を異にす。南面は氣候溫和にして、各種の産業發達し、沿海地は港灣に富み、鐵道完備し水運便利にして、特に船舶の設備は最もよく整へり。沿海は魚及び鹽の利多く、兒島半島(備前)の外側、松永(備後)三田(周防)は製鹽に名高く、瀬戸内海の鯛、廣島灣の牡蠣また名あり。砂鐵は山地に多く、銅は岡山縣(吉岡)石灰(大嶺)大理石(吉秋)は山口縣に産す。牧牛は岡山、廣島二縣最も著る。工藝品には岡山縣の綿絲、三備地方の壘表、莫産及び花筵、麥稈、眞田等名あり。日本海面は良港に乏しく、冬季は氣候不良の地多く、又平野狹小にして交通不便なれば、文化稍劣り、牛、砂鐵、海産物等の外著しき産物なし。然れども、鐵道山陰線開通し、又其の支線は次第に延長するを以て、今後大に面目を革むべし。開港場には下關・絲崎・濱田・境あり。

都邑人口
岡山市 六、六六一
玉島町 三、六三六
津山町 一、七〇三
倉敷町 一、三九八
笠岡町 一、一七〇
岡山市の郊外に第十師團司令部あり。

笠岡の海上に神島亞鉛製錬所あり。

天莫(空)勾踐(時非無)范蠡(兒島高德)。

後樂公園と岡山城



處誌

岡山縣 岡山市は旭川に跨り、池田光政遺業の地にして舊城尙ほ存し、後樂公園と相對す、市内に高等學校、醫學專門學校あり。又工業の中心地に當り、綿絲、疊表、花筵を産す。後樂公園は世に名園と稱せらる。山陽鐵道は船坂峠を過ぎ、此の地に來りて、北方、津山に向へる中國線と南方、兒島半島に至る宇野線とを分ち、西方、倉敷、玉島、笠岡等、綿絲の産地を過ぎ、廣島縣に向ふ。津山は美作の名邑にして附近の院、庄は兒島高德の事蹟

新版日本

新版日本

兒島半島の灣内は堤防を築き、陸地を乾潤せしめて水田を作りつつあり。

都邑人口
廣島市 一七、一三〇
吳市 二六、三三三
尾道市 三、二六六
福山市 一六、五五五
江田島村 一四、一五五

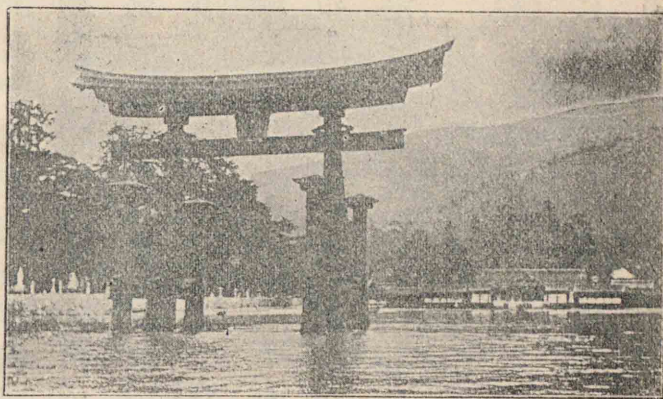
三戰役。
日清戰役
北清戰役
日露戰役

みつしほに月よりの宮居かな(宗良)。

を以て名高し。兒島半島は開墾大に進み、米鹽の産多く、宇野は四國の高松と定期船を通ず。下津井に無線電信局あり。高粱川流域は麥稈眞田を産し、高粱は之が中心地なり。廣島縣 廣島市は太田川の河口に跨り、淺野氏の舊城下、中國第一の都會にして、第五師團司令部、控訴院、高等師範學校あり。市の一部なる宇品は其の南に在り、近時の三戰役に大輸送地となりしより、益々繁盛に赴けり。吳市は海軍鎮守府の所在地にして、造船所、製鋼所等規模宏大なり、四國の高濱港と船舶往復す。其の前面の江田島には海軍兵學校あり。廣島市の山地は山繭織を産し、可部は之が集散地なり。嚴島は廣島灣の西側に立ち、島中嚴島神社あり、山に倚り海に臨み、潮満つれば、社殿浮ぶが如く壯麗比なし、山頂彌山よりの眺望亦甚だ宜し。近海は牡蠣の養殖盛なり。

都邑人口
下關市 七〇七五五

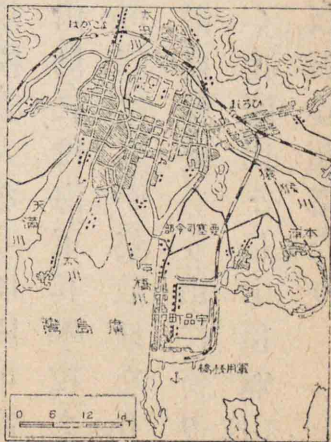
社 神 島 殿



行はれ、又麻の産多し、三次は江川に沿ひ盆地の中心に位す。山口縣 山口は山間の名邑にして、高等商業學校及び龜山

鐵道 山陽線 沿へ 備後 沿海 花筵

廣島市附近略圖



新版日本

新版日本

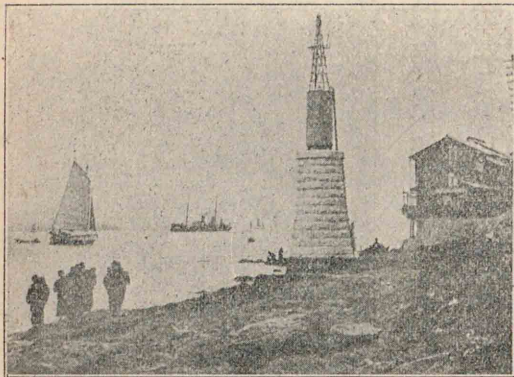
防府町 三六九四
山口町 三六七三
萩町 一七二九
徳山町 一五三七
柳井町 一三二四
岩國町 一〇八五

釜山下ノ關間は 僅に百二十哩を 隔つるのみ連絡 船之を連ぬ。

赤間宮は安德帝 の御陵と共に市 の丘陵に在り春 帆樓ヲ接寺と相 並ぶ。

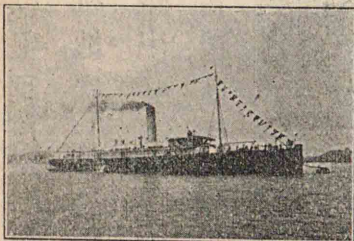
春帆樓は日清平 和條約の締結 所。 引接寺は當時清 國使節李鴻章の 宿泊せし處な り。

檀 の 浦



公園あり。南方沿海には岩國・柳井・徳山・防府(三田尻)・小野田・下關等の名邑あり。岩國は錦帯橋に名ある岩國川に沿ひ、柳井と共に縮布織を産す。徳山には海軍煉炭所あり、原料を長門の大嶺及び朝鮮の寺洞に仰ぎ、盛に煉炭を製出す。小野田にはセメント大工場あり。下關市は瀬戸内海の咽喉を扼し、九州の門司と呼應し、米の取引多く又硯石を産す。朝鮮本土間聯絡の要地なり。東の海上を檀浦といひ、源平二氏の古戰場にして、安德帝を祀れる赤間宮は市内の丘地に在り。

關釜連絡船



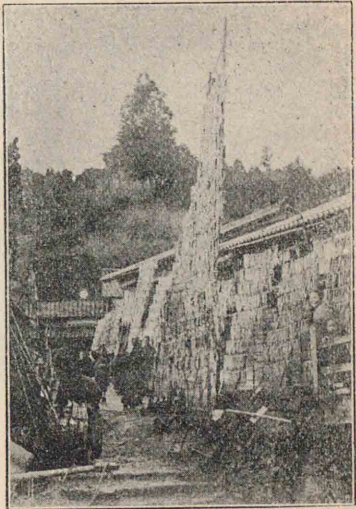
都邑人口

松江市 三、八、三三
濱田町 一、三、〇〇六

出雲大社は伊勢神宮に次ぐ著名の神社にして大己貴命を祀り、(官幣大社なり)。

われこそは新島守とおきの海のあらし浪風心して吹け
(後鳥羽天皇)。

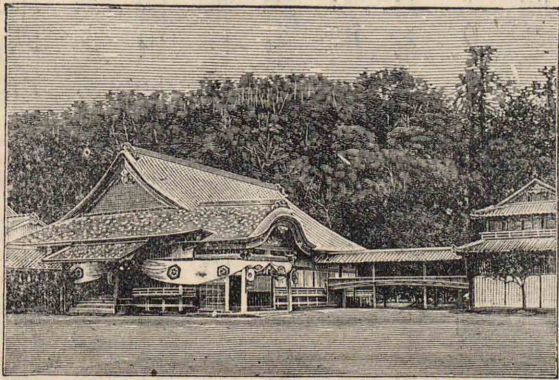
隠岐の鯛の乾燥



日本海面の萩は毛利氏山口移城前累代の城地にして、明治の功臣多く輩出せり、萩焼及び夏蜜柑を名産とす。
島根縣
松江

市は風景絶佳なる宍道湖に臨み、八雲塗を産し、又近傍より出雲焼及び青瑠璃を産す。杵築は島根半島の西端に近く、出雲大社あり、濱田津和野は石見の名邑なり。隠岐は島前島後の二に分れ、至尊の御舊跡多く、島後には西郷の良港

出雲大社 本社



新版日本

新版日本

わすれぬやよる
べも波のあらい
そをみ船の上に
とめし心を
(後醍醐天皇)。
都邑人口
鳥取市 三、四、八
米子町 二、四、五
海柳を白珊瑚と
稱す。

宍道湖より大なる山を望む



あり、近海柔魚の産多し。
鳥取縣 鐵道山陰線によれば鳥取、御來屋、米子を経て出雲に向ふ。鳥取市は賀露川に臨み、賀露港を控ふ、近海より海柳を産す。倉吉は木綿の産地なり。米子は中海の要津なり。弓濱は弓狀をなし、中海を圍み、風景よし、大山は中國第一の高山にして其の裾野は牧馬盛なり。船上山、御來屋等は元弘役の舊跡として知らる。

第六章 四國地方

總説

位置 四國は瀬戸内海の南に横はりて、其の形、蝙蝠の兩

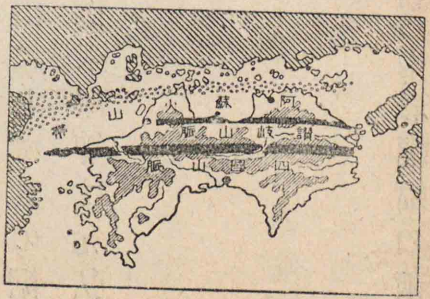
高知縣	愛媛縣	香川縣	德島縣	縣名
土佐	伊豫	讚岐	阿波	管轄
高知市	松山市	高松市	徳島市	所在地

分つ。

地勢

四國山系東西に貫通して、四國を南北の二部に分つ、南部は地勢特に險峻なり、劔山、右鎚山は山系中の主峯なり。吉野川は四國第一の大河にして、流域六十里、其の流域は農産豊富なり。其の他南流する川には物部川、仁淀川、渡川等あり、何れも横谷をなす。海岸は屈曲に富み、南方には室戸、蹠陀、兩岬突出して土佐灣を抱き、西方豊後水道に臨める處は沿岸鋸齒狀を呈す。北岸は島嶼甚だ多く、小豆島には神懸、寒霞溪の奇

四國の地勢及び都市分布

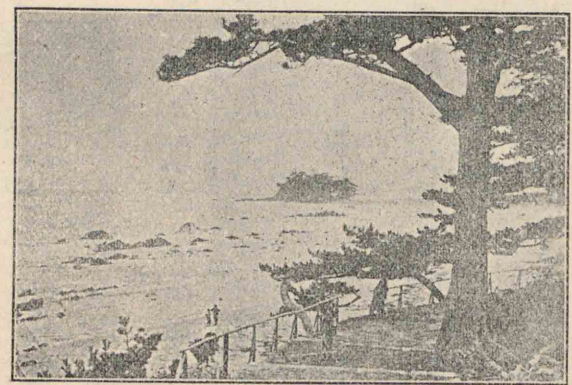


新版日本

和紙産額比較

高知縣	東京府	愛媛縣	岐阜縣	福岡縣	廣島縣	兵庫縣	福井縣	香川縣
七五	三五	三〇	二五	二〇	一五	一〇	五	五

鳴門



製鹽甚だ盛なり。又甘蔗(讚岐銅子)の産多し。南岸は黒湖の影響を受け、高温多雨にして林産に富み、樟腦、椎茸を産し、沿海は鯉、鯨、珊瑚等の産多く、土佐節の名世に著る。又土佐、伊豫

勝あり。阿波、淡路間の鳴門海峡は潮水激して渦流をなし、航行危険なり、小舟はよく小鳴門を通過す。氣候、生業、瀬戸内海地方は、氣候對岸の中國と同じく、住民勤勉にして、よく沿海遠淺の地を乾かして鹽田を作り、撫養坂出、今治、高松附近等

和紙産額比較



四國の交通系



の和紙吉野川沿岸の藍は、其の産額甚だ大なり。

交通 鐵道は徳島・香川・愛媛等に短線ありて、一局部の交通を助くるに過ぎず、只吉野川に沿へるもの稍見るべし。電車は各都邑に多少發達せり。外海面は航運便ならざれども、内海方面は高松・多度津・高濱等より中國・近畿地方と盛に往來し、交通極めて便なり。

處誌

徳島縣 徳島市は蜂須賀氏の舊城下、四國第一の大都會にして、綿・フランネル、阿波縮等を産す、小松島は徳島の咽喉に位し、其の南に富岡・日和佐の名邑あり。鐵道は徳島より吉

新版日本

都邑人口
 徳島市 七、九三三
 撫養町 一、九六四
 小松島町 一、三六二

蔓橋は次第に針金橋に代りつつあり、早晩滅絶するに至るべし。

撫養附近の鹽を齋田鹽と呼ぶ。

都邑人口
 高松市 四、八七九
 丸龜市 二、六八五
 坂出町 一、六五〇
 善通寺町 一、八二八
 觀音寺町 一、三六九

祖谷の蔓橋



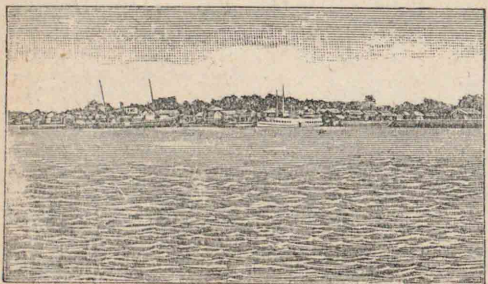
野川に沿ひて池田に達す。吉野川中流の脇町は葉藍、池田・貞光は煙草を産す。吉野川支流の祖谷は谷深く山高く交通不便を極む、蔓橋の奇觀あり。池田の南に大

新版日本

崩壊・小崩壊の峽谷あり、風景良し。劔山は祖谷川の水源地に當り、夏季登拜者多し。沿海は水産物多く、撫養は製鹽業の中心地なり。

香川縣 地域小なれ共人工によりて水利普く通じ、農産に富み、又製鹽・製糖業發達す。人口稠密なり。高松市は築港完

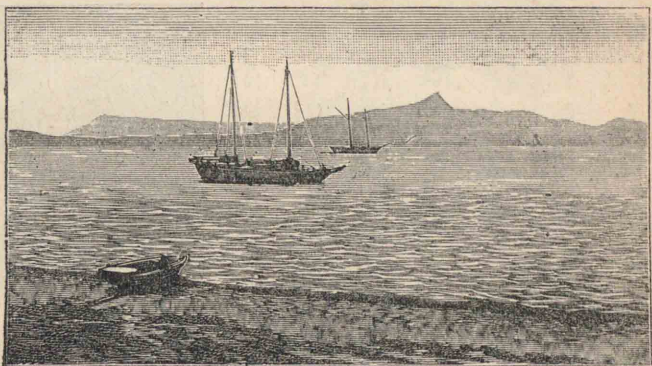
高松港の遠望



屋島は何れより見るも形状家根の如く島上平かなり屋島寺ありて源平兩家其の他の遺物を藏す。

栗林公園は規模廣大園池樹木の排列海内其の比無かるべし。

五 劍山 と 屋島



又第十一師團司令部の所在地なり、琴平は金刀比羅宮を以て著る、宮は象頭山の山腹に鎮座し、讚岐平野を隔てて飯野

備し、中國の宇野と定期船を通じ保多織漆器を産す。市の南方に栗林公園、東方に屋島あり、屋島は形状屋の如く、五劍山と東西相對し、其の間に源平の古戰場あり。東境の引田は製糖業の中心地なり。鐵道讚岐線は高松市より坂出、丸龜市、多度津を経て伊豫に向ひ、支線は善通寺を経て琴平に達す、丸龜市よりは花菴團扇を産す。多度津は丸龜の門戸に當り、善通寺には同名の寺院あり、

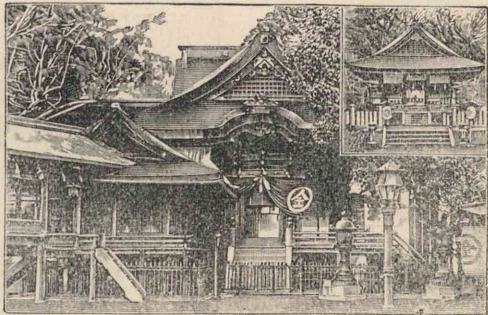
新版日本

新版日本

金刀比羅宮は海人酒造家等の尊崇大にして參拜者絶ゆる事なし。國幣中社、祭神大物主神、崇徳天皇

都邑人口
松山市 四、五、八、八
今治町 一、八、三、三
宇和島町 三、二、三
三津濱町 一、〇、五、九

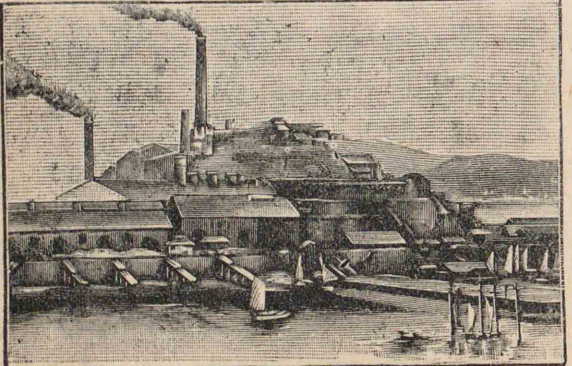
金 刀 比 羅 宮



西北には三津濱・高濱の兩港ありて共に松山の門戸に當る。

高繩半島の沿岸には鹽田多く、今治を名邑とす。新居濱の南に市川及び別子あり。別子は銅山を以て知

住 友 四 阪 島 製 鍊 所

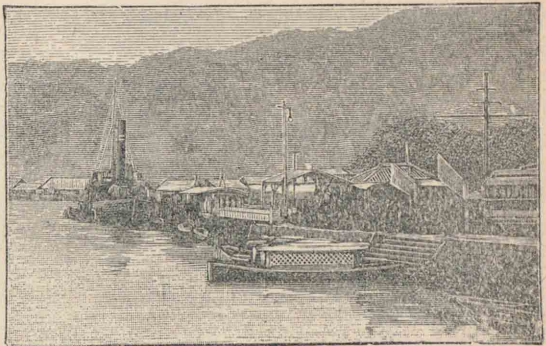


山(讚岐富士)瀬戸内海を望むべし。内海の鹽飽諸島は古來海人を出すこと多く、栗島には航海學校あり。愛媛縣 松山市は重信川の流域に位し、附近より伊豫絋を産す。其の東方に道後温泉あり、又

高知市人口

五、三〇八

吸江の棧橋



られ、其の銅鑛は之を四阪島に輸送して精鍊す。豊後水道斜面には宇和島八幡濱等の港あり。

高知縣 高知市は風景よき吸江灣に臨み、山内氏の舊城地にして、明治維新の際數多の名士輩出せり。灣口の浦戸は神戸・大阪等と汽船の便あり。仁淀川流域は、製紙業盛にして、土佐半紙の産多く、産額全國に冠たり、伊野を中心とす。其の南西方に須崎の良港あり。室戸崎附近は捕鯨に著はれ、其の他水産物亦多く、蹉陀岬附近は氣温の較差極めて小にして熱帶植物の蒲葵其の他よく繁茂し、西方の沖島附近は珊瑚を産す。

新版日本

新版日本

第七章 九州地方

總說

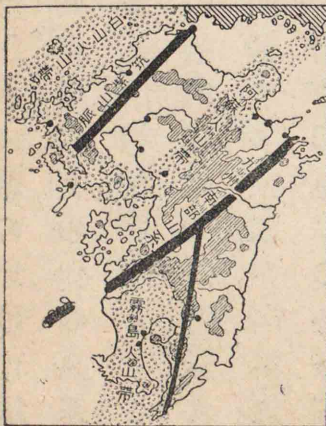
位置 九州地方は本州の南西方に當り、猿猴の舞踏するに似たる九州島及び壹岐・對馬・薩南諸島・琉球列島等を含む。行政上之を八縣に分つ。

九州山系は一に九州南部山系とも稱す。

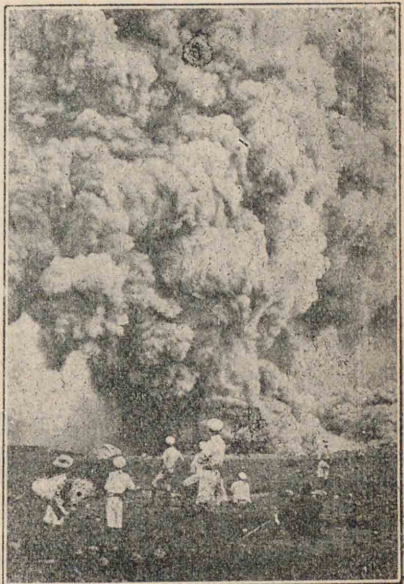
府縣名	管轄	所在地
福岡縣	筑前・筑後	福岡市
佐賀縣	肥前の東半	佐賀市
長崎縣	肥前の西半	長崎市
熊本縣	壹岐・對馬	熊本市
大分縣	肥後	大分市
宮崎縣	豊前の東半	宮崎町
鹿兒島縣	日向	鹿兒島市
沖繩縣	大隅・薩摩・薩南諸島・琉球	那覇區

地勢 北に筑紫山脈、南に九州山系連亘す。筑紫山脈の通ずる地方は山脈斷續し、土地高からずと雖も、九

九州の地勢及び都市分布



阿蘇山



九州山系一帯の地は市房山・祖母嶽其の他の高峯聳え、山勢雄偉なり。この兩山地の間に阿蘇火山帯の多良・温泉・阿蘇・九重・由布・鶴見等の各峯崛起す。九重は九州第一

の高峯なり。又南方には霧島火山帯の諸峯噴起し、霧島櫻島・開聞・諏訪瀬島・鳥島等の諸火山あり。

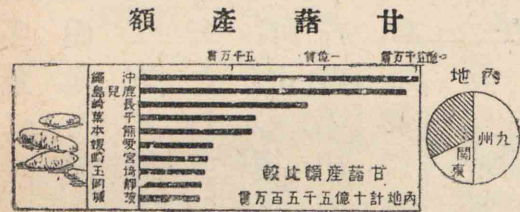
河流は以上の山地に發し、筑紫次郎の稱ある筑後川を始め、球磨川・内川・菊池川・白川・緑川等は西流し、遠賀川・山國川は北流し、大淀川・一瀬川・美美津川・五箇瀬川は東流す。筑後川の流域には筑紫平野、白川・緑川の流域には肥後平野横は

遠賀川流域には汽車の通ずること多く、運河も大に發達せり。これ石炭の産出大なる爲めなり。

泊天草洋
雲耶山耶奥耶越
水天勢露青一髮
萬里來泊天草洋
煙橫蓬窓日漸沒
瞥見大魚波間跳
大白當舟明似月
(頼山陽)。

甘藷産額比較

沖繩縣	一、〇〇〇
鹿兒島縣	四、〇〇〇
長崎縣	九、一五三
千葉縣	六、一七五
熊本縣	六、三三三
愛媛縣	三、九一九
宮崎縣	三、七四〇
埼玉縣	三、五〇〇
靜岡縣	三、三九五
茨城縣	三、二七〇



る。西海岸は屈曲頗る多く、島原半島の内側には、島原灣深く入り込み、八代海の西には天草島横はる、其の外海は天草灘なり。又肥前の彼杵半島の内側には大村灣あり。瀬戸内海面には國東半島突出して別府灣を抱き、九州の南部には鹿兒島灣突入し、灣頭の櫻島は大正三年の破裂により熔岩海峽を埋め大隅と接續して其の半島となれり。琉球列島は薩南諸島と連りて九州島と臺灣島との連鎖をなす。

氣候生業 溫暖多雨にして、殊に南するに従ひ最も甚し。農業發達し、米産多く、肥前米・肥後米最も著る。大分の疊表は産額廣島縣に次ぐ、國分の煙草、鹿兒島・沖繩兩縣の甘藷・砂糖亦名あり。本地方は鑛産物に富み、北部地方は石炭を

門司小倉若松附近は工業發達し煙突林立し黒煙の感あり。

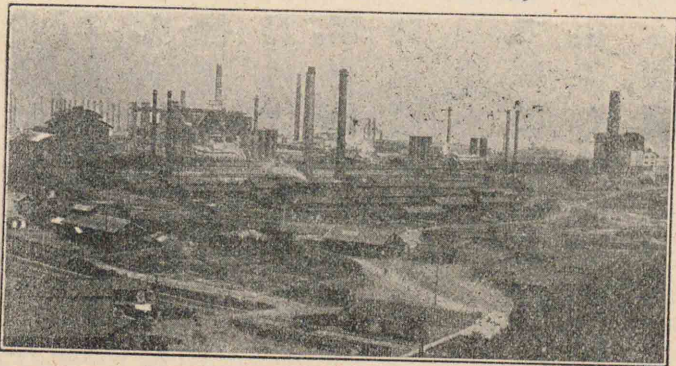
石炭産額比較

福岡縣	一八四
北海道	七六六
福島縣	五八六
佐賀縣	四四六
長崎縣	三三三
山口縣	二四四
茨城縣	一四四
内地計	六〇〇三

石炭産額比較



島原灣 岸の鯉 及び牡蠣名あり 繩縣の沖

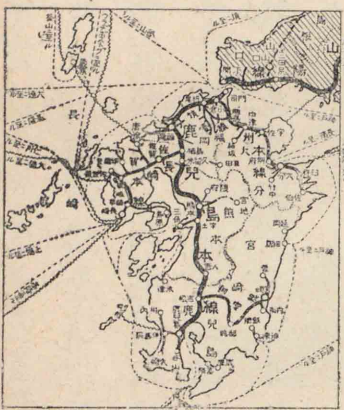


新版日本

新版日本

有田燒は伊萬里より輸送せらるるを以て伊萬里燒とも稱せらる。博多織は良質の帶地、袴地なり。門司港と下ノ關港とは狭き海峡の兩側に在るを以て殆ど同一港の觀あり。

九州地方交通圖



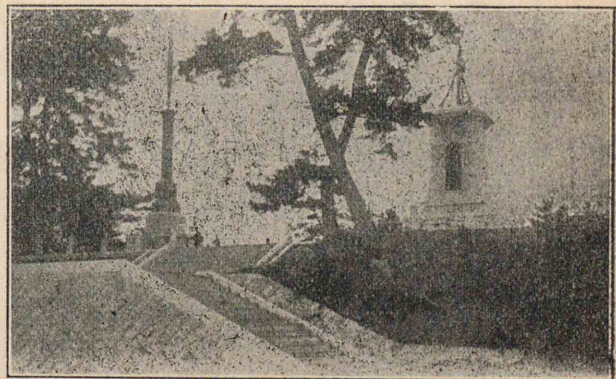
水産亦見るべし。工業品には、福岡縣の小倉織・博多織・久留米・緋鹿兒島・沖繩兩縣の緋・紬及び上布、肥前の有田燒、薩摩の薩摩燒、錫器等名あり。

交通 九州の西部と北部との海岸は、出入多く良港灣に富み、且つ石炭業の發達は、港灣の修築と鐵道の發達進歩とを促し、水陸の交通便にして、東洋諸國に對して重要な地位を占む。鐵路中、鹿兒島線は門司・鹿兒島を連ねて本島の幹線をなし、其の支線に長崎線・豐州線・宮崎線等あり。筑豊炭田地方には、短距離の鐵道多く、加之本地方の動脈たる遠賀川の如き、數多の運河之に連絡し以て海岸地方と炭田地方とを連絡す。

海運は、長崎・門司を大中心として、内地は勿論朝鮮及び諸外國と船舶の往來繁し。開港場には長崎・門司・博多・若松・唐津・住江・口津・三池・三角・那覇・嚴原・鹿見・佐須奈あり。

處誌

福岡公園



都邑人口
福岡市 九七、三〇〇人
門司市 七、九七〇
大牟田市 四、八〇〇
八幡市 四、六〇〇
久留米市 三、二〇〇
小倉市 三、一〇〇
若松市 二、五〇〇
飯塚市 二、〇〇〇
直方町 一、五〇〇
龜山天皇の銅像は元寇撃退の記念碑なり。

福岡縣 本縣は鑛業・工業の發達著るしく、人口の集中甚大にして、都邑の發達を促し、福岡・門司・小倉・久留米・若松の五市の外大牟田及八幡も最近市制を布けり。門司市は下關と相對し、水陸交通の要路に當り、石炭の集散地として著る、又セメントの大工場あり。小倉市は第十二師團

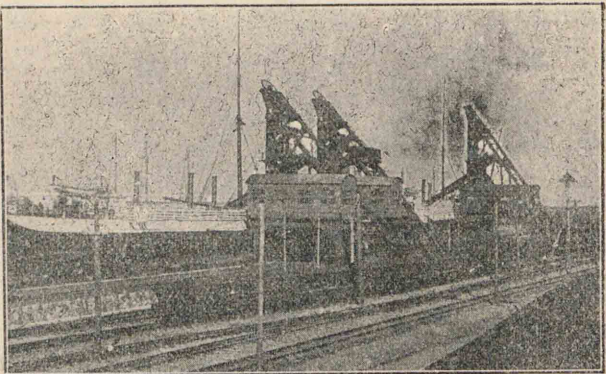
新版日本

新版日本

三池は石炭輸出の爲めに築港せられ開港場となれり。其の設備東洋第一と稱せらる。

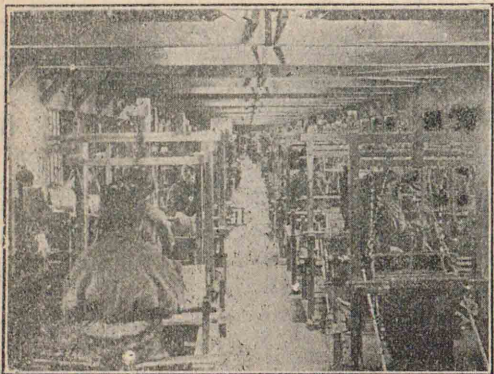
福岡市は附近の町村を合す時は人口十二萬を越ゆ。市に近き名島は神功皇后凱旋の地なり。

三池石炭積機



司令部の所在地、鐵道豐州線の分岐點に當り、附近工場多し。若松市は、石炭の輸出を以て著はれ、之に近き八幡には宏大なる製鐵所あり。原料は主として支那の大冶、朝鮮の殷栗、載寧等に仰ぐ。福岡市は博多港を控へ、前方に海の中道

久留米米機業所



突出し、よく風波を防ぐ、九州帝國大學あり、又博多織を産す。附近には元寇の舊跡及び箱崎宮・香椎宮あり。

こちふかばにほ
ひおこせよ梅の
花主なしとて春
な忘れそ(菅
公)。
人臣にして官幣
社に祀られしは
菅公一人のみ。

箱崎宮

(官幣大社)。

祭神應神天皇

香椎宮

(官幣大社)。

祭神功皇后外

太宰府神社

(官幣中社)。

祭神菅原道真

都邑人口

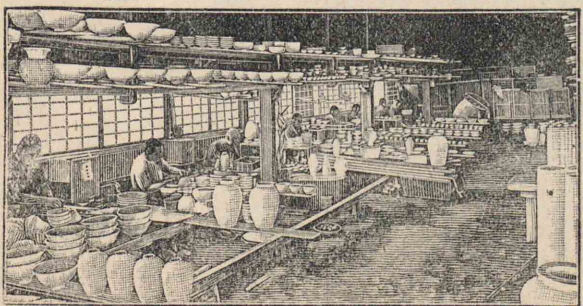
佐賀市 一六、六〇〇

唐津町 一三、九〇〇

下圖は有田の香
蘭社に於ける工
場を示す。

太宰府は福岡の南に位し、菅公の配處として知られ、同公を
祀れる太宰府神社あり。
久留米市は筑後川の南岸に立ち、第十八師團司令部の所
在地にして、又久留米緋を産す。
直方^{ナホ}は遠賀川^{ウツカ}に沿ひ石炭
礦業の中心地なり。
佐賀縣 鐵道長崎線は、鳥栖^トにて、鹿兒島
線と分れ、佐賀を過ぎ、武雄の温泉地、有田
の陶業地を経て、長崎縣に入る、又別に唐
津線及び伊萬里線を出す。佐賀市は、鍋
島侯の舊城地にして、又米穀の集散地な
り。唐津は、唐津灣に臨み石炭の積出多
く、其の北西なる名古屋は豊公征韓の役
に本營を置きし處なり。

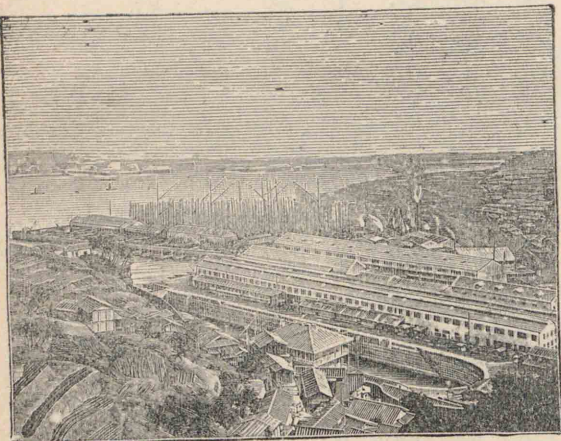
造 製 器 陶



新版日本

長崎は繁榮の一
因は三菱造船所
あるによる。
都邑人口
長崎市 一六、二〇〇人
佐世保市 九、九〇〇
西有家村 二、三〇〇
富江村 二、七〇〇
茂木村 二、七〇〇

渠 船 菱 三



門學校高等
商業學校及
び規模壯大高
なる三菱造船
船所等あり。
沖合の高島
は有名なる
石炭坑を有
せり。佐世



九三

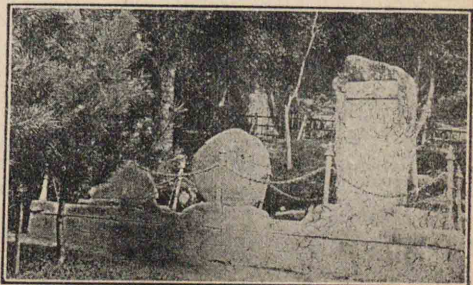
對馬は滿潮時に於ては南北二島に分る。

保市は海軍鎮守府の所在地なり。五島の福江は良港にして、大瀬崎には無線電信局あり。

對馬は日本海の南門を扼し、國防上主要なる位置を占め、警備隊の設けあり。

中央部に海水灣入し、南北二島に分れ、入江の南岸に竹敷あり。嚴原は島廳の所在地なり。壹岐島には勝本の良港あり。

熊本縣 熊本市は、肥後平野の中央に位し、高等學校、高等工業學校あり、市内の丘地に熊本城あり、加藤清正の築きし堅城にして、西南の役、谷將軍の籠城を以て知られ、現今第六師團司令部となれり。木葉、植木、田原坂は當時の激戰地なり、市の東方水前寺に成趣園あり、風色甚だ佳にして、遠く阿蘇



シボール碑

火山を望むべし。

阿蘇山は世界著名の火山にして、其の舊火口は直徑南北六里、東西四里に互り、世界最大の噴火口と稱せられ、火口内更に五箇の火口丘噴起す、高嶽最も高く、中嶽は古來盛に噴

煙す。

隈府は菊池川に臨む菊池神社あり。八代は、球磨川の口に當り、又八代宮ありセメント工場あり。人吉は人吉盆地の中心に位し、鹿兒島にる要路に當る、北方山地に五箇莊あり。

大分縣 大分市は別府灣に臨み、鐵路門司と連る、疊表、花筵等取引多し。

菊池神社 (別格官幣社) 祭神菊池武光。八代宮 (官幣中社) 祭神懷身親王。五箇莊は平家の落人の隠れし所なりといひ其の子孫尙存す。都邑人口 大分市 三六、九五五 別府市 三三、〇三三 臼杵町 二二、三六〇 中津町 一六、四三九 日田町 一一、三〇〇 佐伯町 一〇、〇〇〇

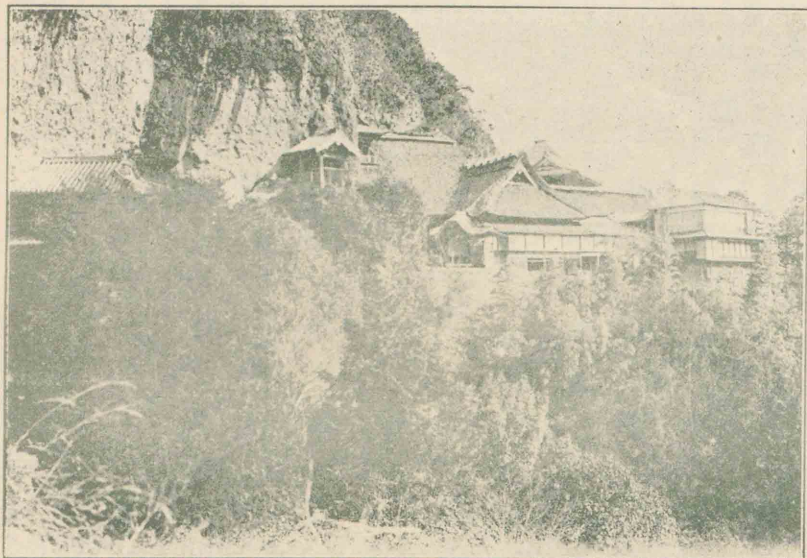
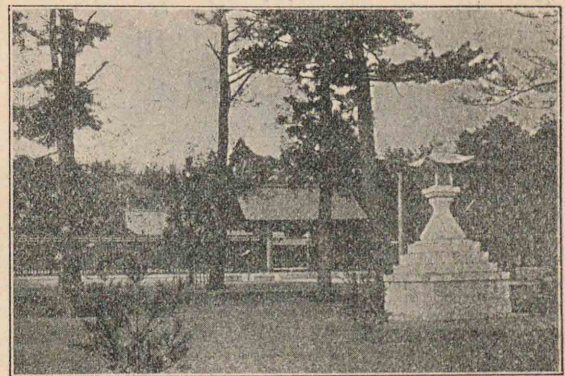


水前寺

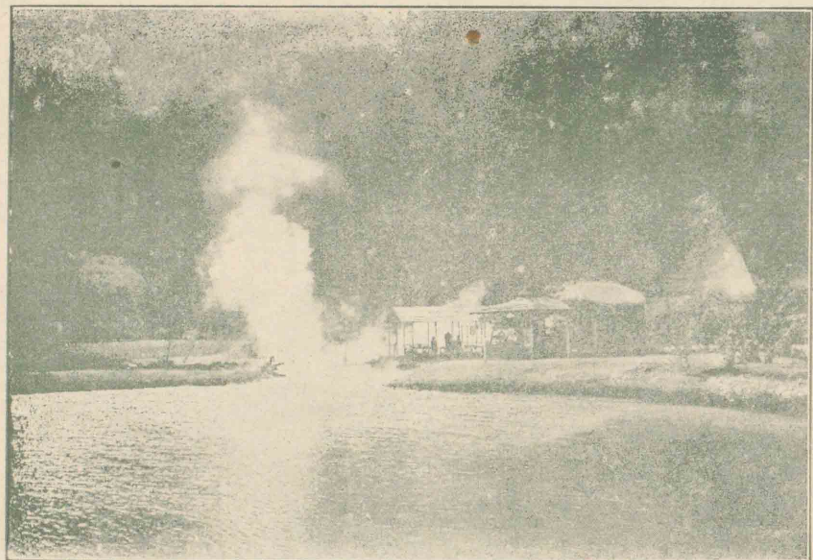
宇佐神宮
官幣大社
祭神譽田別尊
外二。

都邑人口 三二八五八
都城町 一九二二
小林町 一六五五
宮崎町 一六五五
宮崎神宮
官幣大社

別府は温泉を以て著る。附近は海岸山地の別なく温泉の湧出多きこと全國無比にして、鐵輪海地獄血池地獄等著はる。臼杵及び佐伯は、豊後水道に臨める要津なり。宇佐には、宇佐神宮あり、中津より山國川を溯れば新舊耶馬溪の奇勝あり、就中新耶馬溪を絶佳なりとす。竹田は熊本に通ずる山間の要路に當る。宮崎縣 本縣は、交通の便少く、土地よく開けざるも、古くより知られたる地方にして、舊蹟甚だ多し。宮崎は大淀川に跨り、神武天皇を祀れる宮崎神宮此處に近し。南方に飢肥及び油津港あり。延岡は、五箇瀬川の口



寺漢羅の溪馬耶國後豊



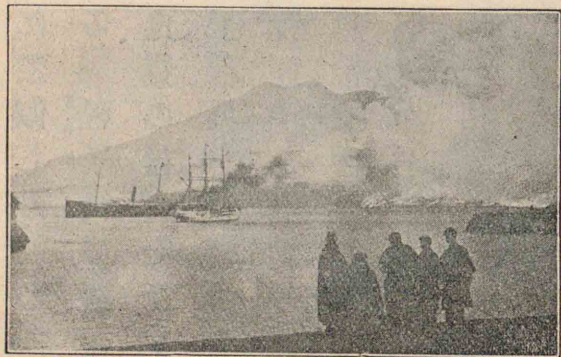
獄地池血國後豊

都邑人口

鹿兒島市 七、〇七〇人
 谷山村 三、九八〇人
 額娃村 二、七二八
 東南方村 三、四〇八
 申木野村 二、四三〇
 天城村 三、三〇〇
 伊敷村 三、七三三
 喜界村 二、〇三七
 阿久根村 一、八五三
 揖宿村 一、九五七
 名瀬村 一、六三三
 川邊村 一、九〇八
 垂水村 一、八七五
 知覽村 一、八五五
 西加世田村 一、七五二
 加世田村 一、七三三
 上出水村 一、六三三
 加治木町 一、四六三
 志布志町 一、三九八
 錫は鹿兒島市の産物たる錫器の原料となる。
 櫻島より噴出せる熔岩は今尙海中に於て海水を沸騰せしめつつあり。

に近く、北部に於ける名邑なり、五箇瀬川に沿へる國道は阿蘇火口原を経て熊本に至るべし。細島は縣下の要津なり。都城は鹿兒島に通ずる要路に當り、又多く茶を産す。霧島山は其の北西に聳え、東高千穂峯、西(韓國嶽)二群峯より成り、東霧島の御鉢は噴煙尙盛なり。

鹿兒島縣 鹿兒島市は島津氏の舊城下に於て、鹿兒島灣に臨み、薩摩燒、薩摩櫻、緋・錫器の中心市場なり、市の後方なる城山は西郷隆盛終焉の地なり。此地は西郷大久保、東郷諸氏其他多くの名士を出せり。灣内の櫻島は大正三年一月大破裂し、灰砂全島を没し、熔岩東西に溢流し、大損害を與へたり。薩島

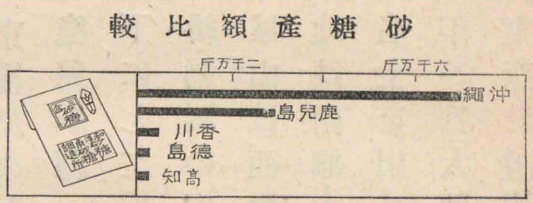


新版日本

砂糖産額比較

沖繩縣	七三三
鹿兒島縣	五二六
香川縣	六三三
徳島縣	三三三
高知縣	二二八
内地計	二五二
都邑人口	一、〇〇〇、〇〇〇
那覇區	一、〇〇〇、〇〇〇
首里區	一、〇〇〇、〇〇〇
本部村	一、〇〇〇、〇〇〇
中城村	一、〇〇〇、〇〇〇
大里村	一、〇〇〇、〇〇〇

宮古八重山等にはマラリヤ病流行す。
 東方の大東島ラサ島も沖繩縣の管轄にして大東島椰子を産しラサ島は燐礦の産地なり。ラサ島に無線電信局あり。



南諸島の大島は風俗沖澗縣に類似し、砂糖の産多く、紬織は上質を以て知らる。種子島は鐵砲の傳來を以て著れ、屋久島は良質の杉材を産す。沖繩縣 沖繩・宮古・八重山の三群島を管轄す。島内山多く沿岸には珊瑚礁發達す。氣候は溫暖にして、蘇鐵・芭蕉其の他の熱帶植物よく繁茂す。住民は甘藷を植ゑて之を常食となし、各戸豚を飼養す。其の風俗は内地と稍異り、言語は内地古語の轉訛せしもの多く、又女子の勤勞は男子に優るものあり。家屋は旋風の襲來屢なるを以て平家造多く、家の周圍に石又は樹木の垣を繞らす。那覇區は沖繩島の南部に位す、其の東方約一里に首里區あり、丘陵上に位し、舊王城は珊瑚礁上に立つ。東方に中城

新版日本

新版日本

灣あり。兩區共に緋・紬・芭蕉布・漆器・泡盛酒を産す。又宮古・八重山の上布は、良質を以て知らる。

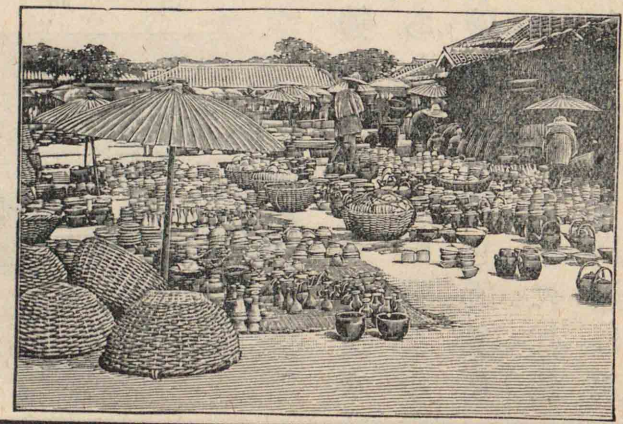
第八章 臺灣地方

總説

位置 臺灣は本邦の南西部を占め、臺灣總督府之を管轄し、其の下に臺北・桃園・新竹・宜蘭・臺中・南投・嘉義・臺南・阿緱・臺東・花蓮港及び澎湖の十二廳を置く。

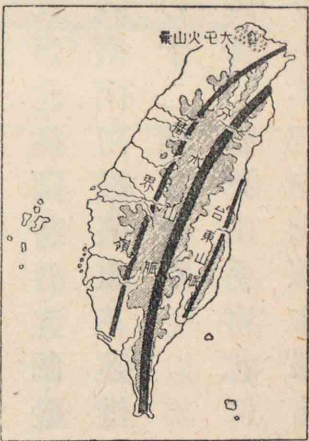
地勢 臺灣山系南北に走り、其の分水山脈は本島の主軸をなし、本邦諸山脈中最も高くして、シルピヤ山・大雪山・新高

那覇の市場

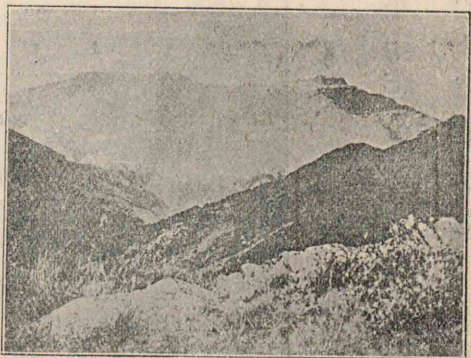


新高山の名は明治天皇の御命名なり。

臺灣山脈



山等の高峯あり。新高山は東西南北及び



中央の五峯より成り、中央の山峯は高さ三千九百六十二米に達し、本邦最高の山嶺なり。山系の東斜面は山勢海に迫り、平地少なければ、南方に至れば低き臺東山脈ありて、分水山脈との間に狭き臺東平野横はる。東岸は絶壁削るが如き所多し。分水山脈の西側には蕃界嶺あり、之より西方は次第に緩斜して、廣大なる沃野を開き、沿岸は遠淺なるを以て良港に乏

新版日本

新版日本

しく、船舶の荷役に不便なれば、僅に竹筏によりて本船と連絡す。淡水河、濁水溪等之を灌溉す。

氣候 南半は熱帯に入り、山地と雖も霜雪を見ること少なし、又雨量多けれども、概ね乾濕二季に分れ、毎年十月より翌年三月頃までは、北東風吹き、北部に雨多く、南部は乾季にして、四月より九月頃までは南風吹き、南部に雨多く、北部は晴天打續く。一般にマラリヤ病流行す。

住民 人口約三百六十萬ありて、其の中内地人約十四萬、蕃人約十三萬を除けば、他は支那種族なり。蕃人は全部馬來種に屬し、性質猛惡にして、常に鬭争を事とするもの多し、數多の社に分れ、各社に頭目ありて、これを支配す。蕃人中、兇暴にして政府の命を奉ぜざるものに對しては、之を征服威壓せるも、歸順の民に對しては慰撫誘掖以て之を良民た

重要物産出額	
米	一、四〇〇、〇〇〇
製茶	一、〇〇〇、〇〇〇
樟腦	一、〇〇〇、〇〇〇
甘蔗	一、〇〇〇、〇〇〇
砂糖	一、〇〇〇、〇〇〇
金	一、〇〇〇、〇〇〇
鹽	一、〇〇〇、〇〇〇
水牛	一、〇〇〇、〇〇〇
牛	一、〇〇〇、〇〇〇

らしめんことに努む。

生業 氣候炎熱にして樟榕樹林投樹檳榔樹竹類鳳梨芭蕉香蕉等繁茂し、又農産に富み、米作は年二回の收穫あり。茶は北部に多く、烏龍茶の名世に著る。樟腦は産額世に比

樹 榕



なく、製糖業 臺盛大を極め、灣又阿里山その他の山地の林業有望なり。北部には金を産す。家畜には豚、水牛、黄牛等場



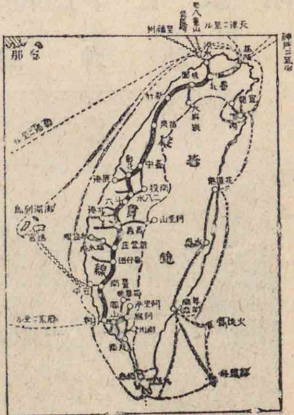
新版日本

新版日本

あり。天日製鹽業大に發達す。産物中、砂糖、米、茶、樟腦、鹽は主要の物にして、就中鹽、樟腦は政府の專賣品に屬す。

交通 鐵道は基隆に起り、西部

臺灣の交通系



平野の臺北、臺中、嘉義、臺南等主要都會を連絡し、南方打狗に達す。又數多の輕便鐵道は南部製糖業の盛なる地方に發達せり。海運は基隆、淡水、打狗、安平等の開港場を中心として、内地及び支那との間に定期船往復す。海底電線は内地と支那に通ず。又富基角には無線電信局あり。

處 誌

北部地方 主として淡水河の流域を占む。臺北は臺北

都邑人口	107,755人
臺北	六二,九〇〇
臺南	三三,四九六
嘉義	一〇,三二六
基隆	八,一四九
新竹	一七,三九九
宜蘭	一六,六四五
彰化	一六,四四八
臺中	一六,一五六
打狗	一〇,五九五
東港	一〇,八四三

臺北に覆審法院
第一守備隊司令
部、國語學校等
あり。

此の島のあらむ
限りはかゝるか
む名も高砂の神
のみいづは。
(北白川官妃)。

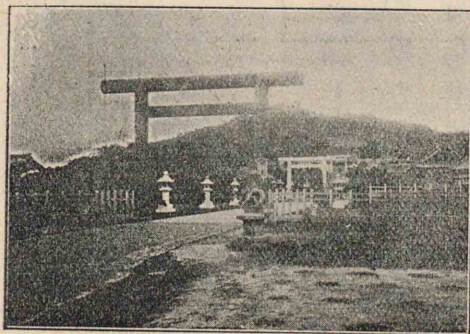
臺灣神社
(官幣大社)。

臺 北 市 街



平野の中心に當り、總督府の所在地、本島第一の都會にして、其の市街は、城内、艦舫大稻埕の三部より成り、城内は官衙學校の所在地、大稻埕は商業區にして烏龍茶の取引多し。附近に臺灣神社あり、能久親王殿下外數神を祀る、神域廣闊森嚴にして、自ら尊崇の念を起さしむ。北方に北投溫泉あり。基隆港は、本島の北門にして、内地との取引多し、要塞の設あり、附

臺 灣 神 社



新版日本

新版日本

基隆附近略圖



近に金瓜石、瑞芳等の金山あり。淡水は臺北と船車を通じ、支那との取引盛にして、茶及び樟腦を輸出す。宜蘭、桃園、新竹は北部の名邑なり。

中部地方 本島中部の平野を占め、多く米を産す。臺中は彰化と共に大吐溪の流域に位し、共に主要の都邑にして、其の門戸たる鹿港は支那との取引多し。苗栗は樟腦の集散地に當る。埔里社は蕃地に對して重要な位置を占む。

南部地方 全部熱帯に位し、甘蔗の産多く、製糖額年年増加す。臺南は本島第一の舊都にして、往時本島の首府たりし處、和蘭人の城址たりし赤崁樓、鄭成功を祀れる開山社等史蹟多し。其の咽喉に當れる安平港は市況淡水に次ぐも、

根室町 一三〇〇五
豊平町 二八八二
厚岸町 一〇、四〇四
兩上川とは石狩
の上川、天鹽の
上川を指す

石狩嶽・十勝嶽等聳ゆ。日高・天鹽兩山脈の西には夕張山脈ありて、餘脈宗谷岬に及び、兩山地の間に兩上川・富良野の盆地あり。又内浦灣の周圍には、那須火山帯に屬するマクカリヌプリ(後方羊蹄山)駒嶽・惠山・樽前有珠等の諸山噴起す。河流は中央の山地に發して諸方に向ふ、石狩川・天鹽川は日本海に入り、十勝川・釧路川は太平洋に向ひ、常呂川・網走川は阿斯科海に注ぐ、何れも流勢緩かにして、釧路川の如き殆ど水源まで舟を通ずべし。是等の流域には石狩・十勝・釧路等本道屈指の平野あり。海岸は屈曲に乏しく、段丘相連り、

後方羊蹄山



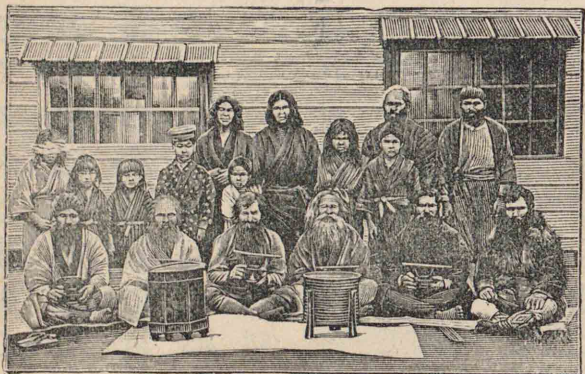
新版日本

海灣としては僅に半島部に函館・内浦・小樽の三灣と、東部に根室灣とあるのみ。

氣候 一般に寒氣強く、石狩の上川盆地、及び蝦夷山系以東殊に甚しく、阿斯科海は冬期結氷す。然れども、西岸は暖流の影響を受けて氣溫稍高し。雨量は甚だ少し。近海は濃霧多く、根室附近最も甚だし。

住民 内地人の移住多けれども、人口の密度は甚だ小なり。本島住民には、固有のアイヌ族ありて、其の數一萬八千人を算し、男子は鬚髯多く、有夫の女子は文身す、

文身は唇に施す、
近時幼年者は之
を行はず。

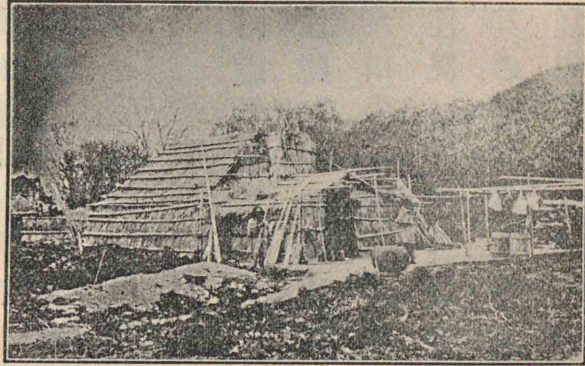


新版日本

進歩せる農法進歩せる農具は北海道に於て認むべし。
北海道の米は品質稍劣れるも産額年年増加す。
鐵道枕木は北米合衆國支那に輸出せらる。

水産漁獲物比較
北海道 一、五〇〇
長崎縣 四、八〇〇
山口縣 四、〇〇〇
靜岡縣 四、〇〇〇
千葉縣 四、〇〇〇
高知縣 三、〇〇〇
神奈川縣 三、〇〇〇
新潟縣 三、〇〇〇

アイヌ人の家屋



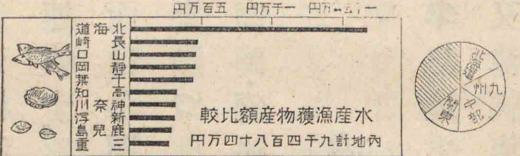
又木の纖維にてアツシを織りて之を着用し、丸木の茅屋に住むを常となししが、近時教育の結果、風俗言語等内地人と大差なきものあるに至れり。

生業 本道は拓殖其の歩を進め、農業は石狩・上川兩平野等に於て機械力應用の大農法行はれ、盛に麥類・豆類・馬鈴薯・亞麻・玉蜀黍・玉葱・玉菜等を産す、又以上兩平野及び以西は近時米を産すること甚だ多し。山地は蝦夷松・根松・白楊等密林をなし、鐵道枕木・製紙原料のバルブ・マツ・チ軸木等を供給す、苦小牧其の他に製紙の大工場あり。石炭は、夕張山脈の

新版日本

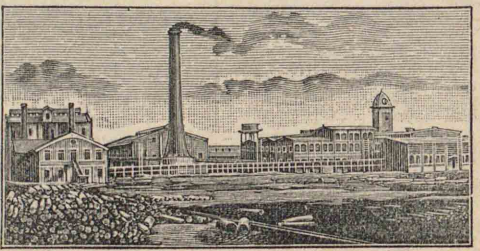
鹿兒島縣 二、三〇〇
三重縣 一、七〇〇
西洋紙産額比較
北海道 六、七〇〇
靜岡縣 六、一〇〇
東京府 五、七〇〇
大阪府 五、二〇〇
兵庫縣 四、八〇〇
福岡縣 四、六〇〇
熊本縣 四、四〇〇
京都府 四、二〇〇
馬頭比較
北海道 一、九〇〇
鹿兒島縣 一、九〇〇
熊本縣 一、九〇〇
岩手縣 一、八〇〇
福島縣 一、七〇〇
宮城縣 一、六〇〇
秋田縣 一、五〇〇
青森縣 一、四〇〇
茨城縣 一、三〇〇
宮崎縣 一、二〇〇

水産物産額比較



西側に多く、幌内・幾春別・夕張等の炭山に於て盛に採掘せられ、爲めに本地方鐵道の發達を促せり、硫黄の産亦多し。沿海は鯨・昆布・鱈等の水産物に富み、河川には鮭・鱒甚だ多く、水産物・水産製造物の産額は、本邦第一に位す。又山地の湖沼は鱒の養殖に利用せられ、支笏湖特に盛なり。工業は石炭の豊富にして低廉なると、工業原料たる農産・林産等多量なるとにより、麻布・麥酒・西洋紙等の製造漸次盛大となれり。牧場各地に存し、馬の飼養甚だ盛なり。

苦小牧工場



新版日本

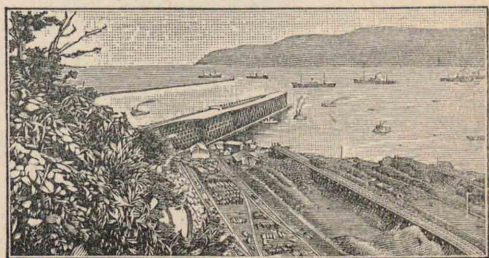
交通 鐵道は函館より釧路に至るものを幹線となし、室

小樽港略圖



の西部に位し、豊平川に沿ひ、市區井然たり。北海道廳、東北帝國大學農科大學等あり、麥酒麻布等の製造盛なり。

小樽港



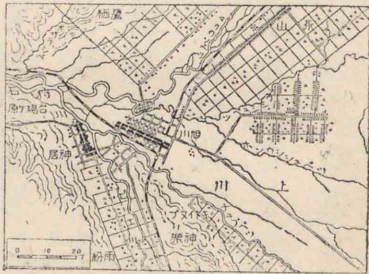
札幌神社
(官幣大社)
祭神 大國魂神
外二神

り。市外に札幌神社あり。小樽區は石狩平野の門戸に當り、後方に丘陵を負ひ、石炭、水産物を輸出す。樺太島領有以來、益榮え、遂に全道首要の大都會となるに至れり。余市は其の西方に位し、苹果を産す。

鐵道は札幌より岩見澤に至り、室蘭より來れるものと會し、十勝、釧路に向ふ幹線あり。又之より分岐する數多の支線あり、夕張、幌內、幾春別、歌志内等の炭坑及び留萌港へ支線

新版日本

旭川市街圖



を出す、又北方旭川アサヒガハに至りて南北に分るものあり。

旭川區は上川盆地の中心に位す、第七師團司令部を置きしより發達最も著しく、荒原忽ちにして米田となり、寒村一躍して本道第四の大都會となれり。

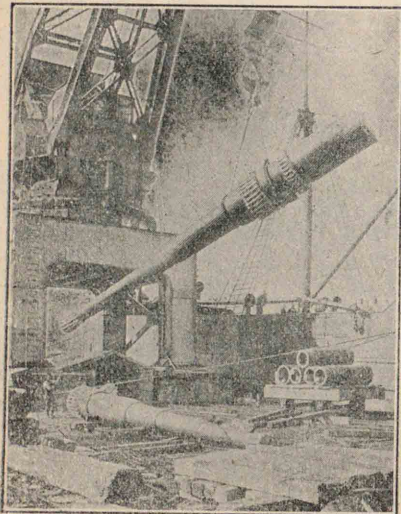
新版日本

旭川其の他の新開地の稻田には枯木の林立せるもの多く内地人をして異様の感あらしむ。

日本製鋼所は東洋無比の私立兵器製作所なり。

此の地は冬季寒氣強けれ共、夏季溫熱高く、地味豊饒なれば米穀よく熟す。南方に富良野上中下の新開地あり。室蘭は旭川に次げる繁華の港にして、石炭、木材の輸出多く、又規模宏大なる日本製

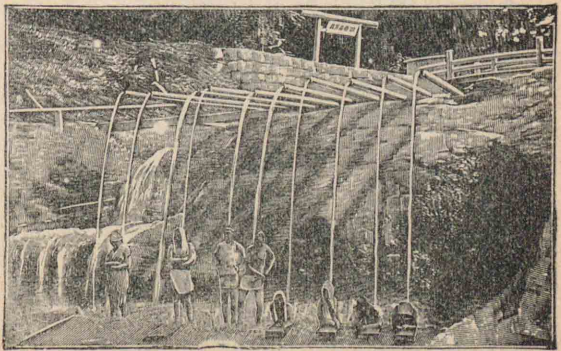
日本製鋼所製二十時砲船積の景



登別温泉は室蘭に近き山中に在り。

鋼所あり。室蘭の東北方に登別あり、爆裂孔熱湖等ありて、又温泉の湧出夥しく夏季浴客多し。苦小牧には王子製紙會社の分工場あり、附近の木材を原料として製紙に従事す、其の動力は之を支笏湖湖畔の水力電氣に仰ぐ。日高地方は牧畜行はれ、新冠に御料牧場あり、沙流川の沿岸にはアイヌ人の部落多し、平取最も著る。

登別温泉

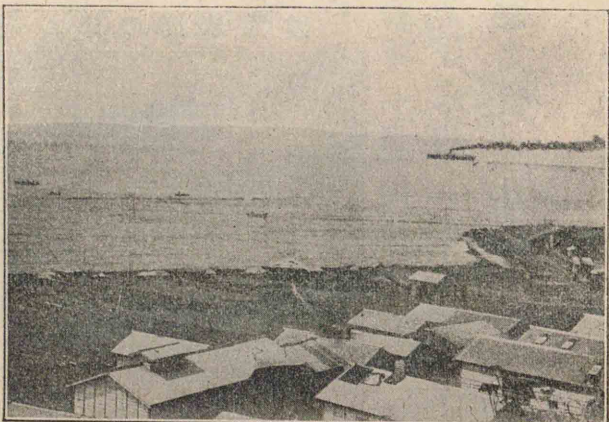


狩勝隧道は石狩十勝の國境に在り。

東部地方(十勝、釧路根室、北見) 蝦夷山系以東の地を占め、未墾の林野多く、人口甚だ疎なり。鐵路狩勝隧道を過ぐれば、直ちに一望際涯なき十勝の大平野を瞰下すべし、帯廣は之が中心地なり。其の東方に池田あり、網走線此處に分れて北方に向

ひ、本線は白糖を経て釧路に達す。沿道牧場多く、白糖に於ては軍馬を育成す。

昆布の採取

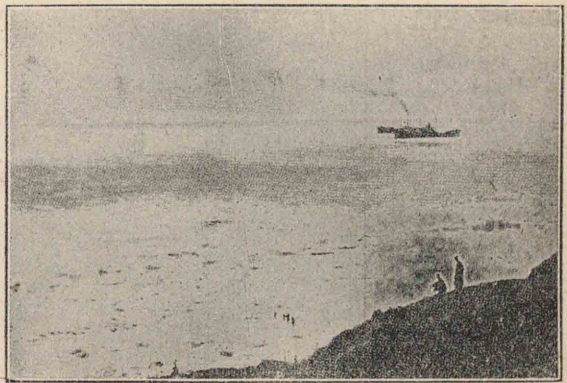


釧路は同名の河口に位し、厚岸と共に木材及び水産物の集散地にして、之を海外に輸出す、又盛なる馬市行はる。附近沿海は多く昆布を産す。釧路川の流域はアイヌ部落多く、水源地の屈斜呂湖畔にアトサヌプリ火山あり、硫氣孔を以て著る。根室は千島に渡る要津なれども、冬季は港内結氷するを以て、船舶は南方の花咲港に寄泊す。其の南西に落石岬あり、無線電信局を設く。網走は阿哥斯科海岸

クリルアイヌは
北海道本土のアイヌと少しく異なるもの如し。

唯一の港、枝幸は砂金地として著る。稚内は宗谷海峽面の良港にして、宗谷は往昔樺太渡航の要津なり。利尻禮文二島は水産物に富む。千島列島 三十餘の島嶼より成り、千島火山帯之を貫通す、チャチャヌブリ、羅臼其の他數多の火山峙立し、多く硫黄を産す。此の地にクリルアイヌ居住す、列島中最大なるは擇捉にして、國後得撫之に次ぐ。紗那は擇捉島の首邑にして、漁期には漁民來集し大に繁昌す。占守島は本邦の最東端に位し、阿頼度島は最北點に當る、後者には北海道第一の高山あり。

北見網走沿岸の氷閉鎖



第十章 樺太地方

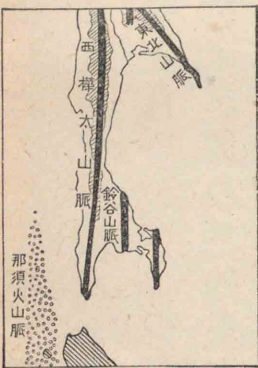
總說

位置 樺太島の南半部を占め、北緯五十度線によりて露領と界し、南は宗谷海峽を隔てて北海道の宗谷と相對す。本地方は樺太廳の管轄に屬し、その下に豊原、大泊、眞岡、敷香、久春内の五支廳を置き、之を統治し、近時郡及び町村を新定せられたり。

地勢 地形南北に長く二條の山脈縦走す、即ち一は西樺

太山脈にして主要の分水嶺をなし、一は其の東に並行すれども、中央部海洋によりて中斷せられ、東北鈴谷の兩山脈に分る、此の東西兩列山脈

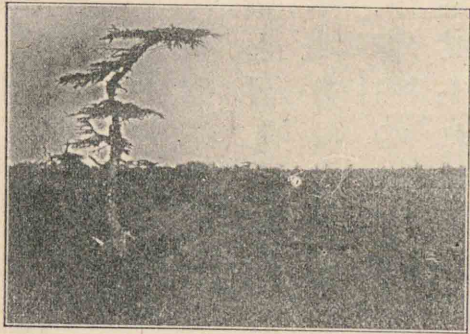
樺太の地勢



- 各支廳と各郡
- 大泊支廳
- 長濱・富内・大泊・留多加
- 豊原支廳
- 豊原・榮濱・元泊
- 眞岡支廳
- 本斗・眞岡・野田塞
- 久春内支廳
- 泊居・久春内・鶴城・名好
- 敷香支廳
- 新開・敷香・散江

の間に二箇の低地あり、北部は本島第一の巨川幌内川之を貫き、土地低濕樹木殆ど無く、地下は泥炭よりなり夏尙凍結す、馴鹿の放牧地として利用せらる。南部は内淵・鈴谷等の諸川之を潤

馴



幌内川の畔のラドンツ

ツンドラ地に於て喬木あるは河畔に限る。

し農業牧場に適す。海岸は出入極めて少なく、南部に亞庭灣、東部に多來加灣あるに過ぎず。島嶼には海豹島、海馬島あるのみ。

氣候 阿哥斯科海の寒流と、西比利

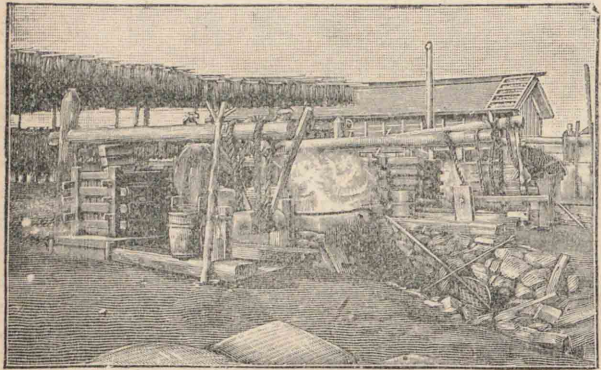


新版日本

新版日本

亞より吹き來る北西風との影響を受けて氣温甚だ低く、唯西岸は對馬海流の爲めに暖められ稍溫和なり。住民 固有の土人にアイヌ・ギリヤーク及

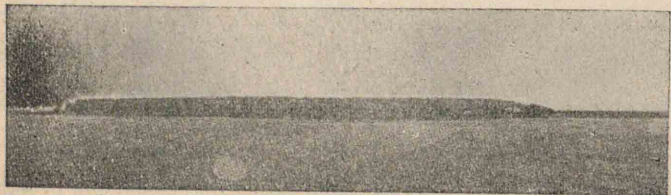
鯨 粕 製 造



びオロツコ等の種族あれども、住民の大部分は内地の移住民にして、漁業・農業に従事し、夏期は漁民の來集する者、年々數萬人に達すれども、冬季は大

生業 漁業を主と

海 豹 島

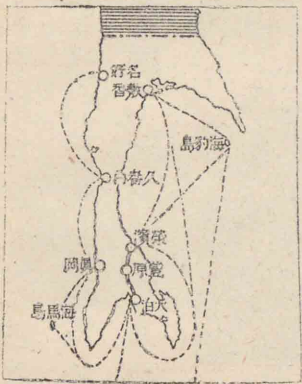


樺太の鮭、鱒は海にて捕獲す。樺太の水産製造物

鮭	一〇〇〇
鱒	一〇〇〇
鱈	一〇〇〇
魚油	一〇〇〇
鹽鮭	一〇〇〇
其他計	一〇〇〇

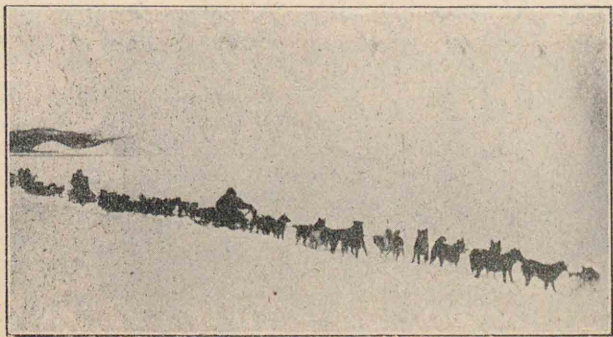
し、西岸及び南岸には鱈、東岸には鮭、鱒の産多く、又鱈、蟹、大鱈、昆布等は各處に産す。又近海には海獸棲み、海豹島は膾炙する者數千に達し、甚だ奇觀なり。樹木は蝦夷松、椴松、落葉松等密林をなし、白楊、タモ亦多けれども、林相貧弱なり。鑛業は未だ甚だ盛ならざれども、内淵河流域は石炭豊富にして、砂金亦各地に發見せらる。

樺太の交通系



交通 大泊の榮町より北方内淵河口の榮濱まで鐵道

犬 樺



新版日本

新版日本

を通ず。土人は冬季の交通に馴鹿橇又は犬橇を用ふ。海運は小樽と大泊、真岡其の他と定期船の往來あれども、冬季は真岡を除ける外、沿海は悉く氷結し、風波亦荒く、僅に碎氷船によりて交通に便す。又春季に至れば流水襲來し、濃霧海上を閉ぢ、航海頗る困難なり。

處 誌

大泊は、亞庭灣に枕み、内地交通の要衝に當り、水産物の集散盛なり。北半部の楠溪町は往時のクシユンコタン(コルサコフ)の地なり。豊原は南部平野の中心を占め、本島の首腦地にして、街路井然たり、樺太廳、樺太神社あり。真岡は西海岸の不凍港にして、鱈、漁其の他の水産業の中心地なり、冬季は各地よりの漁業家來り會す。敷香は、幌内平野の門戸

コルサコフは露國名なり。

樺太神社 (官幣大社) 祭神 大國魂神 外二神

に當り、貴重獸皮の集中點なり。
 本地方は、幕末の頃まで我が勢力の及びし地方にして、境界問題の爲め屢、露國と紛議を生じたりしが、漸く明治八年千島との交換條約締結せられて、一旦我が手を離れしが、日露戦役の結果、再び我が有に歸せり。

第十一章 朝鮮地方

總説

位置 朝鮮は、亞細亞洲の東部に突出せる半島にして、東西南の三面は、海に臨む。行政上、朝鮮總督府の管轄に屬し、其の下に十三道を置き、道の下に府郡島を置く。

對馬とは僅に三十哩を隔つるのみ。

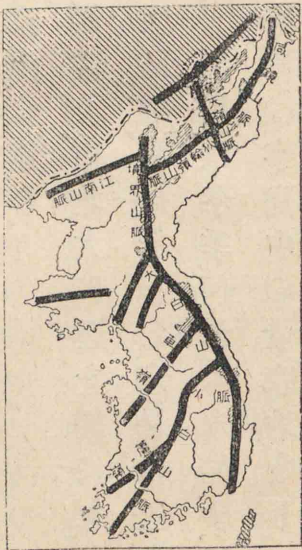
江原道	咸鏡北道	咸鏡南道	平安北道	平安南道	黃海道	京畿道	道名
春川	鏡城	興南	義州	平壤	海州	京城	所在地
	慶尙北道	慶尙南道	全羅北道	全羅南道	忠清北道	忠清南道	道名
	大邱	晉州	金州	光州	清州	公州	所在地

新版日本

新版日本

白頭山は休火山にして火口湖を龍王潭と稱す。

朝鮮の地勢



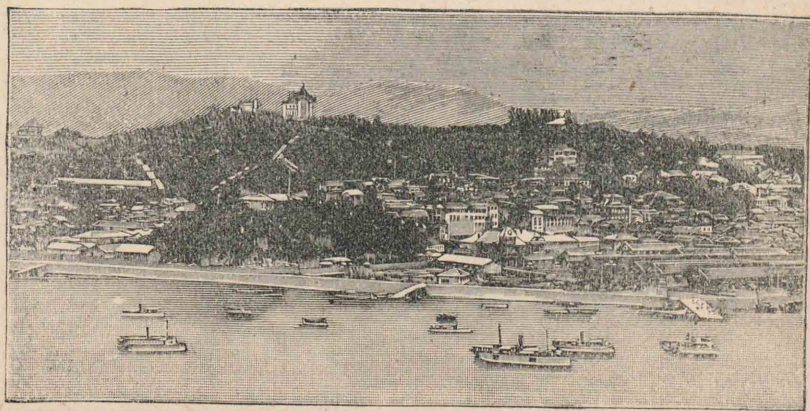
あり。半島地は、地形錯雜して、山脈の判然たるもの甚だ稀なれども、先づ大白山脈東側に偏し、主軸となりて約南北に走り、金剛山・大白山等聳え、車嶺・蘆嶺・小白山等の支脈出でて、南西に走る。されば地形東方に急に西方に緩なり、清川江・大同江・漢江・榮山江等は西に、洛東江は南に流れ、各流域に平野散在して、朝鮮主要の農産地をなす。
 海岸線の形状を見るに、日本海岸は屈曲に乏しく、斷崖多く、只北に雄基灣、中央に永興灣、南に迎日灣あるのみ。西岸

豊島沖は日清の役、仁川沖は日露役の海戦地なり。

及び南岸は之に反して、屈曲極めて多し。

西岸の中部に仁川港あり、前方に月尾島、北西に江華島、南西に豊島あり、此の近海は日清、日露の戦役に我が海軍の雄名を輝せる地なり、南西海面一帯は、無数の島嶼星の如く列川り、濟州島、珍島等最も著はる。南岸は良港に富む。

氣候 南北大に趣を異にし、北部は大陸性氣候を呈し、寒暑の差大なり。河川は冬季何れも氷結す、城津龍巖浦は半島中の最寒地なり。南



新版日本

在留内地人二十九萬人を超え重要なる都會には内地風の市街次第に發達す。

朝鮮は普通教育上特殊の教科書を制定せり。

都邑人口	都邑人口
京城	二四八、二六〇
釜山	一五〇、九四〇
平壤	四三、八六五
開城	三三、八九七
大邱	三三、九四四
仁川	三〇、八八九
元山	二二、三三〇
咸興	一六、九二六
鎮南浦	一六、七二六
馬山	一四、八八九
木浦	一三、四二五

部は海洋性氣候を有し、概、溫和にして雨量多く、全半島を通じて毎年七月雨季に入る。

住民 人口凡そ一千六百萬。大部は朝鮮族にして容貌大和民族に似たり、從來惡政の結果遊惰に流れ、貧窮甚し。教育、宗教共に幼稚にして、上流人は儒教を奉じ、漢文を解すれども、程度一般に低く、僅に諺文ハングムと稱する文字を用ひ居りしが、近時學制を發布し、各種學校を設け、大に教育の普及を圖れり。普通人民は藁葶葺土造の小

朝鮮の俗風



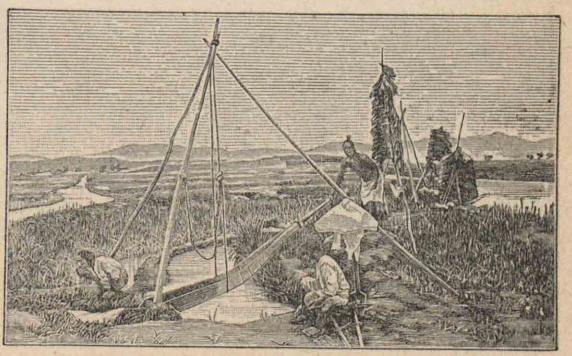
新版日本

朝鮮の重要産物

米	一、二六〇萬石
大豆	四、四〇〇萬石
小麥	二、二〇〇萬石
粟	三、三〇〇萬石
棉	五、七〇〇萬石
煙草	四、四〇〇萬石
金	六、七〇〇萬圓
人蔘	三、三〇〇萬圓
内地より移出額	八、〇〇〇萬圓
内地への移入額	四、二〇〇萬圓
總移出額	六、〇〇〇萬圓
總移輸入額	五、四〇〇萬圓

屋に住み、不潔を意とせず、衣服は白色の上衣と袴とより成り、男子用は袖廣く、女子は筒袖なり、縁廣の帽子を戴き、藁履を穿つ、冬季は温突オキタを使用して暖氣をとるため、草木の根までも掘取る習慣を招き、山野を荒廢せしむ。一般に厚葬の風ありて火葬を忌む。

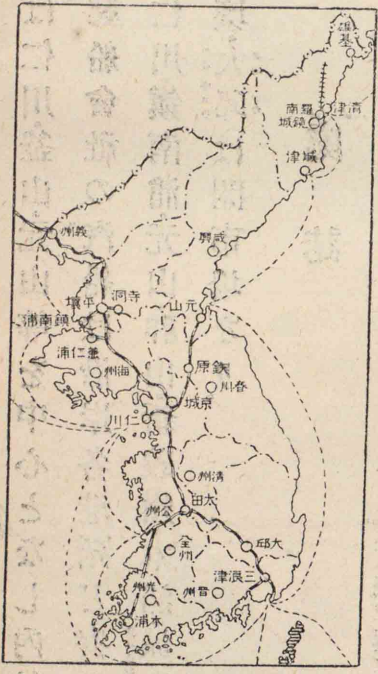
農夫の灌漑



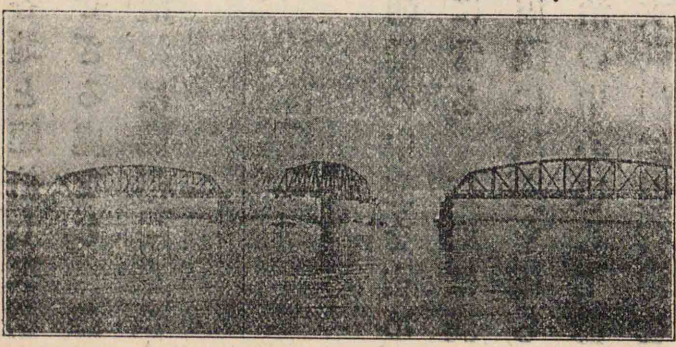
生業 農を主生業として、米・麥・大豆・人蔘等の産多し、又綿・煙草・果樹類の栽培益、發達せり。農民多く牛を收して耕耘に使役し、其の數九十萬頭を産す。鑛業は前途有望にして、金・鐵・石炭等を産し、金は本邦金貨の地金に供せらる。沿海は、水産に富み、明大魚ミンダイ・石首魚イシウイ・鱈タラ・鱧ニギハヤヒ・鱧ニギハヤヒ・鱧ニギハヤヒ

朝鮮の鐵道は南滿洲鐵道會社の經營に係る。

朝鮮の交通系



鴨綠江の鐵橋



鯛・烏賊・鯨等を産し、内地人多く之が捕獲に従事す。貿易は内地との取引盛にして、米・大豆・綿花・水産物等移出し、綿布・石油・綿織・絲・機械類・石炭・紙類等を入る。交通 鐵道は廣軌式にして、京釜・京義の縦貫鐵道完成し、鴨綠江を渡りて安奉線鐵道と連なり、仁川・馬山・兼浦・鎮南浦・元山・木浦等に支線を出す。海

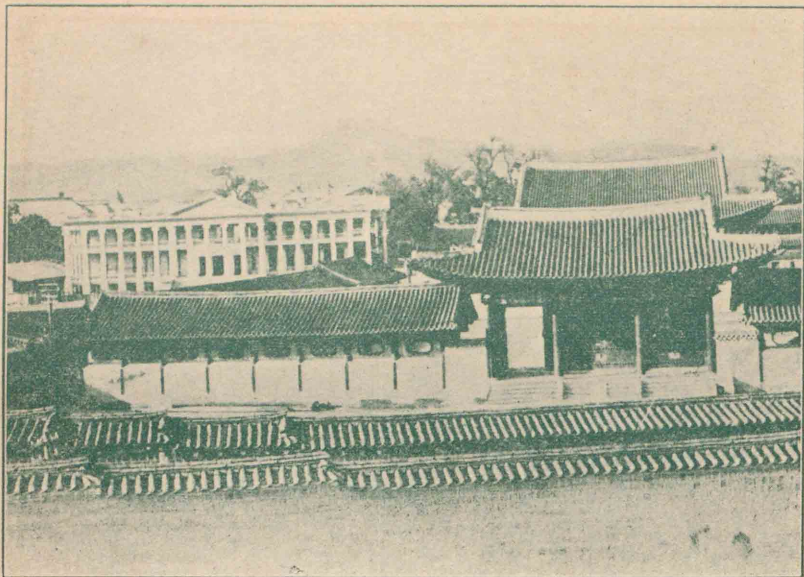
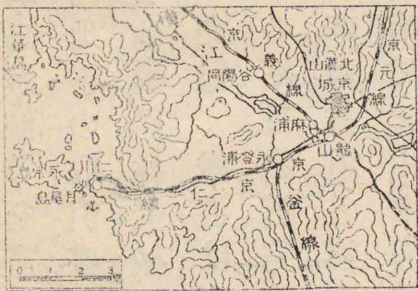
運は仁川釜山元山等を中心となし内外各地と連絡し、又朝鮮郵船會社の汽船は、沿岸各港殆ど寄港せざる處なし。釜山仁川鎮南浦元山群山新義州木浦城津清津は開港場京城平壤大邱は開市場なり。

處誌

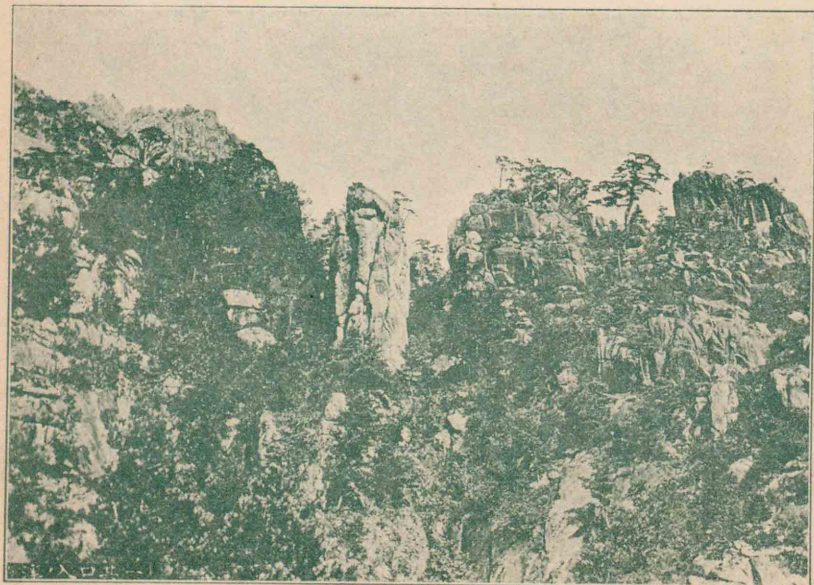
中部地方(京畿、黃海、江原) 朝鮮の中部を占め、主として漢江の流域に當る。京城は漢江に臨み、丘陵四周し、周圍に城壁を繞らし八門を設く、半島政治の中心にして總督府舊王城、拓殖會社支社、朝鮮銀行、博物館、各種學校等あり。龍山は其の一部にして漢江に接し、鐵道の主要驛に當り、師

釜山下關間は連絡船あり十一時間にて達すべく釜山京城間は五時間を要すされば東京、京城間には約四十九時間にて達すべし。

京城附近圖



京 都 德 壽 宮
(李太王殿下居住せらる)



朝鮮金剛山の中四仙洞

釜山は築港に従事
中なり。

載寧、殷栗の鐵
は官設製鐵所の
原料となる。

港の前方右手に
あるは絶影島
(牧島)なり、棧
橋は右に汽船横
附となり左に汽
車達し連絡甚た
便なり。

團司令部あり。上流地に春川あり。
仁川は京城の咽喉に當り、米・人蔘・牛皮
等を輸出す、貿易額釜山に比肩す。開
城は高麗の舊都にして、城壁尙存し、舊
跡多く、附近人蔘を産す、其の西に海州
あり。載寧・殷栗は黃海道の北部に在
り、鐵の產地として著る。

南部地方

(忠清、全羅、慶尙)

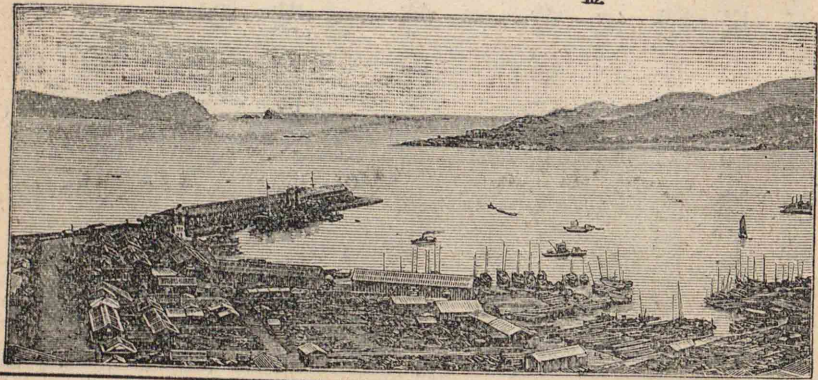
古の新羅・百濟等

の地にして、主要なる米産地なり。釜
山は京釜鐵道の起點に當り、朝鮮第一
の開港場にして、港域甚だ廣く、夙に内
地人と通商し、在留民甚だ多く、米・大豆
・海藻・牛皮等を内地に移出し、木綿・金巾

港

山

釜



新版日本

鎮海軍港は鎮守府なく佐世保鎮守府之を管す

大邱の市は西門は陰曆二七の日東門は四九の日に開く。

石油等を内地より移入す。鎮海灣は其の西方に位し、朝鮮海峡面に於ける無比の良港にして、且つ其の所在國防上の要地に當れるを以て、近時軍港となれり。

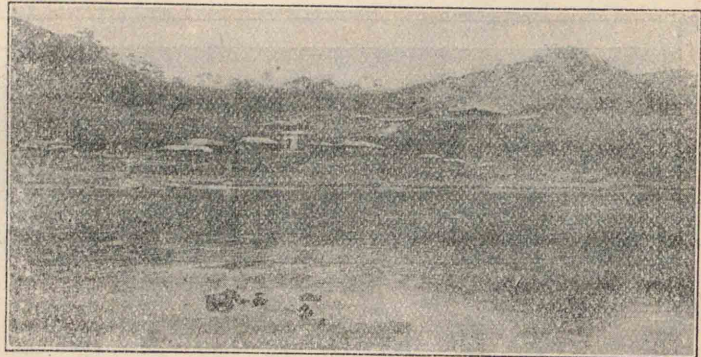
大邱は京釜鐵道線に沿ひ、洛東江流域の平野に位し、商取引盛大にして、其の東西二門に開く市は甚だ賑へり。大田は鐵道湖南線の分岐點に當る。

北部地方(平安咸鏡) 鴨綠江・大同江・圖們江等の各流域を占め、木材・砂金・鐵及び石炭の産多し。

平壤は大同江に臨み、朝鮮半島最古の首都にして、水陸交通の要路に當る。背後の丘陵は大同江に迫り、要害の地にして、乙密臺・牡丹臺・玄武門等日清役の遺蹟存す。乙密臺の背後に箕子の廟あり。平壤附近は無煙炭の埋藏夥しく、大同江の左岸なる寺洞（ソドム）に同鑛業所あり、之が採掘及び煉炭の

右方の亭を浮碧樓と稱す大同江に望あり。右方の高地は牡丹臺左方の高地は乙密臺

平壤の牡丹臺及び玄武門



製造に従事す。無煙炭の一部は之を

内地の徳山に輸送して海軍の煉炭製

造の原料となす。大同江の下流に

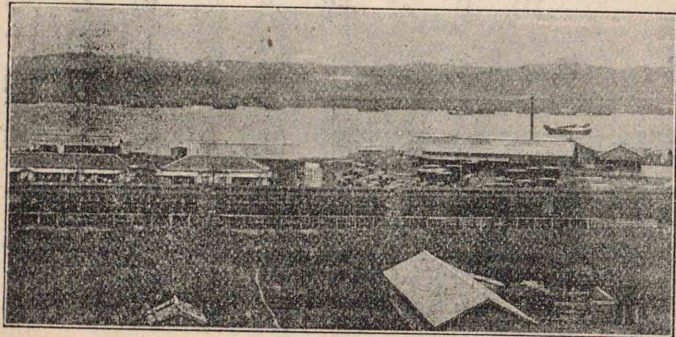
鎮南浦あり、港内水深く、風波穩かにして有望なる

開港場なり。鴨綠江の沿岸

には義州・新義州・龍巖浦あり、新義

州は京義線の驛路に當り、大鐵橋ありて對岸なる南滿洲の安東縣と相連る、

新義州



永興灣頭の元山港

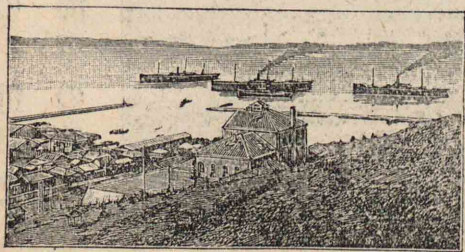


義州は日清日露兩役の古戰場なり。龍巖浦は對岸の大東溝と相對す。

元山は永興灣頭に位し、東海岸主要の港にして、砂金の集中點に當り、主として之を内地に移出す。永興灣は其の區域甚だ廣くして灣の北部なる永興は海軍要港なり、其の北方に咸興あり。元山の南方遙に金剛山時つ、風景の美朝鮮第一と稱せらる。

城津・清津及び雄基は元山の東北に位する港

清津港



新版日本

新版日本

にして、清津は北方會寧を通じて滿洲間島の門戸に當り、市況活氣を呈す、此の地より會寧及び鏡城に輕便鐵道を通ず。清津・鏡城間の羅南は師團司令部の所在地なり。又會寧は加藤清正の朝鮮二王子を生擒せし處として知らる。

朝鮮の沿革

朝鮮は前に韓國と稱し、古來我が國との修交最も深かりしが、近時國勢振はず、絶えず隣國の壓迫を蒙りて累を我が國に及ぼししが、日露戰役の結果、一時我が保護國となり、次で明治四十三年八月、韓國皇帝の希望により、同國を我に併合するに至れり。爾來我が國は總督府を置きて之を統治し、一意内政を改革し、殖産興業の發達を圖り、衛生・教育に力を注ぎたれば、數年ならずして大に面目を改むるに至れり。

第三編 總論

第一章 地勢

山脈 日本列島を構成せる山脈は、之を南彎、北彎の二大系に分つことを得べく、南彎は内外兩列より成り、外列は九州・四國・紀伊半島を過ぎて、中部地方に至り、内列は九州の北部より中國に入り、近畿の北部を過ぎて、中部地方に至る。北彎も内外兩列より成り、北は樺太島より起り、北海道を南走し、本州に入りて、奥羽・關東及び北越を過ぎ、中部地方に至る。これ等二大山系の相會する處は、本州中地勢最も高峻にして、幅員最も廣き地方なり。

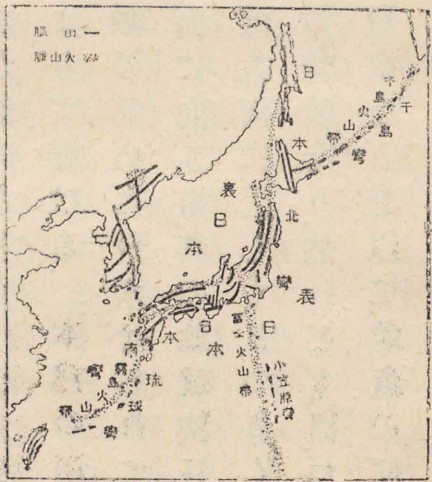
是等の土地を縦横に貫通せる火山帶數條あり、その主なるものを富士・那須阿蘇霧島等の各火山帶となす、就中、富士

新版日本

新版日本

火山の数は約二百地震の回数は平均一日に約二回あり即ち我が國は世界に於ける名高き火山國兼地震國なり。

日本帝國地勢略圖



山脈及火山帶

朝鮮	臺灣	九州	四國	本州	北海道	樺太	著名の山脈及び火山帶
長白山脈・太白山脈	臺灣山系	州山系・霧島火山帶	筑紫山脈・阿蘇火山帶・九州山系	四國山系	山火山帶	富士火山帶・中國山脈・白山火山帶	系・飛騨山脈・赤石山系・火山帶・關東山脈・紀伊山脈・岩木火山帶・那須阿蘇山脈・阿武隈山脈・北山脈・千島火山帶
							天鹽山脈・日高山脈・夕張山脈
							西樺太山脈

火山帶は、南北兩彎の接合地帯を南北に走る。

富士火山帶を以て本邦を二分し、その北東を北日本、一に北彎、南西を南日本、一に南彎と稱す。南北兩彎は地勢・氣候・文化等に著しき差あり。又太平洋に向へる本州の凸面を

表日本(外帶)日本海に向へる凹面を裏日本(内帶)と呼ぶ。此の内外兩帶も地勢氣候文化等に著しき差等あり。朝鮮臺灣は地勢上別區をなす。朝鮮の山脈は長白山脈を除く外は概低く、地形錯雜すれども、臺灣には本邦最高の山嶺あり。河流 陸地を人體に譬ふれば、河川は之が血管にして、土壤は之が筋肉なり、されば土壤は河川によりて潤ほされ、河川によりて養はる。本邦の河川は、概國土の中央を縦走する山脈の爲めに分水せられて、各方面に向ふも、其の地域狹長なれば大河に乏しく、且つ多くは流勢急峻なり、然れども、概ね水量豊富なるを以て、灌漑の便多く、水田之がために涵養せら

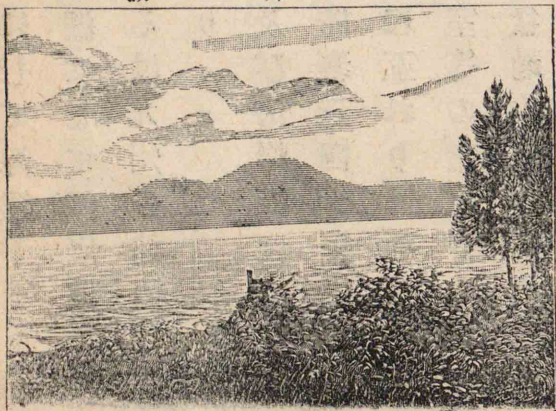
各斜面所屬の大河

斜面名	所屬大河
太平洋斜面	北上川・利根川・木曾川
日本海斜面	石狩川・最上川・信濃川
東支那海斜面	筑後川・川内川
瀬戸内海斜面	淀川・旭川
阿哥斯科海斜面	靦内川・常呂川
臺灣海峡斜面	淡河・濁水溪
黃海斜面	大同江・漢江
朝鮮海峡斜面	遼賀川・洛東江

新版日本

れ、水力の利用亦盛なり、その注入する海洋によりて分てば、八つの斜面區域に分るべし、之に主要なる河川を配すると前表の如し。

湖沼 湖沼は陸に圍まれたる水域なり、以て交通運搬灌漑及び水族の蕃殖に資すべく、其の人生に利用せらるること略、河川に均しきのみならず、よく沿岸の氣候を調和し、瀘水の任務を全うす、且つ風色絶佳のもの多し、本州の琵琶湖・澤蘆湖・中禪寺湖・十和田湖・榛名湖及び北海道の大沼・支笏湖・屈斜呂湖・阿寒湖等皆然り、就中琵琶湖は本邦中最大の湖沼にして、周回六十餘里に達



新版日本

す。又湖面の最も高きは下野の菅沼（カガ）にして海拔千七百五十三米に位し、最も深きは羽後の田澤湖にして深度四百十三米に達し、海面以下の最深部を有するは九州の池田湖にして、湖底は海水面下百四十二米に在り。

平野 本邦は山地多けれども、河岸及び海岸等には平野少なからず、就中關東平野最大にして、廣袤三四十里に及ぶ。臺灣西部の平野亦殆ど同島の西半部に互れり。その他越後・石狩・濃尾・肥筑・近畿・富山・十勝・釧路・根室等の諸平野あり。又本邦には湖沼の涸死して成れる小盆地少なからず、北海道の兩上川・富良野、本州の會津・最上・山城・奈良・伊賀・三次、九州の人吉・臺灣の臺北等の如きこれに屬す。以上の平野は何れも土地肥え農産物豊かなり。

海岸・島嶼

本邦は、海岸線の發達せること、世界に稀にし

海岸線の長七千七百里あり
(朝鮮を除く)

て、特に九州の西岸・瀬戸内海沿岸・朝鮮の西岸及び南岸は、頗る屈曲に富み、港灣岬角甚だ多し。然れども、北海道本島・樺太・臺灣等は屈曲少なし。海岸線屈曲の多少は、文化の發達上至大の關係を有す。

島嶼は、本州・四國・九州と朝鮮とに甚だ多く、周回一里以上のもの四百を超ゆ(但朝鮮を除く)。佐渡・對馬・淡路・隱岐・壹岐等之が主たり。これらの諸島は、航海業の發達と共に、水運上益、必要なる地點となり、或は船舶の碇泊地又は避難地となり、或は漁業の中心地、燈臺の所在地となれる處多し。

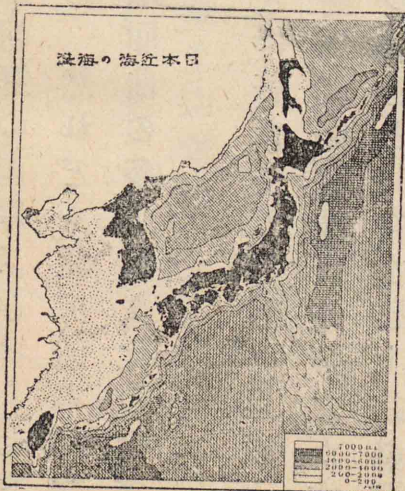
第二章 近海

海面・海底 樺太及び北海道の近海は、冬季海水氷結し、流水漂ひ、又霧深き處多けれども、魚類の蕃殖夥しく、世界三大

漁場の一に數へらる。菱形をなせる日本海は、恰も大湖水の如くなれども、冬季風波荒きを惜む。太平洋沿岸及び瀬戸内海は、四季概ね波穏かなり。特に瀬戸内海は無数の小島星羅し、風光明媚にして又海運業發達し、沿岸航路諸設備の如き、最も完備せり。

日本近海の海深を見るに、千島の東方に、日本海溝とて深さ八千五百米を超ゆる深處あり、琉球の南に在る琉球海溝も深さ七千五百米に達す。又潮汐の高低は、日本海岸に於ては潮升一尺内外に過ぎざれども、太平洋岸にては七八尺に達

日本近海の深淺



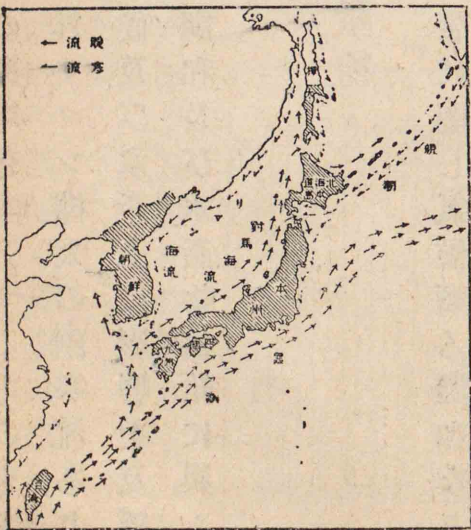
新版日本

日本海溝は明治七年米國タスカロラ號發見にかかる。

對馬海流中津輕海峽を出て奥羽の東岸を南下するものあり。

し、特に九州の島原灣は十七尺餘、朝鮮の仁川附近は三十尺以上に達す。海峽岬角等に於ては潮汐變じて潮流となる。洋流 我が國の近海には、寒暖二洋流あり。暖流は、臺灣の東岸を北流し來り、琉球諸島及び本州の南東岸を洗ひて、北米の北西岸に向つて走れる日本海流にして、其の色深藍色を呈するより、黒潮の名あり、その支流に、日本海を北流する對馬海流あり、東支那海、日本海を過ぎ、宗谷海峽に至りて二分し、一は樺太の西岸を北上し、一は同海峽を過ぎ千島の西岸に達す。寒流は、千島列島

日本近海の洋流



一四

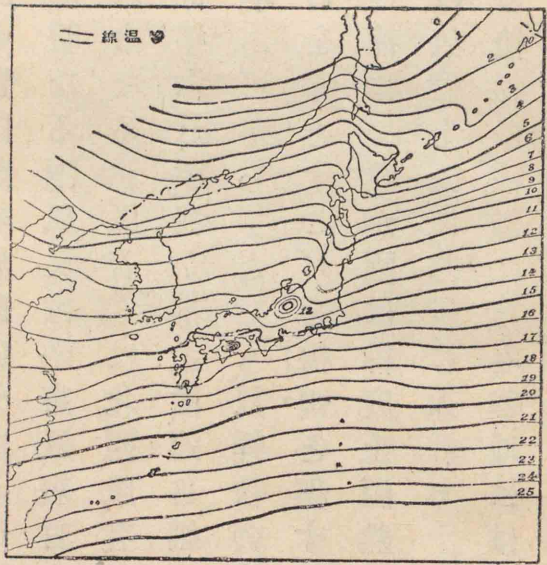
新版日本

を洗ひ、北海道の東部より本州の東岸を南下するものを主とす、これを親潮といふ。此の外リマン樺太の兩寒流あり。この寒暖二海流は、我が國の氣候及び水産上に影響を及ぼすこと多く、特に暖流の氣候の調和及び水産物供給に與ふる恩惠は、甚だ大なるものあり。

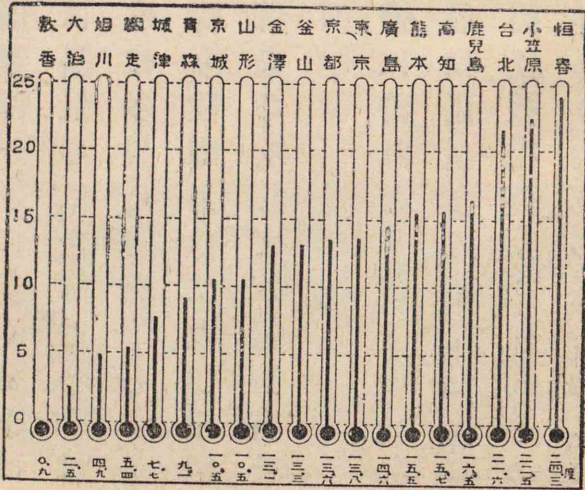
第三章 氣候及び天産物

氣溫 我が國の大部は、北溫帶に屬し、氣候頗る溫和なりと雖も、緯度殆ど三十度に互るを以て、各地の氣候自ら差異あり。臺灣の南部は、熱帶に入るにより暑氣強く、恒春に於ては年平均攝氏二十四度に達し、以て本邦の最高氣溫を示せり、又樺太及び北海道に至りては寒氣烈しく、樺太の敷香は年平均氣溫氷點下に達し本邦各領土中最寒の地なり。

本邦等溫線圖



本邦各地の年平均氣溫



本州に於ては年平均氣溫十度乃至十五度を普通とす。又朝鮮の北半部は寒暑の差甚し。

風雨 風は冬季は北風若くは北西風多く、夏季は南風若

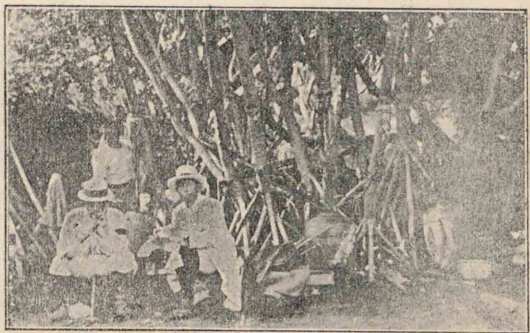
くは南東風多し、八九月の更特に二百十日前後には、年年旋風吹きすさび、豪雨これに伴ひて、多大の災害を及ぼすこと多し。嘗て元寇十萬の兵を海底の藻屑となしし伊勢の神風も、實に此の旋風に外ならず。雨量は一般に多く、夏季は温暖なる南風又は南東風、表日本に多量の雨を降し、冬季は寒冷なる北風若くは北西風、裏日本に多量の雪を降らす。毎年六月頃、我が本土は、連日細雨降り、陰霖月餘に及び、陰鬱堪ふ可からずと雖も、只挿秧の季節なるを以て、水量豊富なるを幸とす、これを梅雨と稱す。

植物 我が國は緯度上、溫熱兩帶に跨れども、北方の一部は、氣候上既に寒帶に入れり。一般に雨量多く、土地肥え、頗る植物の種類に富み、寒地には蝦夷松、椴松、落葉松、白楊、タモ等を産し、溫地には松、杉、檜等の美林あり、南部の熱帶地には

氣候上の三帶
熱帶 氣温二十度以上
溫帶 同零度以上二十度以下
寒帶 同零度以下

林投樹下の瓶は雨水を集むるもの、本島には湧水なく、飲用水は一に之による。

中硫黄島の林投樹



椰子、榕樹、鳳梨、芭蕉等繁茂せり。且つ氣候は、土地の高低に従ひて消長し、植物の分布は從て南北其の種を異にするのみならず、高さ檜に從て差等あり。彼の阿里山に溫帶



性の檜の密林を現出し、内地の御嶽山、乘鞍嶽等の上部に寒帶性なる偃松樹の匍匐するが如きは、全く高度の然らしむる所なり。

動物 本邦には有用なる家畜、家禽、野獸等の繁殖著しく、

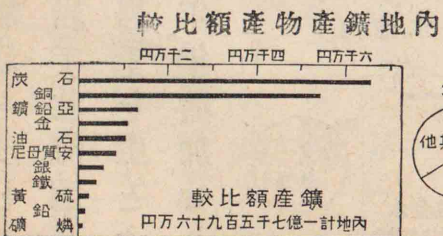
茶亦有名なり、主として亞米利加合衆國及び加奈陀に輸出す。砂糖の原料たる甘蔗の産額は臺灣を主とし、鹿兒島・沖繩・香川の諸縣之に次ぎ、製糖の産額は内地より一億斤を産す。沖繩・鹿兒島之が主たり、又臺灣島の産額は約之に三倍し、尙ほ年年増加せり。東京其の他内地には製糖所を設けて内外糖の精製につとめ、其の一部を海外に輸出す。

林業 我が國は山地多く、内地にては、山地は耕地の四倍を超ゆ、近年山林の濫伐を戒め、殖林の經營に力を用ふるが故に、林業の前途は、頗る有望となれり。森林中、著名なるは秋田・木曾・吉野・高野及び熊野等にして、松・杉・檜等の良材を産し、臺灣にも阿里山其の他に大森林ありて、檜・樟樹等を産すること多し、朝鮮の南半部は殆ど赭山なれども、目下殖林に努めつつあり。

石炭	六五七
銅	五三三
亞鉛	一三九
金	一〇〇
石油	一〇〇
安賀母尼	八三
銀	三三
鐵	三〇
硫黃	二〇
亞鉛	一六
内地計	一四、八五

牧畜 牧畜は古來多少行はれ、良馬を出ししこと少ながらざりしが、近來肉・乳・毛皮等の需用次第に増加し、且つ軍馬の改良は目下の急務なるを以て、漸次發達の氣運に向へり、只其の頭數極めて少なきを遺憾とす。牛は九州・中國・朝鮮・臺灣に多く、馬は北海道・奥羽・九州を主産地とす、朝鮮・對馬・琉球産の馬は體軀甚だ小なりと雖も力强し。

鑛業 鑛業の主なるものは、石炭の採掘、銅・金・銀・石油等の採掘と製鍊となり。石炭は品質劣れども産額東洋第一にしてその産地は福岡を主とし、北海道・福島・佐賀・長崎・茨城各縣を主とす。又南滿洲に於ける石炭の我が手によりて採掘せらるるもの多し。銅は産額

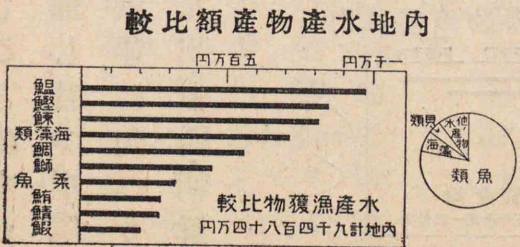


神ノ島、大阪、三池には亞鉛精鍊所設立せられたり。

水産漁獲物産額	(内地)	食料	肥料	魚油	鹿海産	計
八、四〇〇	六、七〇〇	四、〇〇〇	一、二〇〇	八〇〇	三、五〇〇	一、五〇〇
水産製造物産額	(内地)	食料	肥料	魚油	鹿海産	計
三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	三〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇

世界第二に位す、秋田・愛媛・栃木・茨城の四縣産額最も多し。金は朝鮮・臺灣・茨城・秋田・鹿兒島を主とし、新潟・岩手・北海道・長崎等之に次ぐ、石油は秋田・新潟、銀は秋田、鐵は岩手を主とす。又朝鮮に於ては石炭・鐵・鑛金及び黒鉛の産額年年増加せり。

水産業 寒暖の二海流近海に於て衝突せるを以て、魚族の種類甚だ多く、且つ多量なり。其の産額の主なるものは、鯧・鰺・鰹・藻類・烏賊・鯛・鰯等にして、鰺は産額第一に位し、千葉縣最も多く、鰹は静岡・鹿兒島・高知・三重・千葉の沿海に、鯛は瀬戸内海・長崎縣等に多く、鯧は北海道・樺太を主とし、烏賊・柔魚は日本海の南西部に多し。水産漁獲物は内地より、約九千五百萬圓、朝鮮より一千三百萬餘圓を産す。内地に於



新版日本

新版日本

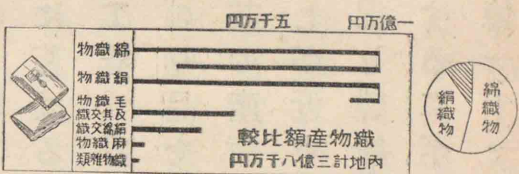
ては北海道・長崎・千葉最も産額多し。又水産製造物は鰹節・鮪節・鰹類・身缺・鯧・鯧・搾粕・乾鰹・貝柱・鹽物・海苔・魚油等を主とし、内地總産額五千三百圓に達し、特に北海道の産額他に傑出す。製鹽業は降雨少なき瀬戸内海に多く行はれ、香川・兵庫・山口・徳島の四縣を主産地とし、坂出・赤穂・撫養・三田尻の鹽世に著はる。臺灣よりは天日製の鹽を産す。

工業 本邦人は手指の運用に巧にして、美術心に富み、精巧の物品を製出せしこと少なからざれども、小工業に止まり、其の産額甚だ少なく、單に内地の需要を充たすに過ぎざりしが、近來歐米に則り、器械力を使用せしより、長足の進歩を促し、製絲・紡績・織物・其の他の工場各地に起り、頓に盛況を呈するに至れり。蠶絲は産額二億二千萬圓中、生絲の産額二億一千一百餘萬圓に達し、殆ど其の全額を輸出し、本邦輸

織物産額(内地)

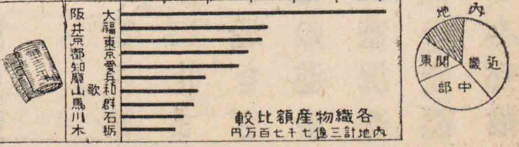
綿織物	一、八、八、八
絹織物	一、三、六、九
毛織物及其他	四、三、六
絹綿交織物	二、七、〇
麻織物及其他	四、六、七
交織物	二、六、六
織物種類	六、六
敷物段及其他	六、六
其他を合せ	三、〇、一、五

内地織物産額比較



出品中第一位を占め、長野・愛知・埼玉・群馬・山梨の五縣産額最も多し。紡績業も近來長足の進歩を招き、特に綿絲紡績は、常に内地の需要を充たすのみならず、遠く海外に輸出するに至れり、大阪・兵庫・愛知・東京・岡山等何れも大工場を建設して、之れが製造に従事す。織物業は工業中重要なるものにして、産額約三億八千萬圓に達す、綿織物最も多く、絹織物これに次ぐ、而して綿織物は大阪府を第一とし、愛知和歌山・三重・兵庫・東京・埼玉等之に次ぐ。絹織物は、福井縣を主位とし、京都・石川・群馬・新潟・埼玉の諸府縣之れに次ぐ。又近來造船製鐵

内地各織物産額比較



重要工産物産額 (内地)

肥料	四、九、四、三
機械製麥粉	三、三、三、九
木製品	三、三、三、九
燐寸	二、七、七、七
皮革製品	一、九、六、六
セメント	一、四、六、六
帽子	一、四、六、六
ゴム製品	六、六、〇
穀炭	六、六、〇
双物	六、六、〇
澱粉	四、七、一
菜種油粕	四、七、一
玩具	三、三、一

業の發達著しく、殊に造船業は官設のものを除き、長崎・神戸等に大規模の工場ありて、如何なる巨大の艦船をも製造す。其の他重要物産及び産出地を擧ぐれば左の如し。

品名	産出地方	品名	産出地方
菜種油	大阪・三重・滋賀・愛知	刃物	兵庫・新潟・大阪・三重
機械製麥粉	兵庫・東京・群馬・愛知	皮革製品	東京・大阪・廣島・京都
澱粉	北海道・大阪・千葉・鹿兒島	玩具	東京・大阪・愛知・神奈川
燐寸	兵庫・大阪・廣島・香川	セメント	福岡・東京・山口・大阪
製革	東京・大阪・兵庫・和歌山	穀炭	大阪・福岡・岩手・東京
肥料	東京・大阪・兵庫・北海道	ゴム製品	東京・兵庫・大阪
木製品	愛知・大阪・兵庫・廣島	帽子	東京・大阪・沖繩・神奈川

商業 我が國民は、古來商業を輕んじたるを以て、十分に發達せざりしが、明治維新より外國と貿易を開き、交通及び金融機關等の漸次發達するに従ひ、内外の商業次第に隆盛

に赴けり。

内國商業の大中心は、東京・大阪两市にして、名古屋・金澤・廣島・下關・福岡・熊本・仙臺・函館・小樽等は、各地方商業の中心地なり、これら本邦首要の市邑には必らず商業會議所・商品取引所の設あり。金融機關としては、全國に數多の銀行あり、就中、日本銀行は本邦金融の中央機關にして、中央金庫を管し、紙幣の發行權を有し、横濱正金銀行は外國貿易上の機關にして、海外諸國にも數多の支店を設く。我が外國貿易は、漸次隆盛に向ひ、今や内地のみの輸出入額は十八億圓を超へ、此の外臺灣一億圓、朝鮮一億圓に達せり。然れども輸出品の多くは、未製の原料或は半製品なるは遺憾なり。蓋し工業の一層發達進歩するに非れば此の弊を去る能はず。主要輸出品は生絲を第一とし、綿織絲・羽二重・銅・石炭・綿織物・精

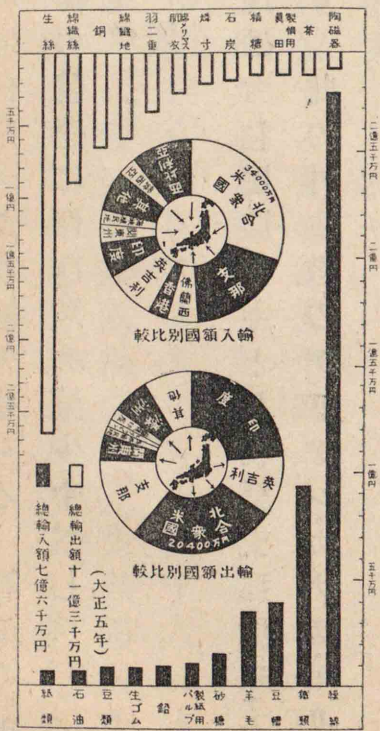
新版日本

新版日本

糖及燐寸等にして、主なる輸入品は、綿・鐵類・米・砂糖・豆・糟・羊毛・硫酸・アムモニウム・小麥・石油・毛織物等なりとす。

本邦に於ける開港場の數は約六十に達し、其の内、横濱・神戸の二港のみにて、輸出入貿易總價額の八割以上を占む、大阪・門司・四日市・長崎・清水等之に次ぐ。

外國貿易上我が重要なる取引先は、亞米利加合衆國と支那・印度とにして、英吉利・佛蘭西等がこれに次ぐ。我が生絲と茶とは主として米國に輸出し、綿は、印度・較比



油、麥粉は多く亞米利加合衆國より輸入せらる。石油の輸入は秋田縣黒川油田の發達に伴ひ漸次減少すべし。

第五章 住民

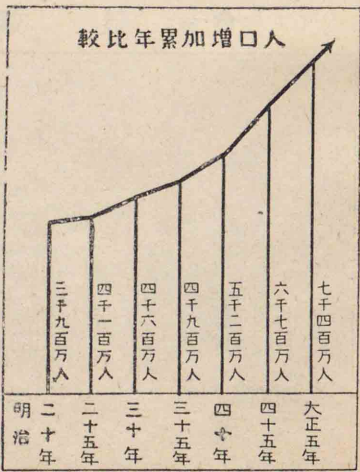
種族 本邦の住民は大和民族を主とし、朝鮮、支那、馬來、アイヌ等の諸種族あり。此の外少數のアリアン、カナカ、ギリヤーク、オロッコ等あり。

大和民族は、總人口中の大部分を占め、其の由來を知ること困難なれども、最も蒙古人種に近く、古來列聖の愛撫を蒙り、忠君愛國の精神に富む、然れども、小成に安んじ忍耐力に乏しきは遺憾なり。

人口 約七千四百萬人あり、此の中、大和民族五千五百萬人、朝鮮族一千六百萬、支那族約三百萬人、臺灣蕃族十三萬

人あり。一方里に居住する住民は平均約一千六百人の割合に當り、世界中人口稠密なる國の一に位す。且つ人口の増加頗る大にして、年年六十萬人を超ゆ、新領土への移住と海外への植民とは大に奨励せざるべからず。

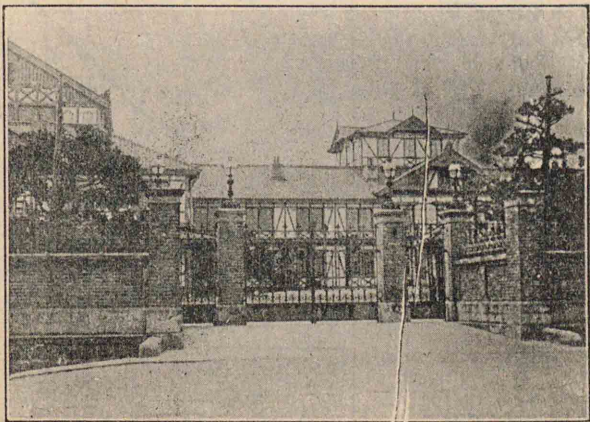
本邦人の海外に在留するもの約三十萬人ありて、亞米利加合衆國領の布哇、支那及亞米利加合衆國本土等に最も多く、近時南亞米利加の伯刺西爾に至るもの年年數千人に達し又南滿洲及び東蒙古に發展する餘地あり。又外國人の本邦に在留せるもの約二萬人あり、就中支那人最も多く、英米人これに次ぐ。



第六章 政治

國體 國家とは一定の土地に占居する民族の團體にして特に主權によりて統治せらるるものなり。我が大日本帝國は亞細亞洲の東部に占居し、開闢以來萬世一系の 天皇之を統治し給ひ、君臣の關係父子も雷ならず、これ我が國體の萬國に優れたる所以なり。

政體 我が國は明治二十二年、神武天皇紀元の佳節を以て憲法を發布し、立憲政體國と成れり。



新版日本

天皇は國の元首にして統治權を總攬し、憲法の條章に従ひて之を行はせ給ふ。又帝國議會の協賛を以て立法權を行はる、帝國議會は貴族院、衆議院の二より成る、貴族院は、皇族、華族及び國家に勳功あり、又は學識あるもの、多額納稅者等の議員を以て組織し、衆議院は、各地方より公選せられたる議員を以て組織す。

行政部は、中央政府に内閣及び内務、外務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、逓信の九省あり、内閣總理大臣は、各省に長官たる大臣と共に内閣を組織し、政務を執る。地方行政は、三府、四十三縣に知事、北海道と樺太とに長官、臺灣と朝鮮とに總督を置きて、部内の政務を行はしむ。又租借地、關東州には都督を置く。府縣は概ね市郡、沖繩は區郡に、郡は町村に分る、府縣の中重要な島には、島廳を置く。

司法部は、東京に大審院、全國に七箇所の控訴院を設け、各府縣に一箇所、北海道に四箇所、樺太に一箇所の地方裁判所を置き、且つ其下に約二百の區裁判所を置いて、司法事務を司る。又臺灣、朝鮮には、別に司法制度を設く。

兵備 帝國の男子は、滿十七歳より滿四十歳まで、兵役の義務を負ふ。兵役を分ちて、常備、後備、補充國民の四種とし、更に常備兵役を現役と豫備役とに分つ。

陸軍の配備は本土を十八師管に分ち、各師管に各一箇の師團を置き、尙此の外東京に近衛師團あり。又臺灣、朝鮮、關東州、支那には各守備隊を置く、朝鮮には尙二箇師團設置せらるべし。

表 備 配 團 師 各

師團	司令官所在地	師團	司令官所在地	師團	司令官所在地
第一	東京	第七	旭川	第十四	宇都宮
第二	東京	第八	弘前	第十五	豊橋
第三	仙臺	第九	金澤	第十六	京都
第四	名古屋	第十	姫路	第十七	岡山
第五	大阪	第十一	善通寺	第十八	久留米
第六	熊本	第十二	小倉	第十九	龍山
		第十三	高田	第二十	羅南

新版日本

新版日本

鎮海灣には未だ鎮守府を置かず、當分佐世保鎮守府をして之を兼管せしむ。

海軍は、帝國の海岸海面を五海軍區に分ち、横須賀、吳、佐世保、舞鶴、鎮海(當分これ)に鎮守府を置きてこれを管せしめ、又大湊、竹敷、馬公、永興、旅順の五港を要港とす。

財政 我が帝國の歳出は、約六億餘圓に達し、歳入亦之に等し。歳入の主なるものは、酒税、地租、郵便、其の他通信收入、印紙收入、關稅、所得稅、營業稅及び官業收入等なり。國債は、約二十七億圓に近く、その内、外債は約十四億圓あり。國民の負擔は、その富力に比すれば甚だ大なるものあり、されば、各勤儉業を勵み産を治め、以て國費の賦課に耐へ、以て國力の發展に留意せざるべからず。

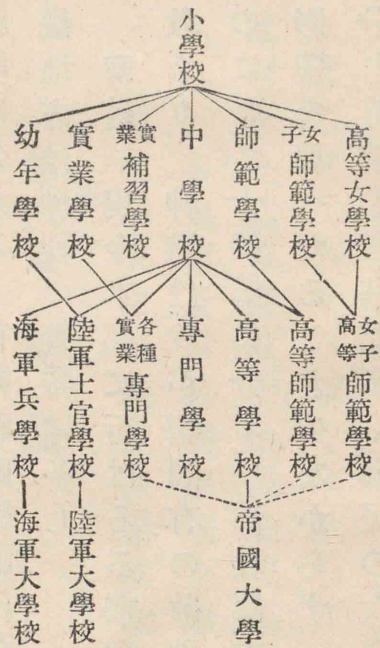
外交 現今本邦と條約を締結せる國は約二十ありて、世界の主要諸國を網羅せり。而して英、佛、露、伊、米の五箇國とは、互に大使を交換し、又支那、暹羅、瑞典、和蘭、白耳義、西班牙、瑞

西・墨西哥・智利の九箇國には我が公使館あり。條約國中我が國と關係の最も深き國は英・米・支那・露佛の五箇國にして、特に英國との同盟、佛・露・米三國との協約は、東洋平和のために最も大切なり。(獨・澳・洪兩國とは國交斷絶せしかども、平和克復の期遠からざるべく、國交再び回復し、舊時の如く親交となるべきや必せり。)

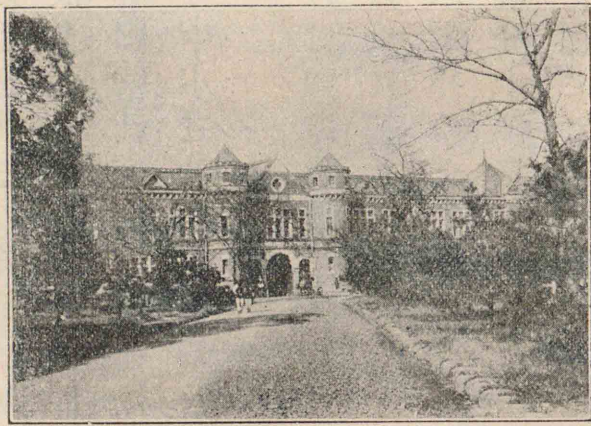
第七章 教育神社宗教

教育 教育は、其の機關よく備はり、初等教育には、内地に約二萬六千の小學校ありて、不就學者極めて少し。中等教育又盛大となり、數多の中學校・高等女學校・實業學校等あり。高等教育を施す學校には、東京・京都・九州及び東北の四帝國大學、東京・仙臺・京都・金澤・熊本・岡山・鹿兒島・名古屋の八高等學

- 内地各學校 (私立ヲ除ク)
- 帝國大學 四
 - 高等學校 八
 - 高等商業學校 五
 - 醫學專門學校 八
 - 高等工業學校 六
 - 高等師範學校 (男女) 四
 - 中學校 三九
 - 師範學校 九〇
 - 高等女學校 三〇六
 - 農學校 三三
 - 商業學校 一〇八
 - 工業學校 三三
 - 水産學校 二
 - 商船學校 二
 - 農業補習學校 八四七九
 - 商業補習學校 三三
 - 工業補習學校 一七
 - 水産補習學校 一七
 - 小學校 二五七〇八
 - 盲啞學校 五



東京帝國大學



校及び商業・工業・醫學・鑛山・蠶業、其の他數多の専門學校等あり。私立大學の數亦多く、何れも専門の學術を教授す。女子教育の機關もよく整備せり。又教員養成の爲めに東京・廣島に高等師範學校、東京・奈良に女子高等師範學校、各府縣に師範學校あり。又軍人教育の機關に

は陸海軍大學、海軍兵學校、陸軍士官學校等あり、又圖書館、博物館等亦少なからず。

内地の神社數	一
神宮	一
官幣大社	二
官幣中社	三
官幣小社	四
別格官幣社	五
國幣大社	六
國幣中社	七
國幣小社	八
府縣社	九
郷社	一〇
村社	一一
境外無格社	一二
七、七、五、一	

神社 我が國民は、古來天神地祇及び歷代貴顯の御靈を神として尊び、國家に殊勳を建てし人士を祀るの美風ありて、神社の數甚だ多く、特に伊勢神宮は上下の尊敬最も厚し。その他社格により、官幣社、別格官幣社、國幣社、府縣社、郷社、村社等に分たる。官幣社、國幣社は各、大、中、小、三種に分る。近畿地方は神社の數特に多し。

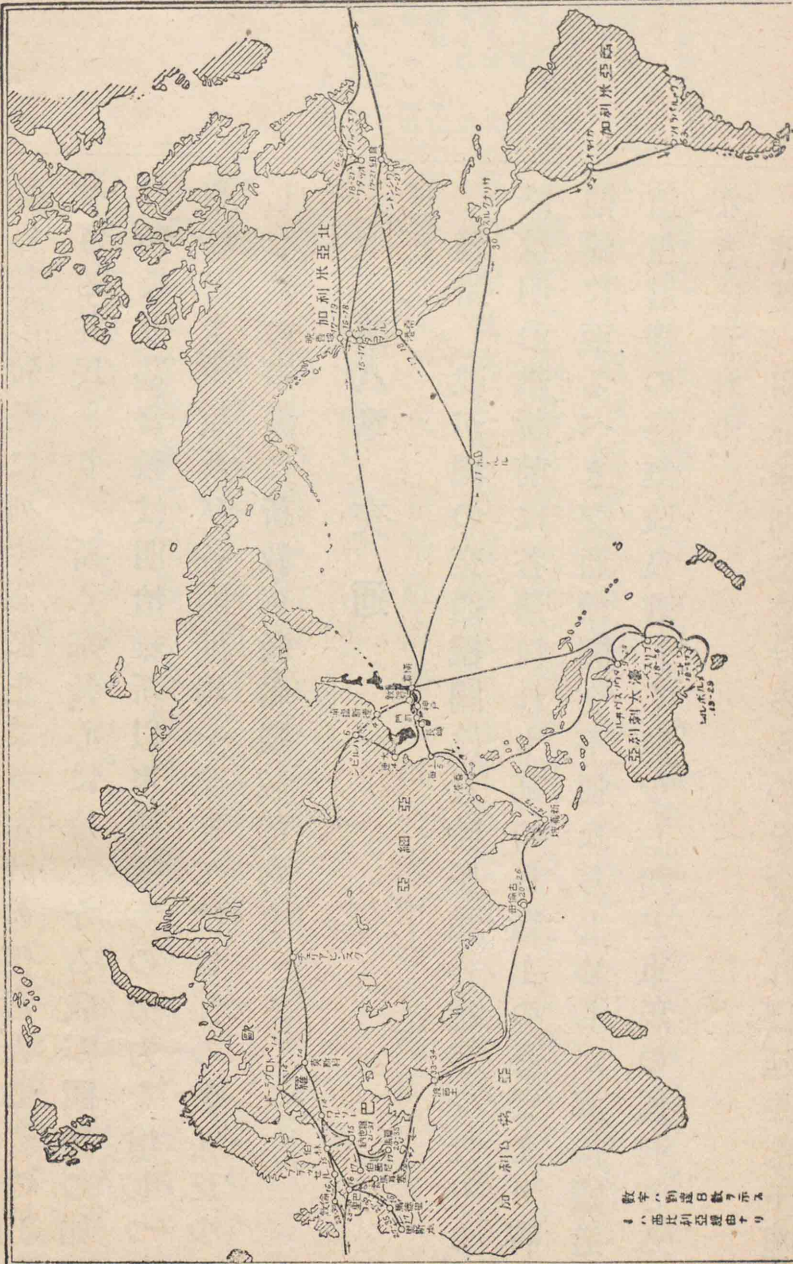
宗教 現今本邦に行はるる宗教には、神道、佛教及び基督教あり。神道は、我が國固有の敬神の風に基きて起れるものにして十餘派に分る。佛教は、古來本邦の文化、風俗等に影響を與へたること少なからず。現今十餘宗五十餘派に分れ、寺院の數甚だ多く、國民の大部分はこれを信奉すと雖

も、只其の教派に列するに止まり、宗教の何者たるかを理解せざる住民あり。斯く宗教心に冷淡なる我が國民の如きは稀なり、基督教は、明治維新以來、漸次その勢力を増しつつあれども、東京及び各開港場を除きては、信徒の數甚だ少なし。其の宗派に新教、舊教、希臘教等あり。

第八章 交通

陸路 我が國の交通機關は、近時長足の進歩をなせり、道路は明治維新前は各藩何れも其の自衛上の必要より特に他藩に至るべき交通機關を不便ならしめしが、爾後國道、縣道、里道等の修築改良著しく進歩し、殆ど車馬の通ぜざる處なきに至れり。

鐵道 朝鮮、滿洲に於けるものを合すれば、延長七千哩を



本邦より郵便の到達日数、数字は日数を示す

新版日本

超ゆ。本州・九州・北海道・臺灣の四大島及び朝鮮には鐵道の幹線通じ、これより數多の支線を分ち、各幹線鐵道相互間の連絡機關もよく整頓せり。又近時實業の勃興と共に水力の利用大に起りて、水力電氣事業の發達を促し、之れが爲めに電車鐵道の敷設も漸次隆盛となり、著名の都邑は勿論、各遊覽地等に至るまで之が敷設を見るに至り、沖繩本島に於ても已に開通するに至れり。電車及び汽車の開通せざる地方に於ける自動車の發達も大に注目すべし。

航路 我が國の河湖運河は何れも小なれども、海岸線は屈曲に富み、良港に乏しからざるを以て、沿岸航路は古より開け、足利氏の末葉航通業發達の曙光を認めしも、徳川時代に於て大船の建造を禁止したれば、海運業茲に頓挫し、永く不振の状態に陥りたり、其の大に發達して世界に濶歩す

新版日本

るに至りしは近來の事なりとす。

水路交通の二大中心地は横濱及び神戸の二港にして、長崎・門司・大阪及敦賀等これに次ぐ、而して朝鮮郵船會社の船舶は朝鮮各港に活動し、日本郵船會社は横濱・神戸を中心として、内國及び東洋各地への航路の外、濠洲線・歐洲線・米國線等の航路を營み、大阪商船會社は大阪を中心とし、内地・支那・米國等と航路を開き、又東洋汽船會社は香港・北米・南米の航路を有し、日清汽船會社は支那の揚子江流域に活躍せり。尙露國の義勇艦隊其他歐米各國の船舶中本邦に寄航するもの多し。

郵便 本邦の郵便は、徳川時代に於ては大名・私人等の飛脚制度なりしが、明治四年政府は東京・大阪間に信書を往復せしに創り、爾來次第に改良を計り、今や如何なる寒村僻地

と雖も信書の通ぜざる處なく、其の發達普及實に世界無比と稱せらる。又既に明治八年萬國聯合郵便條約にも加盟せるを以て、各加盟國相互間とは、信書の往復自國內に於けると大差なく、今や郵便事業は全く國境を無視するに至れりと謂ふべし。

電信 明治二年、本邦に之を設置してより、既に内地は勿論、新領土の都邑に至るまで、之が普及を認むるに至り、又明治十二年萬國聯合電信條約に加盟せり。されば爾來各加盟國間とは任意に信を通ずべし。

海底電線は支那及び浦鹽斯德に通じ、近時東京より小笠原島を経て、亞米利加合衆國の架設せる太平洋海底電線に接続し、以て同國桑港及び布哇等と直通するに至れり。無線電信は其の發明以來長足の進歩を遂げ、其の利用益、

大となれり。其の効力は近時の戦役に於て海陸共に多大の便益を認識せられたり。我が國に於ても、北海道の落石本州の銚子・船橋・潮岬・角島、九州五島の大瀬崎及び臺灣北部の富基角等に其の局を設け、遠き海上を航行する艦船と自由に通信するのみならず、船橋に於けるものは布哇・桑港其他と通信すべし。又艦船相互間に於ても遺憾なく之を利用しつあり。

電話 明治十年、始めて東京横濱間に架設せられ、之が通話を試みたるに由來し、爾來各市街地及び其の相互間に發達し、特に市街地には今や殆ど其の設けあらざるなく、又これら主要の都邑間には長距離電話を通じ、其の通話極めて便利となるに至り、利用甚だ大なり。

無線電話も既に理論の域を離れて多少實用に供せらる

るに至れり。

以上本邦の各通信機關に就き之を十數年前に比較する時は、殆ど隔世の感あり、特に無線電信及び電話に於て然りとす。

結 論

島地は大陸と隔絶し、其の影響を蒙ること少なければ、内に任意の發達を遂ぐるを得べし。我が大日本帝國は斯る天與の適地を占め、其の國民は至仁なる 皇室を戴き忠實勇武にして結合力強く、其の發達の極屢、海外に手足を展ばし、或は神功皇后の三韓征服となり、或は阿部比羅夫の北地遠征となり、或は八幡船の東洋侵略となるに至れり。只徳川幕府の初期に於ける耶蘇教徒の行動は政府をして鎖

國の禁令を布くに至らしめしも同幕府の中葉以後泰西文運の風潮次第に波及し、ここに全く覺醒せられて、明治維新の大業を完成し、國運次第に發達し、次で南方の臺灣島を併せ、北方の樺太島南半部を回復し、西方の朝鮮半島を容れ、關東州を租借し、其の驥足南滿洲・東蒙古等に及び、輓近の戰役に膠州灣を略し、餘勇南洋に波及するに至れり、又航海貿易大に發達して海洋を威壓し、國威日に揚り、國光長へに輝き、今や世界列強の伍班に列し、敢て遜色なきに至れり。而して上には萬世一系の皇室を戴き、陛下の斯民を愛撫せさせ給ふこと骨肉も替ならず。されば臣民たるもの貴賤男女の別なく、協力同心各、其の業を勵み、國家の隆興と民衆の發展とに努め、以て至尊の大御心に答へ奉らざる可からず、これ我が國民の寸時も忘る可からざる義務なり。陛下

新版日本

新版日本

の赤子たる臣子の本分なり。臣民たるもの豈努めざる可けんや。

新 地 理 日 本 終

大正六年十二月二十七日訂正四版印刷
大正六年十二月二十日發行
大正四年九月二十六日印刷
大正四年九月二十九日發行
大正四年十月二十六日訂正再版印刷
大正四年十月二十六日發行
大正六年九月二十八日訂正三版印刷
大正六年十月一日發行

大正四年九月二十六日印刷
大正四年九月二十九日發行
大正四年十月二十六日訂正再版印刷
大正四年十月二十六日發行
大正六年九月二十八日訂正三版印刷
大正六年十月一日發行

大正六年十二月十七日訂正四版印刷
大正六年十二月二十日發行

大正九年度
臨時定價
金壹圓貳錢

中學校用
新地理日本全
定價金六拾錢
大正七年度
臨時定價金六拾九錢

著者 小林房太郎

發行者兼 小林竹雄
東京市神田區美土代町二丁目一番地

印刷所 文學社工場
東京市本所區南二葉町三十七番地

東京市本所區南二葉町三十七番地

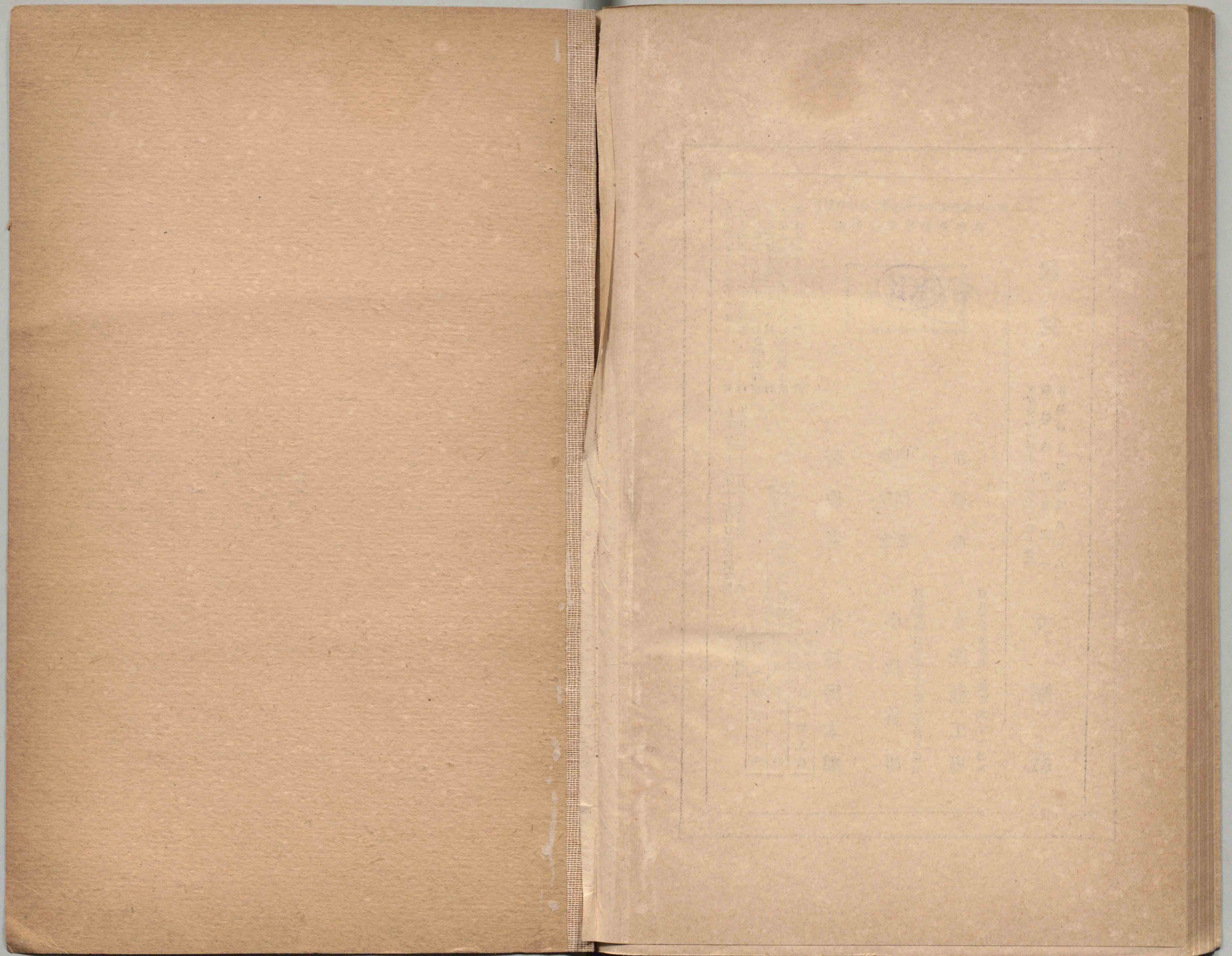


發兌

東京市神田區美土代町二丁目一番地
電話 神田三三五
振替貯金口座三八七八

文學社







文庫

17

203

広島大学図書

2000024203

